

Keio University



2017 年度慶應義塾大学経済学部 第2回入ゼミ説明会

目次

- p.2 経済学部 学習指導主任 挨拶
- p.3 経済学部ゼミナール委員会 委員長挨拶
- p.4 全塾ゼミナール委員会 委員長挨拶
- p.5,6 研究会とは
- p.7,8 経済学部ゼミナール委員会とは
- p.9 ゼミ選びにおける三田祭の活用方法
- p.10-12 全塾ゼミナール委員会とは（業界講演会について）
- p.13,14 分野別研究会総覧
- p.15~ 各研究会紹介

第 2 回ゼミ説明会に寄せて

経済学部学習指導主任 川俣 雅弘

研究会は、みなさんにかけてあげない機会を与えてくれます。それは以下の点に現われてきます。

第 1 に、自分自身で能動的に学ぶ機会を得られます。大学ではさまざまな分野における高度な知識を身につけなければなりません。それ自体が非常に大変であることは、みなさんもすでに強く実感していることと思います。しかしせっかく大学に進んだからには、そうして得た知識も生かしながら、自分自身で問題を見出して課題を設定し、文献・資料を見つけ、自分自身の結論を出す、そうした経験をぜひ積んでください。研究会での三田祭論文や卒業論文の作成は、その絶好の機会となります。研究会は、みなさんの取り組み次第で、オリジナルな知的経験を作り出す、貴重な場となりうるのです。

第 2 に、能動的に研究をするプロセスで試行錯誤を繰り返せる機会です。自分でテーマを選び問題を設定するまでには、たいてい、想定外の高いハードルがいくつもあります。通常科目のレポート課題や試験問題には基本的に模範解答の存在が想定されていますが、みなさんが社会に出てから直面する問題には解答がないかもしれませんし、問題があることは直感的に感じられてもそれがどういう問題であるかを認識すること自体がとても難しい、ということがよくあります。そうした事態に対処できるようになるためには試行錯誤を繰り返し、経験を積み重ねる以外に方法がありません。研究会では、卒論や三田論を完成させるまでに、自分次第で何度でも担当教員に提出し、その指導を受けては改善し、最終的にこれで OK というお墨付きをもらうプロセスを実体験することになります。それは、自身による能動的な取り組みを基本としつつも、教員とのキャッチボールで学問的な成果を達成していくプロセスです。それは換言すれば、授業で提供されたヒントにもとづいてそつなく解答を仕上げるクレーバースを發揮することとはまた別の、むしろ失敗を恐れずやってみる勇気を持ち、失敗を重ねて成功への糧とすることのできる自分を発見するプロセスとなることでしょう。

第 3 に、研究会では、能動的な知的経験を同期のゼミ生を中心とした学生同士で共有する機会も得られます。三田祭論文は、その好例といえるでしょう。試験の準備をクラスの友人等と行なうこともあるでしょうが、この場合は、担当教員によって定められた問題とその正解をみながで見つけることが実質的に唯一の目的となります。研究会での共同作業は、自分たちで問題を定め、自分たちの答え・結論を求める作業です。時に意見をぶつけあいながら準備することはたしかに大変です。全員一致の結論を得られない場合があるかもしれません。しかし、困難のなかでも結論を得ようと試行錯誤するプロセスが、将来にも有益な、貴重な経験となり、そうした経験を共有した仲間は大切な存在となるはずです。

どうかみなさんが、こうしたかけがえのない機会を経験し、三田での充実した日々を送られることになりまよう、大いに期待し、祈念しています。

経済学部ゼミナール委員長より

経済学部 3 年
金子勝研究会 杉山卓人

秋風が冷たく感じるようになってきた今日この頃です。2 年生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。第一回の全体説明会で、ゼミに入らなかった人達がどのような生活を送っているかを次回の説明会で話すと約束したのですが、第二回で全体会を行わないことになってしまい申し訳ないです。代わりにこの挨拶分で軽く話したいと思います。自分がゼミに入っている立場でこんなことを分かったつもりになって語る資格があるのか些か抵抗はありますが、あくまで主観だと皆様には理解していただいて筆を進めたいと思います。

三田で初の春学期成績発表も終わり、試験に関して言えば肌感として三田の試験は日吉以上の情報戦であった気がしています。しかしゼミ所属の有無で試験結果はそれほど変わりません。仲の良いクラスの友達や同じサークルの先輩に助けられているといった印象で思ったより情報量に差はないです。就活においても有利不利があると思われがちですが、ゼミで何をやったか聞かれることはありますがゼミ以外に頑張っていたことがあれば問題ありません。

結論としてノンゼミであることは問題ではなく、むしろゼミに入れなかった事をいつまでも引きずって何もしていない状態に問題があるということでしょう。もっと具体的な話を聞きたかったという人は是非経ゼミブースにいらして下さい。ノンゼミになる主なパターンとして A 日程及び B 日程で倍率の高いゼミを受けた人・あまりゼミを調べず A 日程に落ちて B 日程で何も対策できなかった人・元からゼミ以外にやりたいことがある人・そもそも興味のない人がいると思います。このページを読んでいる人で可能性があるとなれば最初の二つでしょうが、どうしてもノンゼミになりたくないと思うならば必要なのは準備と対策、それに尽きると思います。

皆さんがどのような目的でゼミに入ろうとしているかはそれぞれだと思いますが、後悔しない選択肢をできるように願いながら、以上で挨拶とさせていただきます。

全塾ゼミナール委員会委員長より

全塾ゼミナール委員会委員長
商学部商学科 井口知栄研究会
八木 洋樹

皆さんが慶應義塾大学へ入学して、早くも二度目の夏が過ぎようとしています。日吉での生活にも慣れ、充実した日々を過ごしていることでしょう。春に行われた入ゼミ説明会から4ヶ月が過ぎ、三田での生活を思い浮かべることが多くなったことと思います。

春の挨拶では、ゼミを選ぶにあたって、将来のありたい姿を想像し、三田での生活に思いを馳せることを上程させていただきました。この度は、「選択肢のひとつとして」の研究会の魅力について述べ、挨拶とさせていただきます。

研究会について考えるにあたって、二年生の皆さんに考えていただきたいことがあります。それは、「限られた時間のなかで、自分自身が何をどのように選択し、意思決定していくのか？」ということです。中学校や高校までとは異なり、大学では各自の責任の上で、自分自身の生活に裁量を持たせることができます。自由である反面、自分自身の選択に対して責任をとってくれる人は少なく、大変な面も多いことでしょう。

では、残された大学生活において、どこでどのようなことができるのでしょうか。大学設置の研究所、部活、サークル、ダブルスクール、長期でのインターン、アルバイト等様々な選択肢が与えられています。研究会もその一つです。

多くの皆さんにとって、研究会は三田での生活の主軸となることでしょう。研究会とは皆さんがその道の第一線で活躍されている一流の教授陣に非常に近い距離で、直接ご指導頂ける場であり、書物では得ることのできない「生きた知」を直接得られる大変貴重な場です。また、新たなコミュニティとなり、在籍する同期、先輩方は、学生生活、ひいてはその後の人生において非常に重要な存在となることでしょう。各々が主体性を持った学生の間である研究会は、互いの存在そのものが刺激となり、そのような友人達と問答し、議論し、共に学ぶことを通じて互いに切磋琢磨し、成長することができるでしょう。

各学部のゼミナール委員会では、各学部の研究会情報を中心に、皆さん自身の意思決定の判断材料となる情報を提供していきます。そして、私達全塾ゼミナール委員会では、皆さんが夢中になって全力で取り組むことのできる、最高の環境を選択することができるように、学部の壁を越えた研究会選びをもサポートしております。他学部のコミュニティに飛び込むことへの不安もあるかと思いますが、他学部の研究会に興味のある方は、全塾ゼミナール委員にお気軽にご相談ください。具体例も交えた詳しい話をお聞かせできます。

全塾ゼミナール委員一同、皆さんがベストな環境で残りの二年間を過ごすことができるよう、誠心誠意お手伝いをさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

研究会（ゼミナール）とは

これから2年生の皆さんが志望を検討する「研究会」（ゼミナール）は、担当の教授の下で2年間に渡り専門的な研究、学習を行う三田ならではの専門教育課程です。慶應義塾大学経済学部のカリキュラムの中では研究プロジェクトやPCP、少人数セミナーと並び、少人数制の特色ある教育として挙げられています。また三田での生活は日吉での生活とは多少趣が変わり、ゼミナール活動が学習と生活の中心となるという学生が多くなるのも特徴です。この冊子をよく読み、ゼミ選びの参考としてください。以下は研究会（ゼミナール）の特徴となります。

1. 少人数制であり、選考試験がある

各研究会には定員数が設けられており、授業は少人数制です。学生同士、そして学生と教授の距離が近いことが特徴と言えます。研究会は必修科目ではなく、また少人数制で履修生に限りがあるため、入会に際し選考試験があります。入ゼミ説明会の個別ブースなどで情報を収集し、準備はしっかりと行うように心がけてください。

2. 分野に特化しており、2年間に渡り履修をする

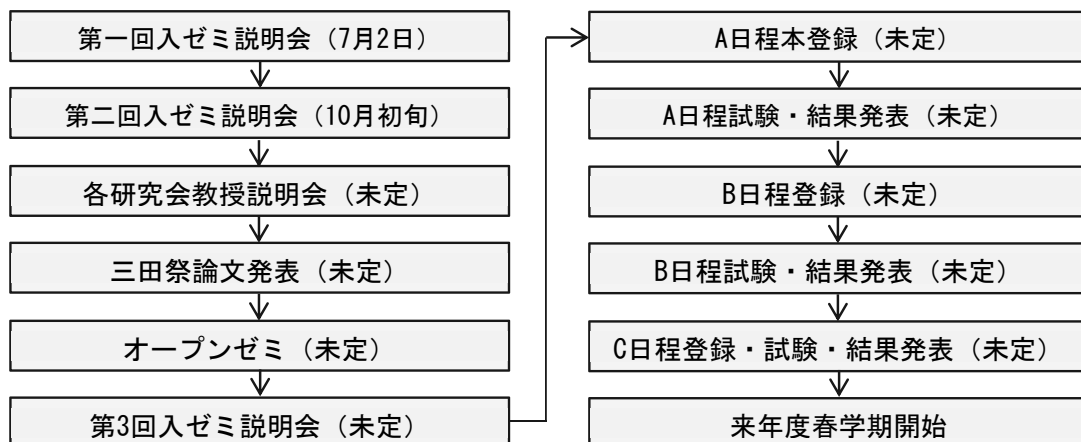
各研究会にはそれぞれ専攻分野があり、自分の興味や関心のある内容をより深く学ぶことが可能です。基本的に2年連続で同じ研究会に所属・履修し、第3学年末に4単位、第4学年末に8単位を取得することになります。研究会必修科目ではなく、三田で履修することができ「専門教育科目」の中の「特殊科目」にあたる専門科目となります。

3. 4・5限にある研究会が多く、その時間の多講義が少ない

研究会の特徴からは少し離れますが、三田での生活についてです。三田の時間割を見たことがある方はさほど多くはないかと思います。三田で履修する科目のほとんどが日吉で学んだ経済学をさらに発展させた内容となる「専門教育科目」となります。その専門教育科目の講義型科目を担当している教員の方々が研究会を受け持っています。その研究会が4・5限に集中しているため、三田の通常講義の時間は1限から3限に非常に集中しています。ゼミによっては個別ゼミ必修科目を設けている場合がある為、自然と研究会中心の生活になる学生が多いようです。

☑ 入ゼミスケジュール予定 (参考)

* 詳細な入ゼミスケジュールは当冊子作成段階では未定となっています。判明次第Webで発表します。

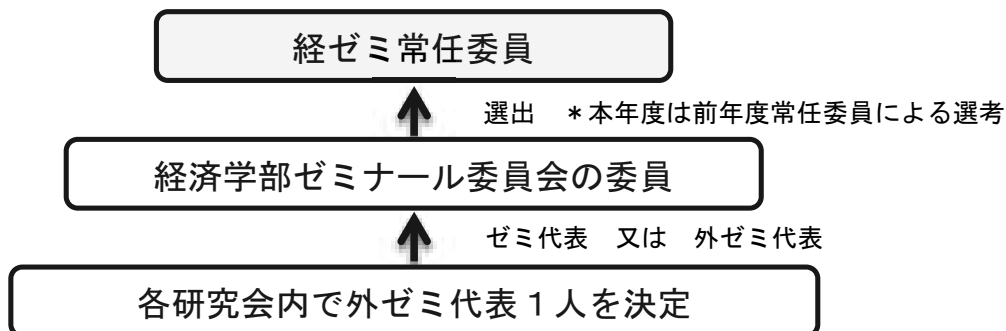


経済学部ゼミナール委員会とは

経済学部ゼミナール委員会（略称：経ゼミ）は、慶應義塾大学経済学部設置されている各研究会より1名ずつ選任されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。慶應義塾大学の「上部団体・福利厚生等団体」に所属する団体となります。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約1000人弱います。この多くの人数を抱えた経済学部の各研究会間の親睦を図り、諸問題を解決し、入ゼミや三田祭論文発表などの各種企画行事を開催しています。そして経済学部から慶應義塾の興隆に寄与することをその目的としています。入ゼミは単位に関わるものでもあり、学事センターが管理していると思われがちですが、説明会や試験も学生の代表である経ゼミが学事や教授と協力の下、運営管理している点が特徴です。

☑ 経済学部ゼミナール委員会 構成

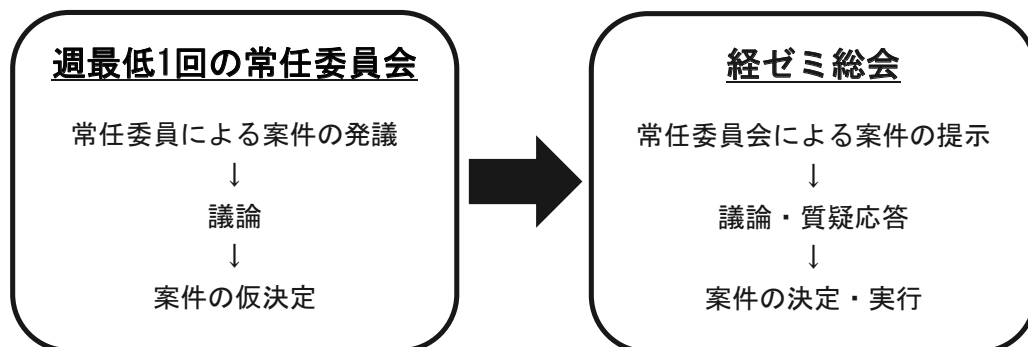
- ・会長 : 川俣 雅弘教授
- ・構成員 : 経済学部各研究会からの代表者
- ・常任委員: 構成員の中から選出された15名



☑ 経済学部ゼミナール委員会 目的・意義

- ・経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。
- ・経済学部の研究会相互間の親睦を図る。
- ・月1回、全構成員による総会を開く。
- ・週1回、常任委員による常任委員会を開く。

☑ 経ゼミ総会と常任委員会の現在の関係

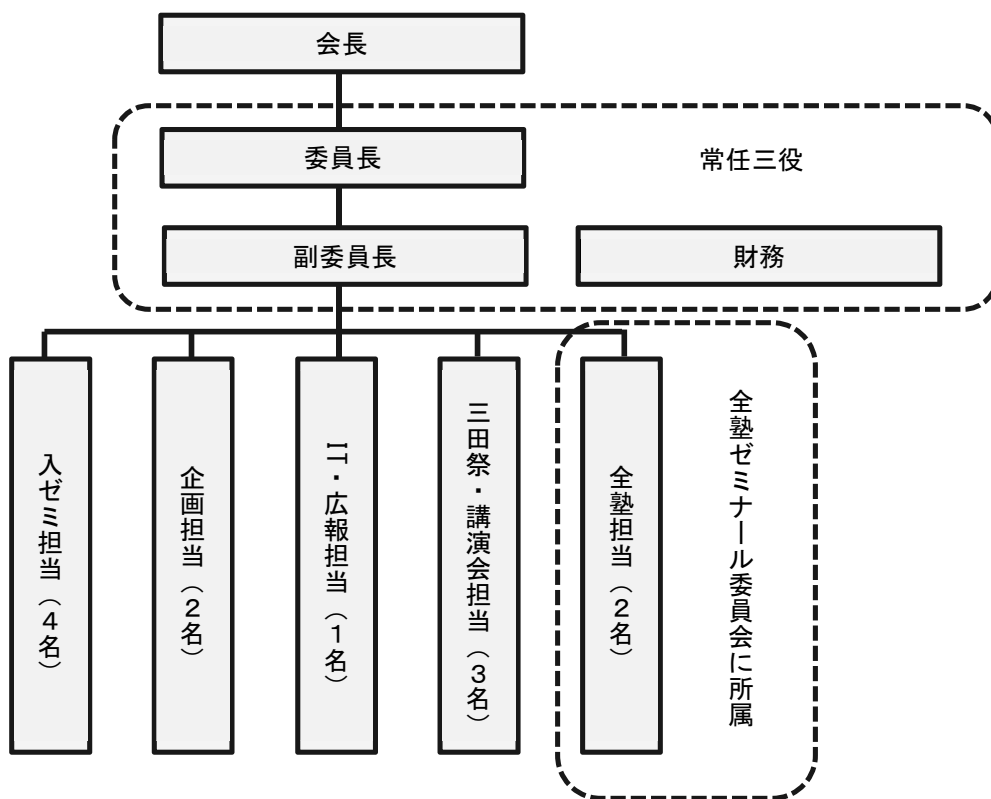


☑ 経ゼミは何をしているのか

- ・入ゼミの運営、開催（説明会の実施、資料作成、オープンゼミなどの実施、試験の管理）
- ・各研究会の三田祭における論文発表の場所確保、運営
- ・ゼミ内ゼミ間親睦の為のソフトボール大会など企画の運営
- ・各種講演会の企画、運営
- ・研究会活動の促進の為の問題提議と解決

☑ 経ゼミ常任委員とは

各研究会の外ゼミ代表より組織される経済学部ゼミナール委員会の委員から、それぞれの役職を持った常任15名が選出されます。それぞれの担当が経ゼミ内の企画の仕事に責任を持ち、活動しています。伝統を守り、数多くのルーティンワークをこなしながら新しい企画の導入も検討し、現状の活動に問題がないかを常に考えていく姿勢が求められます。



経ゼミの常任委員になりたいという方は、まずは各ゼミの外ゼミ代表を目指してください。

経済学部ゼミナール委員会ではウェブサイトでの告知を強化しています。

入ゼミ関連情報を掲載中です。

経済学部ゼミナール委員会ウェブサイト：<http://keizemi-keio.com/>

経済学部ゼミナール委員会Twitter：@keizemi2016

経ゼミに興味がある方、質問等は経ゼミブースへ

また、入ゼミに関するお問い合わせ等は、keioecon.nyuzemi2016@gmail.comまで

ゼミ選びにおける三田祭の活用方法

研究会に入りたい2年生の方へ 三田祭論文のブースを上手く活用しよう！！

経済学部 三田祭論文コンクール

日程 11月17日(木)～11月20日(日)

〇〇ゼミは実際にどんな勉強をしているの??

ゼミ説明会が混んでいて
ゆっくり話を聞けなかった
...

困ったら三田祭論文のブースに行きましょう!!!

そもそも三田祭論文って
どんな感じ??

〇〇ゼミの先輩にいい印象を
もってもらいたいな...

※三田祭論文とは？

各研究会が研究を進め、三田祭で論文を発表することです。また、三田祭論文コンクールとは慶應義塾大学内で最大規模かつ、多くの研究会が一堂に会し論文を発表する貴重な場でもあります。

※各研究会のブースに行くと・・・

- ・自分の行きたい研究会が実際にどのような勉強をしているのか知ることができる！
- ・常に研究会員がブースに待機しているので説明会以上に詳しい話をゆっくり聞くことができる！
- ・活動内容を掲示しているゼミが多くあるので、実際に活動の内容を知ることができる！

各研究会の三田祭論文について助教授に査定していただき、金賞・銀賞・銅賞を優秀な論文を残したゼミに与えるコンクールです。ゼミ選びの一つの指標として参考にしてください。(2015年度資料)

・金賞 石橋孝次研究会 国内航空市場の経済分析 -LCC 参入が利用者便益と競争形態に与える影響- 星野崇宏研究会
階層ベイズ条件付きプロビットモデルによる消費者選択行動の解析

-個票データとマルチソースの時系列データを統合して-

・銀賞 玉田康成研究会 投資信託を当たり前に - これからの日本を見据えて - 飯田恭研究会 16～

19 世紀における有機肥料供給システムの推移 - 農地改良の日欧比較史 -

・銅賞 河端瑞貴研究会 避難所アクセシビリティを利用した越境避難の有効性 駒形哲哉研究会 日系中

小製造業の中国における持続的発展 - 中国拠点における人材の重要性 -

全塾ゼミナール委員会

【委員会構成】

全塾ゼミナール委員会は慶應義塾大学の公認団体であり、200 余りのゼミから成る各学部 of ゼミナール委員会を統括し研究会活動に関する学生自治を任されています。当委員会は、下記の 6 つのゼミナール委員会からそれぞれ選出された 10 名により運営されています。

経済学部・商学部・法学部法律学科・法学部政治学科(各 2 名)

文学部人文社会学科社会学専攻・文学部人文社会学科人間科学専攻(各 1 名)

【意義】

本会は、各委員会に所属する研究会生の学術的活動並びに友好的交流支援により他学部他学科間の相互理解・相互連携を通して慶應義塾大学のアカデミズムの興隆に寄与することを目的とする。

(全塾ゼミナール委員会規約第 1 章第 1 条より)

【主な活動内容】 他学部入ゼミ支援

6 月中旬より、2 年生に対して各学部で入ゼミ説明会が行われます。学生は基本的に所属する学部のゼミに入会しますが、一部他学部生の入ゼミを受け入れているゼミがあります。そこで、学部を超えてのゼミの情報収集の負担を軽減すべく、全塾ゼミナール委員会が情報提供をサポートします。具体的には各学部の入ゼミ説明会でブースを出展、他学部入ゼミ説明会の開催、他学部入ゼミ冊子の作成、Twitter、Facebook ページ、ホームページを通じて支援いたします。

業界講演会

塾生の皆さまが将来の進路を決定する際の一助となれるよう、多岐に渡る業界で活躍する OBOG の方々の講演を、企画・運営しております。毎年秋学期に開催しており、本年度も皆様からアンケートに基づき講演会の企画を進めております。

全塾ソフトボール大会

毎年、各学部でソフトボール大会が行われます。上位に残ったゼミが、学部を超えて対戦するのが全塾ソフトボール大会です。この大会の企画運営を行います。本年度も 6 月中旬に実施予定です。

- ・全塾 HP : <http://www.zenjuku-seminar.com>
- ・Twitter : @zenjuku_keio(全塾ゼミナール委員会)
@zenjuku_nyuzemi(全塾ゼミナール委員会 他学部入ゼミ)
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/zenjuku.nyuzemi/>
- ・問い合わせ : zenjuku.seminar.nyuzemi2016@gmail.com

他学部入ゼミについて

全塾ゼミナール委員会では、学部を超えて他学部のゼミで学びたいという意欲的な方を応援しています。下記に各学部の入ゼミの簡単な予定と FAQ を載せておきますので、興味のある学部の説明会に足を運んでみてください。詳細は全塾HPに随時掲載致します。

	文学部 人間科 学	文学部 社会学	経済学 部	法学部法律学科	法学部 政治学 科	商学部	他学部 入ゼミ
第二回 説明会	11月下 旬	11月1 週目	10月 15日	9月28日	10月2 週目	10月 8日	10月 22日
第三回 説明 会	なし	なし	1月中 旬	10月5日 10月 7日	なし	1月中 旬	三田祭
試験	1月下 旬	12月初 旬	3月初 旬	11月下旬	2月初 旬	3月中 旬	—

* 上記は現段階で各学部ゼミナール委員会が発表しているものであり、今後日程が変わる場合があります。詳しくは、各学部ゼミナール委員会のHP等で日程をご確認ください。

FAQ

Q.他学部のゼミに所属することはできるのでしょうか？

A. 入会したいゼミが他学部生を受け入れており、入会課題や面接などを受け、入会を認められた場合、他学部のゼミに所属することが出来ます。他学部入ゼミは基礎学力の違い、単位上の問題などある程度のリスクを伴うものです。しかし、全塾ゼミナール委員会は他学部のゼミを志望する学生に情報提供し、サポートを行っていきたく思いますので、どんな些細なことでもお気軽にお尋ねください。

Q.全塾ゼミナール委員会ではすべての学部・学科のゼミに関して相談に乗ってもらえるのですか？

A. 当委員会は、慶應義塾大学の三田キャンパスに所属する 6つのゼミナール委員会（経済学部、商学部、文学部人文社会学科社会学専攻、文学部人文社会学科人間科学専攻、法学部法律学科、法学部政治学科の各ゼミナール委員会）から 2人ずつ（文学部は 1人ずつ）選出され、計 10人で組織されています。そのため、上記以外の学部・学科については情報を提供できません。湘南藤沢キャンパス(SFC)、理工学部、医学部はもちろんですが、文学部教育・心理・美術その他専攻もこれに当たります。これらのゼミに興味のある方は直接そのゼミに連絡をとっていただくことになります。

Q.自分の所属している学部のゼミと他学部のゼミの両方に所属することは可能ですか？

A. 可能です。ただし、2つのゼミを受験され両方入会を許可された場合、片方を辞退するという行為は極めて失礼にあたるため、必ず両方に所属し、全うしていただくようお願いいたします。ゼミの活動は、予想以上に内容の濃いものです。時間的拘束など、複数のゼミに所属するメリット、デメリットの両方を熟考の上、後悔しないゼミ選びをして下さい。

業界講演会のご案内

★時間:18:30～20:00

(詳しい時間はパンフレット参照)

★場所:三田キャンパス 南校舎ホール

★日程

●10月4日(火)

銀行業界 三菱東京UFJ銀行様

●10月5日(水)

金融業界 ゴールドマンサックス様

●10月6日(木)

経営コンサル業界① ベイン・アンド・カンパニー様

●10月7日(金)

証券業界 野村証券様

●10月11日(火)

生命保険業界 日本生命様

●10月12日(水)

新聞業界 日本経済新聞社様

●10月18日(火)

旅行業界 JTB様

●10月19日(水)

教育業界 ベネッセコーポレーション様

●10月25日(火)

広告業界① 電通様

●10月26日(水)

航空業界① 全日本空輸様

●10月27日(木)

損害保険業界 東京海上日動様

●11月8日(火)

化粧品業界 日本ロレアル様

●11月9日(水)

総合商社業界① 三井物産様

●11月22日(木)

信託銀行業界 三井住友信託銀行様

●11月24日(木)

海運業界 日本郵船様

●11月29日(火)

出版業界 講談社様

●11月30日(水)

食品業界 味の素様

●12月1日(木)

総合商社業界② 三菱商事様

●12月6日(火)

経営コンサル② 野村総合研究所様

●12月7日(水)

不動産業 三菱地所様

●12月8日(木)

飲料業界 サントリー様

●12月9日(金)

鉄道業界 東急電鉄様

●12月13日(火)

映画業界 東宝様

●12月14日(水)

広告業界② 博報堂様

●12月15日(木)

テレビ業界① フジテレビ様

●12月20日(火)

官庁 東京都庁様

●12月21日(水)

航空業界② 日本航空様

●12月22日(木)

テレビ業界② 日本テレビ様

皆様のご参加心よりお待ちしております。

分野別研究会総覧

分野	研究会	詳細な専攻
開発経済	山田浩之研究会	開発経済学、経済発展論
	大平哲研究会	開発経済学、地域経済学
環境経済	大沼あゆみ研究会	環境経済
	細田衛士研究会	環境経済学、理論経済学
金融	新井拓児研究会	確率論、数理ファイナンス
	小林慶一郎研究会	金融危機などの理論と政策研究
	櫻川昌哉研究会	金融、マクロ経済学
	中妻照雄研究会	データサイエンスによるファイナンス分析
	前多康男研究会	金融経済学、マクロ経済学
経済学史、 思想史	池田幸弘研究会	経済学史、経済思想史
	川俣雅弘研究会	経済学史、
	坂本達哉研究会	社会思想の歴史と理論
経済史	高草木光一研究会	社会思想史
	太田淳研究会	経済史
	飯田恭研究会	経済史、社会史、環境史
	中西聡研究会	近世・近代日本経済史
経済地理	崔在東研究会	近代社会経済史
	松沢裕作研究会	日本社会史
	河端瑞貴研究会	空間社会経済研究、GIS
	武山政直研究会	サービスデザインとイノベーション
	直井道生研究会	都市経済学、応用計量経済学
計量経済、 統計	伊藤幹夫研究会	金融市場データの理論分析・計量分析
	河井啓希研究会	応用ミクロ計量経済学、産業組織論、医療経済学
	田中辰雄研究会	IT産業の実証分析
	辻村和佑研究会	経済統計・計量経済学・資金循環分析
	長倉大輔研究会	計量経済学
	宮内環研究会	市場の数量分析
	星野崇宏研究会	計量経済学・行動経済学とその応用
	秋山裕研究会	経済発展論・計量経済学
国際経済	大久保敏弘研究会	国際経済学、国際貿易、海外直接投資、空間経済
	嘉治佐保子研究会	Open Economy Macroeconomics・Economies of Europe
	木村福成研究会	国際経済学・開発経済学
	駒形哲哉研究会	東アジア・中国経済論
	白井義昌研究会	国際経済学
	竹森俊平研究会	国際経済学
	産業、 労働経済	赤林英夫研究会
植田浩史研究会		産業論、企業論、中小企業論
太田總一研究会		労働経済学
駒村康平研究会		社会保障・社会政策
三嶋恒平研究会		産業、労働経済

制度、政策	金子勝研究会	財政、金融を中心とする経済政策
	寺井公子研究会	公共経済学・財政学・政治経済学
	土居丈朗研究会	財政学・公共経済学・政治経済学
	藤田康範研究会	経済政策・応用経済理論
	山田篤裕研究会	社会政策
理論経済	石橋孝次研究会	ミクロ経済学・産業組織
	大西広研究会	近代経済学を基礎とするマルクス経済学
	尾崎裕之研究会	公理的・統計的意思決定論
	坂井豊貴研究会	社会的選択理論・マーケットデザイン
	塩澤修平研究会	理論経済学・金融経済学
	須田伸一研究会	理論経済学
	玉田康成研究会	ミクロ経済学, インセンティブ・契約理論, 産業組織論
	中村慎助研究会	理論経済、公共経済学
	藤原一平研究会	マクロ経済学・国際金融論
	穂刈享研究会	ミクロ経済学・ゲーム理論
人口論	津谷典子研究会	人口論
行動経済	大垣昌夫研究会	行動経済学
都市計画	長谷川淳一研究会	都市政策、都市文化
応用分析	マッケンジーコリン研究会	ヨーロッパ経済・日本経済の実証分析
医療経済	井深陽子研究会	医療経済学
財政社会学	井手英策研究会	財政社会学・社会問題
政策研究	北尾早霧研究会	財政・社会保障、マクロ経済学
	PCP	
	研究プロジェクト	

○募集再開ゼミ

廣瀬康生研究会 マクロ経済モデル分析

各研究会紹介

開發經濟

山田浩之研究会

大平哲研究会

山田浩之研究会

—開発経済学・経済発展論—

1. 研究分野

私の研究分野は広く言うと経済発展論、とりわけ開発経済学です。開発経済学は開発途上国や新興国が直面する様々な課題を扱う研究分野です。よって、計量経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎にし、応用分野からの必要な知識をも総動員して課題に取り組む必要があります。私自身のこれまでの研究も、為替制度に関する国際金融分野のものから開発途上国の現地医療従事者の働くインセンティブまで、多岐に渡っています。また、経済発展論と書いたのは、経済発展は、開発途上国のみならず先進国・新興国にとっても重要で、幅広いトピックを含むからです。

これらを踏まえ、本研究会では主にアジア・アフリカを中心とした新興国・開発途上国の経済問題に関しての知識及び分析能力の習得に主眼を置く予定です。とりわけ、関心分野のトピックの分析を行えるようなデータ分析の能力を磨きます。さらに論理的思考能力・文章執筆能力・プレゼン能力を養うために、グループに分かれての論文の執筆とチームに分かれてのディベートを開催する予定です。また、学生の希望と主体性を重んじた上で、可能であれば海外合宿も予定しています(2016年度はベトナムのフエ及びその近郊で行いました)。

担当教員自身の国際機関勤務経験等を踏まえ、「学部時代にこんな研究会があったら良かったなあ…」という研究会にしたいと考えています。また、青年海外協力隊の時の経験や、海外留学の話なども(もし聞かれたら)ゼミ生とはしたいと思っています。今回がまだ第3回目の募集なので紆余曲折あるかもしれませんが、言い換えれば、枠に囚われず学生の自主性が発揮できる研究会となる可能性も大いに秘めています。ちなみに第1, 2期生は教員の予想を超えるパフォーマンスを見せてくれています。

将来国際機関で働きたい人や国際的な仕事をしたい人、開発経済・国際経済の研究者を目指す人向けの研究会を念頭に置いています。日本の将来を真剣に考えたという人も歓迎します。

具体的には、本ゼミでは、前半は輪読及び論文のトピック探しを行います。中盤以降は論文執筆とその中間報告・ディベートに時間を割り当てる予定です。サブゼミでは経済学の徹底した復習とデータ分析手法の習得を集中的に行います。並行して演

習科目「Stataによるデータ分析」を受講することを強く推奨します。また、他大学の研究会とのインゼミも予定しています。

2. 学生への要望

開発経済学に興味を持たれる学生さんのきっかけ・動機は様々だと思いますし、大きな心意気をもってゼミを志望してくれることは大いに結構だと思います。ただし、そういった心意気だけで通用するほど世の中は甘くありません。むしろ心意気だけで物事を進めようとするとその人の人間としての厚みが伝わってきません。心意気の土台となる専門的なバックグラウンドや分析能力、論理的思考能力、ディベート能力、文章能力等をこの研究会を通して身に付けて行って欲しいと思います。ゼミの活動は日が経つにつれて本格化し、時間を惜しみなく注ぎ、よりレベルも上がります。強い問題意識と、ゼミに積極的に参加・貢献したい学生のみを求めます。「緩いゼミ」や「楽勝ゼミ」ではありませんので、やる気が続かない人の応募はお勧めしません。

また、日吉のミクロ・マクロ・統計・経済数学といった基礎的な科目をしっかり履修し、取りこぼさないようにして下さい。これらはゼミで学ぶ内容の土台となるだけでなく、再履修のために日吉に通うことになることになると、本ゼミ以外での活動に支障をきたし他のゼミ員に迷惑がかかる可能性があるからです。

3. 選考について

- ① 募集人員：約 10 名
- ② 選考内容：レポート、成績、面接
- ③ 選考基準：レポート、志望動機、成績、面接による総合評価。

ゼミ員構成

3年生 名(男4名、女5名)(留学中3名)

4年生 名(男7名、女1名)(留学中0名)

4. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜4・5限)

〈春学期〉

『Introductory Econometrics』の輪読を行い、開発経済学の研究に必要な計量経済学を学んでいきました。また、研究テーマの設定や質問票の作成を行い、合宿と三田論の準備をすすめました。学期の後半では、4年生

による卒論の中間発表も行いました。

〈秋学期〉 三田祭までの期間は、三田論の執筆やフィードバックを行い、三田論を執筆していきます。

②サブゼミ

〈春学期〉 開発経済学の入門書の輪読と、合宿の準備として質問票の作成等を行いました。

〈秋学期〉 三田論の執筆やそのための先行研究調べ、夏合宿で収集したデータの分析などを行います。

③パートゼミ

パートゼミは行っていません。

④インゼミ

早稲田大学の開発経済ゼミである戸堂ゼミと1月に行います。三田論と卒論の発表を行う予定です。

⑥三田祭

今年度は全員で1本の論文を執筆し、三田祭期間に発表を行います。

⑦夏休み

合宿での調査結果を三田論に利用するためにデータをstataで分析しました。

⑧合宿

今年は8月にベトナムのフエで5泊6日の合宿を行い、農村での家計調査を行いました。

⑨授業

山田先生の「開発経済学」を必修授業としています。また、分析に必要な知識を習得するために田中辰雄先生の「計量経済学中級」などを履修することを推奨されています。

⑩経費

ゼミ費5,000円、その他諸費(教科書代、合宿費など)

5. ゼミ試験対策で使用した参考書

事前に発表された課題から各自内容に合わせた参考図書を使用します。

6. 先生が担当している講義

AID AND DEVELOPMENT (PCP) (春(三田)、水3)

開発経済学 a(春(三田)、金2)

DEVELOPMENT ECONOMICS (春(三田)、金3)

DEVELOPMENT PROGRAM EVALUATION IN

DEVELOPING COUNTRIES (PCP) (秋(三田)、水曜日3限)

開発経済学 b(秋(三田)、金曜日2限)

7. ゼミ SNS

Twitter: 山田浩之研究会@hyamadaseminar

Facebook: 慶應義塾大学山田浩之研究会

@hyamadaseminar

HP: 慶應義塾大学山田浩之研究会

(<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamada/>)

8. 連絡先

外ゼミ代表

木村真里亜

内ゼミ代表/入ゼミ担当 犬飼あゆ美

連絡先 hyamadaseminar@gmail.com



大平哲研究会

—開発経済学・地域経済学—

1. 研究分野

国内外の地域経済に関する諸問題について勉強しています。具体的な地域を取りあげ、その経済の動きを理解するための経済学の手法を学習することが研究会の主な活動内容になります。

開発経済学の理論の考え方を確認するように努力しています。具体的な経済分析の際には、基礎にある理論の考え方の理解よりも、分析者にとって都合の良い結論を早く出すことのほうが優先され、ツールの機械的な適用だけをおこなうことが多いものです。しかし、どのような理念に基づいて作られたものなのかをきちんと理解していかなければ、分析の内容が希薄になります。まちがいを犯す可能性もあります。都道府県庁、援助機関が実際につかっている研究報告書を正確に読む能力を身につけることが目標ですが、その基礎にある経済学の考え方を確認することに時間をかけます。

最近の開発経済学ではマイクロ経済学の考え方を知ること重要になってきています。現場で活躍する個人がどのような行動原理で行動しているかを経済学の知見に基づいて考察することではじめて意味のある経済政策が立案できるようになっています。

研究会での学習では、法律や制度・習慣、時事的な知識を集めることにも力を入れなければいけません。しかし、博識になることよりも、ものごとを見る基本的な視点を身につけることこそが大学での学習の眼目です。経済学の考え方を基礎にしながら地域経済を理解することを本研究会では重視します。

実際の研究会活動は本ゼミとサブゼミとに分かれます。本ゼミではゼミ員全員で地域経済を理解するための経済学の学習をします。サブゼミでは学生が自主的にテーマを選び、本ゼミのテーマを深める作業をします。その際、可能な限り実際の現場を見るようにしています。文献調査でわかったつもりになっても、実際の現場を訪問し、関係者の話を聞くと理解が深まるものです。

国内、国外のバランス、理論と実際のバランス、等々、さまざまな面でのバランスと多様性を大事にしています。

2. 学生への要望

入ゼミ時点での経済学の理解度はそれほど高度なものは要求しません。大事なのは、マクロ経済学、マイクロ経済学、統計学、どれでも物怖じせず理解しようとする姿勢と、そのための基礎学力です。数式展開をはじめとする理論操作の能力よりも、理論の考え方を理解しようとする学生が集まることを望んでいます。

3. 選考について

①募集人員：12名程度

②選考内容：未定

昨年度の例：

(1)今すぐ三田祭論文を書くことを想定した研究計画書の作成

(2)計画書に基づいたオンライン掲示板での議論

(3)面接と成績表の提出

②選考基準：非公開です。

4. ゼミ員構成

3年生 15名 (男 11名、女 4名) (留学中 1名)

4年生 9名 (男 5名、女 4名) (留学中 0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜 4,5 限)

輪読と各サブゼミグループの発表をおこないます。今年度は黒岩郁雄、高橋和志、山形辰史編『テキストブック開発経済学[第3版]』有斐閣、2015年を輪読しています。

② サブゼミ (グループによる)

サブゼミで扱うテーマは自分たちで自由に決めることができます。今年度は絶対的貧困層に希望を持たせることの意義、茨城空港の活性化、温泉やサテライトオフィスによる熱海の活性化、子どもの貧困について研究しています。

③ パートゼミ

②参照。

④ インゼミ

おこなっていません。

⑤ 課外活動

飲み会、旅行などを適宜ゼミ員が企画しています。

⑥ 三田祭

本年度はサブゼミで扱ったテーマについての発表をおこなう予定です。

⑦ 夏休み

夏合宿以外は参加必須の活動はありません。しかし、3年生はグループごとに三田祭論文完成に向けて活動します。

⑧ 合宿

5月：新歓合宿 (1泊2日)
ゼミ員の親睦を深めるため、茨城県石

岡市にある有機農家のあらかき農園で農業体験をし、近くのコテージに宿泊しました。

8月：夏合宿 (1泊2日)

長野県安曇野市にて3年生の三田論の完成に向けての発表や、4年生の卒論中間発表、そして BBQ を楽しみました。

⑨ 授業

先生が三田で開講している授業はゼミでの理解を深めるために必須なので履修が必要です。

⑩ 経費

新歓合宿と夏合宿あわせて3万円程度です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

各自による。

7. 先生が担当している講義

・マクロ経済学初級Ⅱ (日吉、秋学期火曜 2限)

・農業経済論 a, b (三田、火曜 3限)

・格差と援助の経済学 a, b (三田、水曜 1限)

・マイクロファイナンス論 (三田、春学期水曜 2限)

8. ゼミ HP

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/seminar/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 山口 耀広

入ゼミ担当 小山 樂久、樋口 赳也

連絡先

ohira_seminar@tets.econ.keio.ac.jp

環境経済

大沼あゆみ研究会

細田衛士研究会

大沼あゆみ 研究会

—環境経済学—

1. 研究分野

この研究会では、二年間を通じて、経済理論をもとにして、さまざまな環境問題を分析していきます。ちなみに、私の研究のテーマは、「持続可能な発展」と「生物多様性保全」についてです。一般的な枠組みの中での議論を中心に前者の研究をしてきましたが、最近では、後者の生物多様性の持続可能な保全システムにも強い関心を持ち、マレーシアの熱帯林など、さまざまな事例も研究しています。

研究会でとるアプローチの手法は、上記の経済理論に基づくものです。上滑りしない、しかも論理的で説得力のある議論は、経済理論をベースにしたものがもっともパワフルなものだと強く思います。

ゼミ生には、二年間の総仕上げとして、質の高い卒論を提出することを目標に勉強してもらいます。各自の関心に沿った環境問題に自由に組み込んで欲しいと思います。また、フィールドワークなども積極的に行うことを望んでいます。しかし、評価・結論や政策提言など、各自の意見に関わる部分に至る考察には、皆さんが経済学部で学ぶ経済理論がちゃんと根付いていることが求められます。

2. 学生への要望

入会を希望する学生は、ミクロ経済学とマクロ経済学をしっかりと学んでおくこと。それと並行して、環境問題の現状に目を注ぎ、環境経済学に対する明確なモチベーションを有していること。オリジナルな意見を積極的に述べる学生、三田では勉強に打ち込んでみよう、と思っている学生を歓迎します。

今日の経済でニーズの高い「有用な知識」を得ることはもちろん大切ですが、社会のニーズに沿った有用な知識は、容易に陳腐化しやすいものです。また、知識はインターネットでますます容易に得られるようになりました。その一方で、ディシプリンに基づく論理思考力は、陳腐化することなく、現実のさまざまな現象を解明する力を与えてくれます。社会で長期的に役立つものは、実はこのような論理思考力と、およびそれに基づいて、自分で見つけた問題を脳みそに汗をかくようにして考えた経験ではないでしょうか。一見地味で、しかも短期間で獲得するのは容易ではないこのような思考力を、ゼミの場を生かして着実に積み上げていってください。

3. 選考について：募集人員 15-20名

筆記試験

①基礎的なミクロ経済学の試験（持ち込み不可。50分程度）

②面接：教授面接および学生面接を行います。

③事前レポート：内容及び締切は、12月中にゼミのウェブでアナウンスする。

以上をもとに、総合的に判断する。

連絡先 入ゼミ担当

4. ゼミ員構成

3年生 15名(男14名、女1名)(留学中1名)
4年生 20名(男15名、女5名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜 4, 5 限)
環境経済学に関する教科書の指定された範囲を読んでその内容について解説を行う教科書発表を4限に行い、環境問題に関する新聞記事を取上げてその問題に対する政策などを自分達で考え発表する新聞発表を5限に行います。
- ② サブゼミ (金曜 4, 5 限)
6月まではテキストや環境白書などの環境に関する資料を読んで発表を行い、6月からは12月にあるインゼミに向けて各班で話し合いを進めながら準備していきます。6月までの内容は教授と話し合っているので変わる可能性があります。
- ③ パートゼミ
なし
- ④ インゼミ
毎年12月に早稲田大学の環境経済学のゼミと合同で発表を行います。テーマは生物の問題、交通の問題、エネルギーの問題など、多種多様です。学生達は環境経済学の基本に則りながら、発表の中でオリジナリティを出すことが求められます。
- ⑤ 課外活動
ソフトボール大会、飲み会(約2ヶ月に1回)、バーベキューなど。
- ⑥ 三田祭
三田祭ではインゼミで発表する論文の発表を行う予定です。
- ⑦ 夏休み
ゼミ全体としての活動は夏合宿を除き特にありません。

- ⑧ 合宿
5月にゼミ生の親睦を深めるための新歓合宿と9月に3年生はインゼミ論文、4年生は卒業論文の途中経過を発表する夏合宿があります。

- ⑨ 授業
教授がその年に担当している授業がゼミ必修となります。

- ⑩ 経費
年 2000 円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にはありませんが、2年のミクロ経済学の授業の復習をしておくといいかもかもしれません。

7. 先生が担当している講義

環境経済論(三田、水曜日春1, 2限)
経済と環境(日吉、水曜日秋1限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/onuma/index.html>

9. 連絡先

外ゼミ代表 落合 秀峻
連絡先 hidetaka516@gmail.com
内ゼミ代表 三澤 春歩
連絡先 tiabd330@gmail.com
入ゼミ担当 高橋 毅行
連絡先 takeyukitaka714@gmail.com

細田衛士研究会

—環境経済学・理論経済学—

1. 研究分野

本研究会の主要な目的は、環境経済学及び理論経済学の学習ならびに研究をすることである。日本、世界を問わずあらゆる所で森林はなぎ倒され、土壌の劣化や砂漠化などが進行している。また地球温暖化や野生生物の減少など地球規模での環境破壊も深刻の度合いを増している。先進国でも途上国でも廃棄物問題は危機的な状況になりつつある。

このような人類の存亡に係る問題解決には経済学が大きな貢献をすべきであることは言うまでもない。誤解を恐れず端的に言えば環境問題は経済問題なのであり、環境問題の解決には経済学からのアプローチが必要なのである。この考え方は本研究会の目的にも密接につながっている。すなわち、経済学を通して、深刻化する環境問題の解明および解決に貢献することが研究会員には求められている。

したがって研究会では、経済学、とりわけ理論経済学の基礎をしっかりと学ばなければならない。もちろん環境経済学はきわめて学際的な性格を持っていることは間違いなく、法律や制度的な側面も学ぶ必要がある。しかし、環境経済学の核心は、当然《経済学》なのであり、特に理論経済学の学習は必須である。加えて、計量経済学的知識があれば尚一層鋭い切込みができるだろう。問題を深くえぐり出すツールは多くあるだろうが、ここでは経済理論分析・実証分析を中心とした経済学的知識が主要な武器になるのである。

しかし、そうは言っても、ただ単に理論学習すれば問題がみえるというわけではない。当然のこととして、現実を知らなければならない。したがって、本研究会では、理論学習とともに、実態を知るための調査（フィールドワーク）が重視される。現実を認識するとともに、経済理論を用いて環境問題を分析することが求められているのである。

2. 学生への要望

まず、環境問題に対して深い興味、関心を持つことが求められる。環境問題は、理論経済学の単なる《応用問題》ではない。まず、現実の環境問題への関心が必要である。新聞、テレビのニュース、専門雑誌などで常に現実の環境問題について十分な知識を得ておかなければならない。

次に、日吉においてミクロ経済学・マクロ経済学についての基礎をしっかりと学習することが求められる。本研究会は、経済理論を基礎として、環境問題を研究するゼミである。マクロ・ミクロなどの基礎知識がないと、本研究会に入

る意味は小さい。さらに、統計学（計量経済学）の基礎知識があればなお良い。定量的な手法が求められることも多いからである。

3. 選考について

- ① 募集人員：16名以内（A・B両日程を合わせた人数、但しB日程選考を行わないこともある）
- ② 選考内容：(i) 事前レポート（テーマ・字数・締切については後述）(ii) 選考試験（マクロ・ミクロ経済学の基礎知識を問う試験と、社会・経済常識を問う問題）(iii) 教師と学生による面接
- ③ 選考基準：事前レポート、選考試験、面接を総合的に評価する。評価の相対的な重みは、レポート、筆記試験、面接の順である。

○事前レポートについて：次のテーマのうち、一つを選び、2017年2月28日午後4時までに以下の宛先まで電子媒体（pdfファイル）で提出すること。以上の時間までに必着であり、いかなる理由があっても遅延は認めない。字数は3,000～5,000字の範囲。

レポート提出先：hosoda-lab@econ.keio.ac.jp

〔テーマ〕（尚、内容を表す副題をつけてもよい。）

（ア）《環境保全と経済発展はいかにして両立可能か》

（イ）《日本の環境問題》

○重要な注意:当研究会では、かなり集中的な学習が要求される。このゼミを志望・受験する際には、自分の意志と能力双方を十分確認してから受験されたい。入会許可後に入会を辞退することだけは絶対にやめて欲しい。

問い合わせなど

入会に関する問い合わせは、学生の代表にすること。

4. ゼミ員構成

3年生 10名(男8名、女2名)

4年生 14名(男10名、女4名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (水曜4・5限)

本ゼミは冒頭にトピックの発表、続いて輪読という流れで行います。

トピックの発表とは環境分野の新聞記事の中から興味を持ったものに関して、3年生の担当者が15分の発表を行うというものです。

輪読は環境経済学や経済理論に関するテキストの指定された部分を担当者が予め作成したレジュメやパワーポイントを基に発表する形で行います。

② サブゼミ

3年生のみで行われ、連絡事項の伝達やパートゼミの準備など、ゼミの活動を円滑に進めるための準備時間となっています。

③ パートゼミ (金曜5限)

<環境パート>

環境問題について深く豊富な知識を身に付けることを目指し、3年生が班に分かれて環境問題に関する共通のテーマでグループワークを行います。

<理論パート>

より深く環境経済学を学ぶ上で必要な経済理論を、実例への応用を目指して学んでいます。本ゼミと同様にトピックに続いてテキストの輪読という流れで行います。トピックのテーマは本ゼミとは違い比較的自由で、輪読では経済理論のテキストを扱います。

④ インゼミ

3年生が2班に分かれ、1年間の集大成として、12月に京都大学 植田ゼミ・中央大学 横山ゼミ・同志社大学 岸ゼミ・一橋大学 寺西&山下ゼミと環境経済についての合同発表会を行います。

⑤ 課外活動

3年生がパートゼミとは別に班に分かれ、それぞれが選んだ環境問題に関してグループワークを行います。テーマに沿った企業・官公庁訪問などのフィールドワークを行い、班で1本論文を執筆します。夏合宿で最終発表を行います。

また、春学期のみ毎週本ゼミの後に3年生はディベートを行います。環境問題だけに限らず幅広いテーマで、肯定側と否定側に分かれて議論を行います。

⑥ 三田祭

春学期に執筆したフィールドワーク論文について発表・展示します。

⑦ 夏休み

各自で環境問題に関するテーマを設定し、約1万字の論文を執筆します。

⑧ 合宿

新歓合宿(1泊2日)

親睦を深めるために、ゼミ員だけでなく、先生も一緒に野球や懇親会等を行います。

夏合宿(3泊4日)

春学期の集大成として、研究の成果や練習の成果を先生の前で発表する機会、フィールドワーク論文の最終発表やディベートを行います。合宿の最後にはフィールドワーク論文・フィールドワーク発表・ディベートの三部門において表彰が行われます。

⑨ 授業

以下の2つが履修推奨科目です。

- ・環境経済分野の授業
- ・マイクロ経済学中級

⑩ 経費

年会費：2000円

新歓合宿費：10000円

夏合宿費：25000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『入門マイクロ経済学』ハル・R・ヴァリアン

『経済学・入門』塩澤修平

※細田ゼミ HP に過去の入ゼミ試験問題(マクロ・ミクロ)、入ゼミ論文を記載しているので参考にして下さい。

7. 先生が担当している講義

・廃棄と汚染の経済学 a. b (三田、秋水曜日1・2限)

・経済と環境 (日吉、春水曜日1限)

・ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY (PCP)

(三田、秋学期火曜日2限)

8. ゼミ HP

細田衛士研究会

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/hosoda/root/top.html>

Twitter: @hosoda_semi2015

9. 連絡先

外ゼミ代表 小杉 拓也

連絡先 tntkdm1225@gmail.com

内ゼミ代表 大堀 桂吾

連絡先 keigorca315@outlook.jp

入ゼミ担当 渡辺 航介

連絡先 kou.ar398s@gmail.com

金融

新井拓児研究会

小林慶一郎研究会

櫻川昌哉研究会

中妻照雄研究会

前多康男研究会

新井拓児研究会

—確率論・数理ファイナンス—

1. 研究分野

本研究会は数理ファイナンスを主テーマにしているが、実質的には、数学、とりわけ解析学と確率論の学習が中心となる。数理ファイナンス、特にオプションの価格付け理論を学習するためには、数学の議論が正確にできなければならない。そのため、数学の議論に慣れてもらうことを目的に、かなり細かなことにもこだわる妥協のない議論を目指す。具体的には、3年生の春学期に微分積分学の教科書の輪読を行い、3年生秋学期から4年生春学期にかけて確率論の教科書を輪読する。仕上げとして4年生秋学期に、学生の希望に応じて数理ファイナンスに関する文献を輪読する。特に、微分積分学においては、実数の連続性、点列の極限、関数の連続性、積分の定義などについて学習する。ちょっとマニアックな議論も行う。また確率論では、測度論の基礎について学び、大数の法則や中心極限定理などの極限定理を中心に、こちらも正確で細かな議論を行う。

尚、本研究会では飲み会、合宿などのイベントは行わない。三田祭にも原則的には参加しない。

2. 学生への要望

本研究会の内容や雰囲気は、悪い意味ではなく他の研究会とは相当異なる。決して怖いところでもなく、明るい雰囲気のゼミである。数学好きの学生が多数(と言っても5人程度だが)集まることを期待している。

3. 選考について

- ① 募集人数：A日程5名程度
- ② 選考内容：数学の筆記試験
- ③ 選考基準：数学の基礎学力を有していること。

4. ゼミ員構成

3年生 名(男 3名、女 0名)(留学中 0名)
4年生 名(男 4名、女 0名)(留学中 0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (月曜4・5限)

月曜4限は3年生の時間として設けられ、より深い微分積分学、確率論について細部にこだわり学習します。教科書の輪読による学習方法をとっています。使用する教科書は、前期は

「理工系の微分積分学」吹田 信之・新保 経彦

後期は今年はまだ未定ですが確率論のテキストをゼミ生の意見も反映しつつ決め、輪読いたします。

月曜5限は4年生の時間として設けられ、3年生のパートと同じ進め方を取り、主に、前期は3年生時から引き続き確率論のテキストを、後期は主に数理ファイナンスのテキストを輪読します

② サブゼミ なし

③ パートゼミ なし

④ インゼミ なし

⑤ 課外活動 なし

⑥ 三田祭 なし

⑦ 夏休み 特に活動なし

⑧ 合宿 なし

⑨ 授業 ゼミ必修授業等はありません

⑩ 経費 教科書代

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

微分・積分に関する大学受験参考書、大学の講義で使用したテキストやゼミ生が個人的に使用していた参考書などです。

又、線形代数も出題範囲でありますので、大学の講義で使用したテキストで復習することをお勧めします。

また、アップロードされている過去問も解いていたゼミ生もいます。

7. 先生が担当している講義

解析学Ⅱa (三田、火曜日2限) (春学期)
研究会 a/b (三田、月曜日4・5限)
INTRODUCTION TO FINANCE (三田、月曜日2限) (秋学期)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/arai/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 成田 健人
arbalest060606@gmail.com
入ゼミ担当 山崎 光将
ustim72damay@gmail.com

小林慶一郎研究会

—金融危機などの理論と政策研究—

1. 研究分野

本研究会の研究分野は金融危機や財政危機など「大きくて長期的な経済変動」についての研究である。2008年以降の欧米経済で起きた大規模な金融危機とその後の長期経済停滞や日本の少子高齢化や財政の慢性的な悪化、世代間の公平性などの問題が研究テーマの例である。

◇理論的テーマの例

金融システム（銀行などの機能）、貨幣、財政（公的債務）の理論的な扱いについてはまだ多くの問題点が残っている。これらの問題を勉強することを通じて、新しい理論的な創意工夫や発見を目指す。

◇政策的テーマの例

おもに財政の持続性の維持に必要な政策、危機脱却策など。世代間の公平性を再生するための政治経済思想についても考えたい。

◇ゼミでの活動

4年生は卒業論文、3年生はグループで三田祭論文を執筆する。

ゼミではテーマに関連する教科書や書籍、論文を輪読する。

また外部講師を呼び金融や財政の実務を勉強する場も設ける。

研究会メンバーはゼミの時間にプレゼンテーション(テキストの解説、自身の研究の進捗状況などについて)をして、全員でディスカッションをする。

◇輪読テキストの例

- ・小林、加藤『日本経済の罟』
- ・サンデル『民主政の不満』
- ・Allen and Gale, Understanding Financial Crises
- ・Champ, Freeman and Haslag, Modeling Monetary Economies

2. 学生への要望

研究は解くべきテーマや問題設定を発見することができれば90%完成だと言われる。自分の頭で研究テーマを考え、課題設定を行うことを目指して勉強を進めてもらいたい。

事前の知識としては、基本的なマクロ経済学と経済数学は一通り習熟していることが望ましい。

3. 選考について

- ① 募集人員：10名～15名程度
- ② 選考内容：筆記試験またはレポート、面接、成績表の事前提出。
- ③ 選考基準：成績表、試験またはレポートの結果、志望動機の三つを勘案して判断する。成績表は重視する。

4. ゼミ員構成

3年生 11名(男10名、女1名)(留学中0名)
4年生 11名(男11名、女0名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (月曜 4・5 限)
本年度の本ゼミは、ゼミ生が『RIETI(独立行政法人経済産業研究所)』や『キャノングローバル戦略研究所』のサイトから、自分の関心に沿ったコラムや論文を選択し、プレゼンテーションを行っています。プレゼンの後には他のゼミ生からのコメントに加え、小林教授からも解説をして頂きます。また、3年生は三田論、4年生は卒論の進捗や内容の発表も行います。
- ② サブゼミ (金曜 4 限)
サブゼミは実際班と理論班の2つあり、教科書はゼミ生の関心に沿って決定します。実際班にはゼミ生全員が参加し、基礎的な学力を養います。本年度は『金融論 市場と経済政策の有効性』や『House of Debt』などを使用しています。理論班は、教授の指導の下で、本や論文の輪読を行います。学部よりも高度な理論経済学を学習できます。
- ③ パートゼミ
パートゼミは秋学期からサブゼミに代わり行います。三田論のグループごとに分かれた論文執筆が活動の中心となります。
- ④ インゼミ
特にありません。
- ⑤ 課外活動
特にありません。
- ⑥ 三田祭
論文の発表を行います。本年度は雇用班、フィンテック班、理論班の3つに分かれて論文を執筆します。
- ⑦ 夏休み
合宿に加えて各自三田論や卒論の学習を進めていきます。
- ⑧ 合宿
夏休みに2泊3日で長野県の蓼科へ行きました。経済に関するテーマのディスカッションや3年生は三田論、4年生は卒論の中間発表等を行いました。
- ⑨ 授業
ゼミ必修はありません。
- ⑩ 経費
合宿費、文献費等。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。選考内容に沿った参考書を選んでください。

7. 先生が担当している講義

[春・秋]金融資産市場論(三田、木曜3限)
[春]日本経済システム論(三田、月曜3限)
[秋]日本経済概論(日吉、火曜1限)

8. ゼミ HP

<http://economicsssss.wix.com/kobakei>

9. 連絡先

外ゼミ代表 豊田 光
連絡先 hikaru.toyoda64@gmail.com
内ゼミ代表 中村 駿太
連絡先 keitai.5556.shunta@docomo.ne.jp
入ゼミ担当 水町 夏子
連絡先 mimicro5158@gmail.com

櫻川昌哉研究会

—金融・マクロ経済学—

1. 研究分野

マクロ経済学と金融。最近、バブルの生成、発展、崩壊に至るプロセスを理論、実証の両面から分析している。私の最新の研究を知りたい人は、「なぜ金融危機は起こるのか金融経済研究のフロンティア」（東洋経済新報社、櫻川昌哉・福田慎一編）の第1章を参照されたい。

2. 学生への要望

- 1) 日本人は議論の仕方が下手だと言われている。国内にあっては、相手の立場を慮りすぎて、言いたいことも言えずに悶々とすることが多い。国際会議にあっては、この修練不足がたたって、言い負けてしまう。
このゼミを通じて、議論の仕方を学んで欲しいと思う。ここでいう議論の仕方というのは、周囲の人の理解を得ながら、どうやって自分の意見を主張していくかである。周囲と意見が合わないとき、自説を主張すると、周囲の反感を買いがちであるが、この問題をどのように解決していくのか、各自で考えていきたい。
- 2) ジャーナリスティックではなく経済理論に基づいた論理的な思考を身に付けてほしい。
- 3) 英語の習得に前向きな学生を歓迎する。

3. 選考について

①募集人員：8名程度

②選考内容：

I、レポート課題 ①今後、日本が行うべき金融政策 ②今後、日本が仲良くすべき国を3つ挙げよ(経済的観点から論理的な理由を述べること。現在友好的な国も含む) ③今後起こるバブルの経緯(国、資産の種類は問わ

ない) 以上から一つ選択して2000～4000字で論じよ。(2016年度の例2017年度は変更の可能性あり)

II、面接

III、成績表面接時持参(参考程度)

4. ゼミ員構成

3年生 8名(男7名、女1名)(留学中0名)
4年生 9名(男7名、女2名)(留学中1名)

5. 活動内容

⑪ 本ゼミ(金曜 4・5限)

当研究会では、「積極的に議論に参加すること」を重視している。1限目には輪読及び議論を行う。2016年度の春学期は、国際通貨に関する本と金融危機に関する本を扱った。発表者は、担当箇所をプレゼンテーションするだけでなく、内容に沿ったテーマを見つけて皆の議論を進行させる力を養った。発表者以外のゼミ員もしっかりと、輪読書を読み込み、その後の議論に積極的に参加する事を求められた。

2限目は、グループディスカッションを行い、その場で発表された議題に対してチームごとに意見をまとめて発表を行った。2限目は特に決まりはないので、自分達がやりたいテーマを自由に決めることができるのが本ゼミの特徴の1つと言える。例えば今年度扱ったテーマとしては、「消費増税延期の是非」や「少子化問題」、また「慶應経済学部に新たに必修科目を設置するとしたら何がよいか」や「お客様は本当に神様か?」といったユニークなものもある。

⑫ サブゼミ(金曜3限、専門外国書購読)
トマ・ピケティ著『21世紀の資本』の英訳版をグループに分かれて読み、担当箇所を発表した。通常授業の一つであるので、ゼミ生以外も履修している。

⑬ パートゼミ
2016年度は、三年生は三田祭論文担当とISFJ(日本政策学生会議)論文担当に分かれて執筆を行っている。

⑭ インゼミ
秋学期に東京大学&一橋大学の研究会と行う予定。

⑮ 課外活動
ソフトボール大会(2014年度ベスト8進出!)、ISFJに参加する。

⑯ 三田祭
三田祭論文に参加する。

⑰ 合宿
9月に2泊3日で大阪にて合宿を行っ

た。

⑱ 夏休み
特に決まりはないが、論文作成のためにパートごとに集まることもある。

⑲ 授業
必須授業:国際金融論a(春学期三田、木曜2限)
専門外国書購読(春学期三田、金曜3限)

⑳ 経費
合宿費、ソフトボール大会参加費、Tシャツ代、飲み会代等

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

各人の選択した課題に依る。

7. 先生が担当している講義

国際金融論a(三田、木曜日2限)
専門外国書購読(三田、金曜日3限)

8. ゼミHP

URL:<http://seminar.econ.keio.ac.jp/sakuragawa/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 イ ユジン
連絡先: kizuna9433@gmail.com
内ゼミ代表 土肥 駿平
shun02ball01@yahoo.co.jp
入ゼミ担当 白石 優生
bravegold07@gmail.com



前多康男研究会

—金融経済学，マクロ経済学—

1. 研究分野：金融経済学，マクロ経済学
わが国の経済は、今まさに激動の時代にあります。なかでも、金融の世界においては、情報技術の高度化、経済のグローバル化を受けて、目覚ましい進歩を遂げています。前多研究会では、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、などのあらゆる分野の経済学を総動員して、金融の研究を深めていきます。経済学を駆使して金融分野の過去と現在の様々な現象を分析し、未来への課題とそれに対する自分なりの答えを見つけ出す醍醐味を味わってほしいと思います。

研究会の運営方針としては、ゼミ生の自ら学ぶ自主性に磨きをかけるため、私は可能な限り「聞く」スタンスをとっています。私の役割は、学生が自由闊達な活動を行うための「場を提供する」ことであり、各ゼミ生が地力を自ら求めて最大限まで伸ばしてほしいと思っています。

4月に入ゼミしてまず、ゼミにおいて研究するテーマを決め、パートと呼ばれるグループに分けます。このパートごとの自主的な活動がゼミ活動の主軸になります。今年度はパート毎に識を有し、かつやる気のある学生を希望します。

日経ストックリーグに参加しました。来年度も同様に参加の予定です。「個」の力の基礎となる方法論は、全員が一同に参加する本ゼミにおいて、会計学、金融、ファイナンス、マクロ経済学のテキストを用いて身に付けます。これらの各ゼミが有機的な相互作用を及すことで、ゼミ全体の教育効果を狙っています。ゼミ生には、自分を発揮できる各分野で、社会の先導者となってもらいたいと願っています。

2. 学生への要望

経済学を学ぶにあたっては明確な問題意識を持ってください。

3. 選考について

- 募集人員：15人程度（A日程）、B日程はA日程で募集人数に達しない場合に行う。
- 選考内容：マクロ経済学に関する筆記試験、面接、成績表。
- 選考基準：経済学に関して基本的な知

4. ゼミ員構成

3年生 23名(男 15名、女 8名)(留学中 1名)
4年生 13名(男 8名、女 5名)(留学中 1名)

内ゼミ代表 同上

連絡先 同上

入ゼミ担当 原 拓輝

連絡先 hirokihara1995@gmail.com

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜 4・5限)
前多康男研究会では、金融経済学およびマクロ経済学を研究対象としています。本ゼミでは、ゼミ生を少人数のグループに分け、日経ストックリーグに参加することで、企業価値評価を行い、グループごとにテーマに沿ったポートフォリオを運用します。日経ストックリーグへの参加は、プレゼンやディスカッションのスキルの向上のほか、理論の実践によりさらに充実した研究活動を行うことができます。
- ② サブゼミ…なし
- ③ パートゼミ…なし
- ④ インゼミ…なし
- ⑤ 課外活動…なし
- ⑥ 三田祭…参加
- ⑦ 夏休み
九月の第一週に、慶應の付属高校向けに模擬ゼミが実施されます。夏休み中には、模擬ゼミの準備や予行練習を行います。
- ⑧ 合宿
夏休みに1回、富士みどりの休暇村にて合宿を行います。
- ⑨ 授業
ゼミ必修…月曜3限のマクロ中級
- ⑩ 経費…グループごとに決める

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『マクロ経済学入門』前多康男著

7. 先生が担当している講義

マクロ経済学中級 I a (三田、月曜日 3限)

APPLIED FINANCE (PCP) (三田、火曜日 3限)

マクロ経済学初級 II (日吉、木曜日 1限)

8. ゼミ HP

なし

9. 連絡先

外ゼミ代表 小谷 理佐子

連絡先 risakota_catact@yahoo.co.jp



中妻照雄研究会

—データサイエンスによるファイナンス分析—

1. 研究分野

中妻照雄研究会(以下、中妻ゼミ)では、データサイエンスの手法とそのファイナンスへの応用を学んでいます。具体的には、最適な資産運用や企業価値算定などファイナンスの実務で扱われる様々な問題を、ベイズ統計学や機械学習などのデータサイエンスの手法を駆使して解決する方法を学んでいます。中妻ゼミの目標は、学部卒でもビジネスの世界で即戦力として通用する優秀な『高度金融人材』を輩出することです。

中妻ゼミでは、ファイナンスに限らずデータを使った実証分析全般の中から比較的自由に研究分野を選べます。3年生で三田祭論文を、4年生で卒業論文を単著で執筆します。一人で学術的な論文を書き上げるのは大変労力のかかる作業ですが、学生の皆さんにとって貴重な経験となるでしょう。

中妻ゼミの活動の中心は、本ゼミ、サブゼミ、パートゼミです。本ゼミは講義の1環として行われ、学生によるファイナンスに関する学術論文の報告とディスカッションおよびファイナンスの基礎知識のレクチャーで構成されます。サブゼミへの参加自由ですが、有志で集まって数学、ベイズ統計学、プログラミングなどの勉強会を行っています。パートゼミでは、グループ

(パート)に分かれて専門的なファイナンス理論を学習し、三田祭論文のための研究を行います。

今年度に設置されたパートは、株式や債券などに対する投資戦略と各種のリスク管理手法を学ぶアセットマネジメント・パート、企業の資金調達手段の選択や企業価値算定などのコーポレートファイナンス(企業金融)全般を勉強するコーポレートファイナンス・パート、そして、最新のデータ分析の手法を勉強し、それをファイナンスに限らず様々な分野のデータに対して応用するデータサイエンス・パート、の3つです。また希望に応じて新たなパートを作ることもできます。

さらに新歓合宿や夏合宿、他大学とのインゼミ、OB・OGを招いての交流会、実務家を招待しての講演会など様々なイベントも行う予定です。

2. 学生への要望

中妻ゼミでは好奇心旺盛で常に向上心を持って自発的に勉学に勤しむ学生諸君を求めています。

中妻ゼミを志望する学生は、ファイナンスに関する基礎的概念(金利、債券、株式、証券市場、外国為替レートなど)を理解していることが必須です。

特にファイナンスの定量分析に関心がある人は、数学とプログラミングの勉強をしっかりと行う心積もりで研究会に参加してください。

企業の財務分析を学ぶ上では高度な数学は必要ありませんが、企業価値などの計算で必要になるので表計算ソフトの使い方は最低限勉強してください。当然、財務諸表の数字の意味をきちんと理解できるだけの会計に関する知識を身につけることも必要です。

さらに近年ファイナンスの実務においても、データ分析の能力が重要視されるようになりつつあります。日吉で学んだ統計学や計量経済学概論の内容をしっかりと理解しておいてください。

今日ではファイナンスの実務においても研究においても英語が堪能であることが要求されます。中妻ゼミでは英語で三田祭論文や卒業論文を執筆するぐらいの気概のある人を歓迎します。また、大学院進学、特に海外への留学を希望する人も大歓迎です。

3. 選考について

- ①募集人員：15名程度
- ②選考内容：事前に提出する学習計画書と入試当日に行われるレポート課題の報告および面接で決まります。
- ③選考基準：学習計画書、レポート課題、面接などでファイナンスに関する基礎知識、研究会に参加する目的意識、人物などを総合的に判断して可否を決定します。

4. ゼミ員構成

3年生 11名(男10名、女1名)(留学中1名)

4年生 10名(男10名、女0名)(留学中 名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (金曜4・5限) 当研究会では各ゼミ生が興味のある内容について海外の論文を読むことで、実際に使われているデータの分析手法 やその理論などを学び、数回に1回の ペースで発表し、質疑応答を通してゼミ生全体の理解を深めるという形式で進めています。また、MATLAB という行列演算ソフトウェアを用いたプログラミング演習を通して、様々な分析 方法を自分で扱えるようにします。

- ② サブゼミ
現在サブゼミは行っておりません。

- ③ パートゼミ
現在、アセットマネジメントパート・コーポレートファイナンスパート・データサイエンスパートの3パート分かれており、所属パートに関わらずいずれのパートゼミにも自由に参加 することができます。

アセットマネジメントパートでは、証券投資理論や時系列データの分析手法について、テキストの輪読を通して 学習します。

コーポレートファイナンスパートでは、一般企業の事業や戦略に焦点をあてて分析と研究を行います。特定企業の事業評価、それに基づいた価値算定 と数ある資金調達の手段

について議論 し、発表を行います。

データサイエンスパートでは、コン ピューターを駆使した最新の分析手法 を学び、ファイナンス分野に限らず 様々な分野に対して応用するべく研究 します。

- ④ インゼミ
現在他大学とのインゼミは行っておりません。
- ⑤ 課外活動
ゼミ有志でチームを組み、日本CFA 協会が主催する「Institute Research Challenge」という大学生による企業 分析大会に参加しています。
- ⑥ 三田祭
3年生の前期までに学んだ知識を最大限に活用して、論文の完成・発表を 目指します。

経済学史 思想史

池田幸弘研究会
川俣雅弘研究会
坂本達哉研究会
高草木光一研究会

池田幸弘研究会

—経済学史・経済思想史—

1.研究分野

ゼミを開講してから、もっぱら新自由主義の経済政策思想という研究主題を考察の対象にしてきた。前期は、反ケインズ派による著作を輪読の対象とする。今年はいままでの『自由の条件』を輪読の対象としている。いままでも輪読の対象としたものとして、『隷従への道』、同『法・立法・自由』などがある。これにより、ゼミの参加者は反ケインズ的な経済思想について一定の見通しがえられたはずである。毎年、後期には、四年生の卒業論文の報告が行われる。このために、四年生はある時期までに、各自のテーマと当該テーマについての参考文献表を作成することが求められる。三年生については、秋に小樽商科大学、福井県立大学、龍谷大学とのインターカレッジ・セミナーも予定している。内容もさることながら、プレゼンテーションの技術も磨くことが念頭にある。卒業論文の内容について私のほうから制約することは考えてはいないが、経済思想、あるいは経済政策思想が担当者にとっては指導しやすい。ここでいう経済思想はケインズやスミスのような偉人のそれにとどまらない。偉人の経済思想をなんらかの形で体现した民間人、あるいは日常感覚のレベルで経済のことを思考の対象とした経済人、これらの思想はみな広い意味での経済思想であり、いずれも研究の対象となる。一例をあげよう。ハイエクなどの新自由主義的経済思想は、サッチャーやレーガンの経済政策に反映され、それが今日の日本の経済政策論議に一定の影響を与えるに至っている。たとえば、小泉政権下での構造改革が、どの程度ハイエック的な発想に基づいているかを検証することも当研究会の研究対象となる。経済思想は死んだ思想ではない。実務家の観念がいかに過去の経済思想に拘束されているかを強調したのはかのケインズであるが、当研究会ではこのケインズの発言を具体的に論証していくことが一つの大きな課題となっている。

2.学生への要望

経済学のような科学には、つねに学理と実践とのあいだの往復運動が必要である。実際の経済や実践についてなんの興味も持たないような経済学研究者はほめられたものではないし、また逆に日々の実践のなかで原理的な問題にぶちあたらないよう

なビジネスマンもさびしいのではないだろうか。実践で生じた問題について、広い意味での学理からの追求がもとめられているのである。こうした実践を意識した上での本格的な経済学研究は、むしろ卒業後にはじまるものなのかもしれない。もちろん、私としては、大学人であるという制約から前者について助言を与えるということが主となるが、学生諸君が社会にでたときにおこりうるさまざまな問題に対処するための一定の視角を与えるということについては、おおいに興味があり、ゼミ員とはさまざまな問題について議論していきたいと考えている。池田研究会には、個性的な思想と人格を持つ人物が少なくない。したがって、積極的かつ過激な議論がもたれている。来年度も議論好きなみなさんの入会を切に希望してやまない。

3.選考について

①募集人員：合計で最大 15 名程度。

②選考内容：

A 日程：面接による。

B 日程：簡単な筆記試験(成績証明の提出を要する。ただし参考程度。)

③選考基準：

A 日程：日吉での学習や読書についてうかがうことが多い。特段の準備は必要ないが、日吉で経済思想の歴史や近代思想史を受講していれば、当該分野についての一定の見通しを得ることができよう。

B 日程：筆記試験と日吉での成績による。重点は前者にある。

4. ゼミ員構成

3年生 13名(男12名、女1名)
(留学中0名)

4年生 16名(男15名、女1名)
(留学中0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (水曜 4.5 限)

ハイエクの書籍を中心に輪読し、経済思想史を様々な観点から考えディスカッションを行っています。池田ゼミには様々なバックグラウンドや価値観を持ったゼミ生が所属しているため難度の高いハイエクの書籍でも楽しく理解を深めることができます。

② サブゼミ (月曜 4 限)

福沢諭吉の「学問のすすめ」を輪読し、ディスカッションをしています。経済学はもちろん、人としてのあり方や慶應義塾大学に込めた思いなど様々なことを扱っています。先生が身近なことにも焦点を当て深く解説して下さるので毎週月曜日が楽しみになること間違いありません。

③ パートゼミ

特に行っておりません。

④ インゼミ

今年は慶應義塾大学で行われます。

⑤ 課外活動

特に行っておりません。

⑥ 三田祭

特に行っておりません。
三田論もありません。

⑦ 夏休み

特に行っておりません。

⑧ 合宿

今年は那須高原に行きました。様々な価値観を持った人たちと寝食を共にしながら議論したので非常に刺激的でした。

⑨ 授業

ゼミ必修の授業はありません。

⑩ 経費

教科書代、合宿代、新勧代などがかかります。

9. 連絡先

外ゼミ代表 秋元勇人

連絡先 hayato88101234@yahoo.co.jp

内ゼミ代表① 福岡隼也

連絡先 f.junya1022@gmail.com

内ゼミ代表② 中村響

連絡先 hibikinakaedinburgh@gmail.com

入ゼミ担当 伊藤雅彦

連絡先 itomasahiko.a2@gmail.com

川俣雅弘研究会

—経済学史—

1. 研究分野

研究分野は基本的に経済学史ですが、経済学史にはさまざまなアプローチがあります。私の経済学史研究は、経済学の歴史に理論史的にアプローチすることです。すなわち、研究対象である過去の理論をそれらの理論の発展型であると考えられる現在の理論から解釈し、公理系として定式化した上でそれらを比較・対照し、理論の歴史を公理系の展開として把握し、その理論の進歩を特徴づけるという研究をしています。

こうした私自身のアプローチと、今まで経済学史の研究を希望する人がいなかったという事情があり、はじめは、経済学史の具体的な研究対象である一般均衡理論および厚生経済学において蓄積された基本的知識について学んでいます。また、知見を広げるために、経済学の応用分野の著書の一部や論文、社会科学の基本的考え方を形成した社会科学の古典の主要部分を読んでいます。

こうして得られた知見を手がかりとして関心を広げ、各自卒論のテーマを選びます。卒論は、研究会で学んだ基礎知識にもとづいて、各自関心のあるテーマについて経済学的分析を行うこととなります。

要するに、この研究会のテーマは一般均衡理論および厚生経済学について基本的知識を学んで、具体的な経済問題の分析に応用すること、あるいはそれらの経済学の歴史について考察することであるといえます。

2. 学生への要望

大学で学問を学ぶのは、専門分野の知識を身につけるためでもありますが、最も重要なのは既存の研究を追体験することにより、さまざまな研究方法を学び、自分で新しい研究を行う方法をマスターすることです。自分自身の研究努力に応じて得られるものがあります。時間を有効に活用してください。

また、ゼミの運営にはいくつかの役割分担があつて、通常の授業を行うだけでは済みません。ゼミに入るということは、そうした役割を分担するということを意味します。こうしたゼミの運営にも責任をもって参加してください。

3. 選考について

- ①募集人員：全体で10数名
- ②選考内容：英語とミクロ経済学の筆記試験と面接を行います。
- ③選考基準：研究意欲があり実際に努力をしていること。経済学史に関心をもつ人を優先的に採用します。

4. ゼミ員構成

3年生 15名(男14名、女1名)
4年生 14名(男13名、女1名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (火曜4,5限)
グループに分かれテキストにそってプレゼンテーションを行います。教授も適宜アドバイスをくださるため理解を深められます。
- ② サブゼミ
なし
- ③ パートゼミ
なし
- ④ インゼミ
なし
- ⑤ 課外活動
特になし
- ⑥ 三田祭
なし
- ⑦ 夏休み
夏休みはそれぞれ春学期の授業をもとにグループワークで理解を深めます。
- ⑧ 合宿
今年は冬期に開催予定です。講義とグループワークをもとにプレゼンテーションを行います。
- ⑨ 授業
経済学史
- ⑩ 経費
合宿費 30000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

武隈慎一さんの「演習ミクロ経済学」を使用した人が多いです。

7. 先生が担当している講義

経済学史(三田、火曜日2限)

経済思想の歴史(日吉、木曜1限)

8. ゼミ HP

<http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/kawamata/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 岩田惟富

連絡先 iwata50103@gmail.com

内ゼミ・入ゼミ代表 矢島荘太郎

連絡先 shotaroyajima@gmail.com

坂本達哉研究会

—社会思想の歴史と理論—

1. 研究分野

私の研究分野は英米を中心とする社会思想史です。イギリスの18世紀思想史が専門で、なかでもD. ヒュームやA. スミスがその中心です。興味のある皆さんは、『ヒュームの文明社会』(創文社1995年)、『ヒューム希望の懐疑主義』(慶應義塾大学出版会2011年)をご覧ください。

同時に、私の学問的関心は幅広く、18世紀のスミスやルソーはもちろんのこと、19世紀のミルやマルクス、20世紀ケインズやロールズ、日本の福沢諭吉や丸山真男にまで及んでいます。その集大成として、『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』(名古屋大学出版会)をご覧ください。一人でも多くの皆さんに手にとって欲しいと願っています。

偉大な思想家の言葉が現代人の知性と精神に訴えると言うことを、私はヒューム、スミス、ルソー、ミル、ケインズ等の思想家たちから教わりましたが、古典的な思想家たちの諸作は、みな同じ力をもっています。諸君には、「古典」のもつこの強靱な力を実際に感じてほしいと希望しています。それは学問だけの問題ではありません。皆さんのこれからの人生にとって、大きな指針と励ましになるでしょう。

グローバル化した現代社会が直面する問題は、いずれも高度に複雑で、さまざまな利害が絡み合い、これまでの常識や良識が通用しない世界です。地球温暖化からテロリズム、世界各地の金融危機や政治的不安定、少子高齢化から同性婚等々、既成の枠組みや概念、理論だけでは解決できないものばかりです。

こういうときこそ、一度立ち帰るべきは古典的な思想の世界です。複雑な現象の根底に、意外と古くて新しい基本的問題が潜んでいることを発見するでしょう。皆さんには、社会思想の研究を通して、物事を歴史と思想の幅広い視野から柔軟に考えることのできる学問の方法を学んで欲しいと思います。

2. 学生への要望

私の専門は上に書いたとおりですが、研究会の学生諸君の研究テーマはまったく自由です。学生諸君の個性や自由を最大限に尊重します。「古典」の力を実感してほしいという考えには変わりありませんが、「古典」の範囲は幅広く、学生一人一人の選択の余地は無限です。

希望としては、混迷する人類社会の現状において、人間と社会にかかわる物事を根本から考え直してみたいという意欲があってほしいと言うことです。社会思想にかんする予備知識は必要ありません。ゼミ員間の対等な関係と自由な研究態度の尊重は、私が最も重視する坂本研究会のポリシーです。

最後に坂本研究会の大きな特徴は、その多様性と国際性です。それは、学生の国籍、学部、ジェンダーの多様性を意味し、留学経験者の多さを意味します。中国、韓国、台湾の学生が毎学年いることが、ゼミでの議論に奥行きと深みをあたえてくれます。結果として、皆さんは卒業後の糧になる人間的成長と国際交流の豊かな経験を得ることができます。

研究会の目的は、学生ひとり一人が、学問的な切磋琢磨をつうじて人間としての成長(「個」の確立)を実現することです。ゼミは、卒業単位を稼ぐための場でも、就職活動の一環でもありません。この点を十分に理解した学生諸君の入会を希望します。

3. 選考について

- ①募集人員：今回は、複数回の選考を合わせて、10～15名程度を考えています。とくに、外国人学生、他学部生の入会を歓迎します。
- ②選考内容：当日の小論文と面接によります。成績表は不要です。特別の準備は必要ありませんが、坂本『社会思想の歴史』の一読を薦めます。
- ③選考基準：なぜ坂本研究会を志望するのか、その動機・理由を明確にしておいて下さい。

4.ゼミ構成員

3年生 15人（男14人女1人）（留学中1名）

4年生 9人（男6人女3人）

5. 活動内容

1 本ゼミ 水曜 4.5限

坂本達哉ゼミでは社会思想を主なテーマとし、毎週レポーター形式で課題図書の内容を輪読しています。レポーターの発表の後にその内容についての討論等を行い、理解を深めていきます。討論中はいつも活気があり、和やかな雰囲気の中で様々な人の考え方に触れることが出来ます。

ゼミの輪読書は、ゼミ生が提案することもでき、実際に今学期では、ハンナアーレント「人間の条件」がゼミ生提案で輪読書になりました。

2 サブゼミ

ゼミとして毎週曜日指定して集まると言ったことは特にしていませんが、学生の希望によっておこなう場合もあります。

3 インゼミ

予定はありません

4 課外活動

例年、ソフトボール大会に参加しています

5 三田祭

学生希望で参加しております。

今年の参加予定はありません

6 合宿

例年は9月中旬に二泊三日で合宿を行なっています。主な内容は研究発表と討論のセットで、4年生は卒論の途中報告、3年生は卒論を意識した内容発表となっております。合宿場所は箱根です。討論が終わってからは飲み会等もあり、ゼミ生同士の親睦を深める大切な行事となっております。発表内容は自由で、毎年ゼミ生の多様な興味関心を知る事ができます

7 夏休み

特にありません

8 授業

坂本先生の授業を履修する以外は特にありません

9 経費

テキスト代と合宿代以外は特にありません

6 ゼミ対策で使用した参考書

特別な試験対策は必要ありませんが、坂本先生の「社会思想の歴史」を一読することをお勧めします。日々の積み重ねが大切な試験となっております。成績等の提出は不要です。

7 先生が担当している講義

春 月曜 5限 経済思想の歴史 I（日吉）

秋 火曜 4.5限 社会思想（三田）

8 ゼミ HP

現在は特にありません

9 連絡先

入ゼミ代表 曾根 syuuji0708@z5.keio.jp

外ゼミ代表 田辺 hisashitanabe923@keio.jp

高草木光一研究会

—社会思想史—

1. 研究分野

私自身の専門領域は 19 世紀フランス社会思想史であるが、ゼミ員の研究テーマは広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。これまでの本研究会の卒業論文を見ても、ルソー、マルクス、ウェーバー等の大思想家の古典を研究するというオーソドックスなものから、ファッションやメディア、「らい病院」や吸血鬼伝説を対象にするものまで、選択の幅は広い。現代社会に対する何らかの批判的問題意識をもち、歴史的、思想史的方法で研究しようとする意思があれば、対象に限定はしない。

もとより社会思想史は、その学問の性質上、学際的なものにならざるをえない。経済学、歴史学、哲学、社会学、政治学、文学等々、隣接の諸分野の成果を学びつつ、今後その確立を目指している新しい分野でもある。もちろん社会思想史にも一定のディシプリンはあるが、むしろ新たな社会思想史をつくるという気概をもって研究に取り組んでもらいたい。

ゼミの活動は個人報告と輪読からなる。これまで輪読に使用した主な文献は以下のとおりである。

- ・アガンベン『ホモ・サケル』（以文社）
- ・アーレント『人間の条件』、『革命について』（ちくま学芸文庫）、『イェルサレムのアイヒマン』、『暴力について』（みすず書房）
- ・イリイチ『脱病院化社会』（晶文社）、『生きる思想』（藤原書店）
- ・カント『永遠平和のために』（岩波文庫）
- ・クーン『科学革命の構造』（みすず書房）
- ・シュミット『政治的なものの概念』（みすず書房）
- ・シンガー『実践の倫理』（昭和堂）
- ・セン『合理的な愚か者』（勁草書房）
- ・ハイエク『科学による反革命』（木鐸社）
- ・ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）
- ・バーリン『自由論』（みすず書房）
- ・フーコー『監獄の誕生』、『性の歴史』全 3 巻（新潮社）、『臨床医学の誕生』（みすず書房）
- ・プラトン『国家』上下（岩波文庫）
- ・マルクス『経済学・哲学草稿』（岩波文庫）
- ・J・S・ミル『自由論』（岩波文庫）
- ・ランシエール『民主主義への憎悪』（インストラプト）

2. 学生への要望

自分自身の問題意識と社会思想史という学問領域との接点を見いだしておくことが必要である。具体的には、以下の著作等を読んで、自分が研究したい大まかなテーマを決めておくこと。

- ・慶應義塾大学経済学部編『変わりゆく共生空間』、『マイノリティからの展望』、『家族へのまなざし』、『経済学の危機と再生』〈市民的共生の経済学〉全 4 巻（弘文堂）
- ・高草木光一編『「いのち」から現代世界を考える』（岩波書店）
- ・高草木光一編『一九六〇年代 未来へつづく思想』（岩波書店）
- ・高草木光一編『思想としての「医学概論」』（岩波書店）
- ・高草木光一『岡村昭彦と死の思想』（岩波書店）

3. 選考について

- 1 募集人員 AB 日程あわせて 8 名程度。
- 2 選考試験 小論文と面接による。小論文の課題は事前に知らせる。
- 3 選考基準 卒業論文を書く意欲と能力があるかどうかを判断する。

4. ゼミ員構成

3年生6名(男6名、女0名)(留学中0名)
4年生8名(男7名、女1名)(留学中0名)

5. 活動内容

①本ゼミ(水曜4・5限)

4限では、3年生による課題図書の輪読発表とそれに対するディスカッション、5限では、3年生による書評とそれに対するディスカッション、または4年生による卒論中間発表が行われます。今年度(2016年度)は、課題図書として丸山真男『「文明論之概略」を読む』(岩波書店)を読みました。書評では、マキアヴェリ『君主論』やプラトン『メノン』、ニーチェ『道徳の系譜学』などが扱われ、難解な内容に対する白熱した議論が交わされました。

②サブゼミ

今年度は実施しておりません。

③パートゼミ

今年度は実施しておりません。

④インゼミ

今年度は実施しておりません。

⑤課外活動

特にありません。

⑥三田祭

高草木ゼミは、三田祭論文に参加しておりません。そのため、4年生は卒論の準備や研究のために、3年生は自分自身の関心を深めるために自由に時間を費やすことができます。

⑦夏休み

合宿のほかには、特に活動はありません。合宿については後述します。

⑧合宿

夏休み中に2泊3日の合宿を行います。例年、箱根へ行き、箱根高原ホテルに宿泊しています。合宿では、主に全員分の書評の発表を行います。

⑨授業

必修の授業はありませんが、多くのゼミ員が

三田の高草木教授の「社会思想史」の授業を履修しています。

⑩経費

各学期に2～3冊の課題図書を購入する必要があります。また、合宿費が必要となりますので、併せて約3万円ほど経費がかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

筆記試験を実施する予定はありませんので、ゼミ試験対策の参考書はありません。しかし、課題レポートの題材として人文科学系または社会科学系の本を選択することになるので、各自の問題意識に照らして検討しておくとうまいでしょう。

7. 先生が担当している講義

社会思想史 a/b(三田春、水曜日1・2限)

8. ゼミHP

高草木ゼミではSNSでゼミ紹介や入ゼミ情報の提供をしています。ぜひご覧ください。

○Facebook @takakusagi.seminar

<https://www.facebook.com/takakusagi.seminar/>

○Twitter @keio_takakusagi

https://twitter.com/keio_takakusagi

9. 連絡先

外ゼミ代表 高須建吾

連絡先

内ゼミ代表 市川晃貴

連絡先 pasukaru1331@z7.keio.jp

入ゼミ担当 本間勇輝

連絡先 yuki-homma@a3.keio.jp

連絡先 峯岸佑太

連絡先 yuta.minegishi@a3.keio.jp

經濟史

太田淳研究会

飯田恭研究会

中西聡研究会

崔在東研究会

松沢裕作研究会

太田淳研究会

—経済史—

1. 究分野

東南アジア経済、東南アジア経済史

2. 学生への要望

東南アジアに強い関心があること、自分から進んで勉強する意欲があること

3. 選考について

- ① 募集人員：10名程度
- ② 選考内容：成績、面接
- ③ 選考基準：成績と面接に基づき、総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

3年生 11名(男 8名、女3名)(留学中1名)
4年生 0名

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (火曜二限)
本研究会の目的は、東南アジアという地域が今までどのような歴史的発展を遂げたのか、また、現在の経済・社会の状況はどのような歴史的背景に基づいているのかを追及することです。毎週東南アジアにおける様々な事象の文献を読み、ゼミ員による研究報告を基に議論を進め見識を深めています。ゼミ員の意見を尊重し、自分の興味、関心に沿ったテーマについて研究することも可能です。
 - ② サブゼミ
今年度はなし。来年度は要検討。
 - ③ パートゼミ
パートゼミの設置はありません。
 - ④ インゼミ
冬季に他大学のゼミと研究結果の発表会を開く予定です。
 - ⑤ 課外活動
月に1,2回程度、希望者で東南アジア地域の映画鑑賞や、一風変わった東南アジア料理を食べに行ったりします。こちらもゼミ員の希望に合わせて柔軟に対応します。
 - ⑥ 三田祭
三田祭では完成した三田論の発表を行う予定です。
 - ⑦ 夏休み
今年度は数回集まって三田論の研究を進めました。
 - ⑧ 合宿
今年度はなし、来年度以降希望者が多ければ検討します。
 - ⑨ 授業
ゼミ必修の授業はありませんが、とても面白い内容なので下記の先生の担当されている講義をぜひ受講してください。
 - ⑩ 経費
特に活動費などはありません。各イベント毎に随時経費を集めます。
6. ゼミ試験対策で使用した参考書
特になし
7. 先生が担当している講義
経済史入門Ⅰ(日吉、月曜5限)
Economic History of Asia(三田、火曜日4限)
8. ゼミ HP
<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/otaatsushi/>
「太田淳 慶應」で調べてもすぐ出てきません。

9. 連絡先

ゼミ代表 小川 洋平
連絡先 yoceans1205@z2.keio.jp
入ゼミ担当 奥村 真輝
連絡先 masaki.okumura619@gmail.com



飯田恭研究会

— 経済史・社会史・環境史
(農村と林野が中心) —

1. 研究分野

都市に生活する人々は、農村・林野と聞くと、それを直ちに「自然の息づく場所」だと考えがちである。しかし、農村・林野とは実のところ、人間がその時々を経済的・社会的要請に従って自然に手を加えつつ造り出し、また造り変えてきた「歴史的所産」なのである。この農村・林野の歴史(経済史・社会史・環境史)を、世界の様々な地域を比較しつつ研究していこうというのが、本研究会の課題である。ヨーロッパ(特にドイツ語圏)と日本が中心的な考察対象となるが、絶えず世界史的な文脈を意識することにした。

担当教員の専門は、近世・近代(特に17～19世紀)のドイツ農村・林野史および農村・林野史の日独比較であり、この(あるいはこれに近接した)テーマに取り組む学生に対しては、特に専門的な指導が可能である。

なお、本研究会における近年の輪読文献タイトル・三田祭論文タイトル・卒業論文タイトルの一覧が本研究会のホームページに掲載しているので、参考にしてほしい：
<http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/iidaken/>

2. 学生への要望

研究するということは、厳密に言えば、新たな「知」を生産する(オリジナルな論文を書く)ということである。だがそのためには、まず先人たちが蓄積してきた膨大な「知」(=著書・論文)を、労を厭わず読み重ね、それを精確に理解しなくてはならない。さもなければ、何がオリジナルな「知」たりうるのかも分からぬからである。その上で、自ら原史料を読んでそれを分析し、そこから新しい知見を産み出さなくてはならないのである。

もちろん、学部生の段階でこのような厳密な意味でオリジナルな論文を書くことができればそれに越したことはないのだが、学部生にこの水準を求めるのはやや酷である。そこで求められる卒論の水準を次のように考えてほしい。

外国史を研究する人には、英文ないし研究対象地域の言語で書かれた最新の(あるいは日本で未紹介の)著書を読破し、それを日本の学界に向けて紹介する、というレベルの卒論を最低限求める。ドイツ語文献にチャレンジする人は特に歓迎する。ドイツ語が未習だが、ドイツ語の文献にチャレンジしたいという学生向けに、三田でもドイツ語初習クラスが開設されている。積極的に活用してほしい。

日本史を研究する人には、自分のテーマに関する過去の研究文献を読破した上で、できる限

り史資料の分析に取り組み、独自の知見を産み出すことを求めたい。史資料解読の能力を養成するために、経済学部では、松沢准教授によって「日本史史料講読」という授業が開設されている。これを履修することを強く薦める。

3. 選考について

- ④ 募集人員：6名程度(他学部生も歓迎する)
- ⑤ 選考内容：レポート・面接・成績表の提示
- ⑥ 選考基準：レポート・面接・成績表から、研究を遂行していく上での前提条件(明瞭な問題関心・勤勉さ・経済史等の基礎知識)がととのっているかどうかを判断する。

ゼミ必修はありません。

4. ゼミ員構成

3年生(16期生) 男5名、女0名
4年生(15期生) 男4名(留学中1名)、
女0名

5. 活動内容

- ① 本ゼミ(火曜4・5限)
前期のゼミでは先生が指定された基本文献や最新文献の輪読をしました。今年度は『環境の経済史』(斎藤修著)、『ドイツ林業と日本の森林』(岸修司著)、『木材と文明 ヨーロッパは木材の文明だった。』(ヨアヒム・ラートカウ著 山縣光晶訳)を扱いました。担当者が内容の報告を行い、ゼミ生で疑問点や感想などを挙げディスカッションを行います。先生は豊富な知識をもとに丁寧に解説して下さいます。後期は三田論や卒論の中間発表も行います。
- ② サブゼミ
ありません。
- ③ パートゼミ
ありません。
- ④ インゼミ
三田祭の後、学内の経済史・社会史系ゼミでインゼミを開催し、三田祭論文の発表とディスカッションを行います。
- ⑤ 課外活動
ありません。
- ⑥ 三田祭
三田祭論文の発表を行います。
- ⑦ 合宿
今年度は行っていません。
- ⑧ 夏休み
三田祭論文・卒業論文のテーマを決め、文献・資料を読み進めていきます。補講時に、進行状況について報告を行います。
- ⑨ 授業

- ⑩ 経費
文献費や資料の印刷費など以外にはありません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありませんが、日頃から林業や森林破壊の問題などに興味を持ち、知識をつけておくと良いと思います。

7. 先生が担当している講義

経済史入門Ⅰ (春学期・水2) (日吉)

歴史的経済分析の視点 (秋学期・水2) (日吉)

専門外国書講読(半期)(独) (秋学期・木2)
(三田)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/iidaken/>

9. 連絡先

ゼミ代表代理 今井 直樹
連絡先 ni3ko1eg2@z7.keio.jp

入ゼミ担当 前田 峻登
連絡先 ryoto0224pisces@keio.jp

Twitter @iidaseminar

中西聡研究会

—近世・近代日本経済史—

1. 研究分野

本研究会では、19世紀から20世紀前半の日本経済を対象とします。その際、実証的研究を重視し、先行研究の書籍のみならず、統計資料・古文書など具体的な資料を利用して研究を進めることを期待します。もちろん、統計資料の扱い方や古文書の読み方は教員が指導しますので、技術的な予備知識は特に求めません。ただし歴史に強い関心をもって研究しようとする意欲のある方を望みます。

研究会の進め方は、文献講読と個別研究報告を組み合わせて行います。春学期は日本経済の歴史に関する基本的文献を輪読し、秋学期は個別研究報告を中心に進めます。3年生は、関東の他の大学とのインターゼミを実施していますので、三田祭発表に参加するとともに、その内容をインターゼミでも報告してもらっています。また博物館・資料館見学なども行い、そのなかで4年生に卒業論文として「完成」させる研究テーマを選んでもらいます。研究テーマは、19世紀から20世紀前半の日本経済に関することであれば特に制約を設けません。もちろん、4年生にはその研究テーマについて先行研究のフォローや自らの分析結果を含めてより具体的な報告を求めますので、自分が本当に研究したいテーマを選んで下さい。

参考までに、教員の研究テーマは、近世（江戸時代）～近代（特に明治・大正時代）における日本の市場構造、商家経営や消費生活に関することで、代表的な著作として、中西聡『近世・近代日本の市場構造』（東京大学出版会、1998年）、中西聡『海の富豪の資本主義』（名古屋大学出版会、2009年）があります。

教員の研究スタイルとして、日本各地の旧家を訪れ、その蔵に所蔵されている古文書を長い時間かけて整理させていただき、それらを解読・分析して論文にまとめるという地道なフィールド・ワークを行っています。そのため、これまでに日本のかなりの地域を調査して巡りました。趣味は鉄道です。また推理小説も愛読しています。

2. 学生への要望

本研究会では、研究分野から考えて、根気と行動力が求められると思われます。前述のように本研究会では、東京近郊の現地調査（博物館・資料館巡り）を研究会メンバーで一緒に行っていますので、真剣に歴史研究をしてみたい方にはお勧めの研究会と言えます。ただし、望んだ資料にすぐ出会えるわけではないので、卒業論文作成の

ためには何よりも粘り強さが求められます。とは言え、そうした粘り強さは、学生諸君が社会人になった際に、必ずプラスになるでしょう。

なお、研究分野から考えて、卒業論文の作成にかなりの時間が取られると思われるので、卒業に必要な単位を順調に修得しており、3・4年次は、研究会での研究にそれなりの時間を割くことの可能な学生を望みます。

3. 選考について

①募集人員：6～8名程度

②選考内容：レポート、面接、成績表をもとに総合的に判断します。

*他学部志望者も同様の選考内容で行います。

4. ゼミ員構成

3年生 7名(男7名、女0名)(留学中0名)
4年生 7名(男7名、女0名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜4・5限)
前期は中西先生の「日本経済の歴史」
(名古屋大学出版会)を輪読し、その
後三田祭のテーマ決め。後期は三田祭
の準備と4年生の卒論発表
- ② サブゼミ
なし
- ③ パートゼミ
なし
- ④ インゼミ
なし
- ⑤ 課外活動
フィールドワーク (年4回)
6月…貨幣博物館、江戸東京博物館
9月…未定(鉄道博物館、渋沢資料館)
12月…未定(貨幣博物館、郵政博物
館)
3月…未定(江戸東京博物館)
()内は去年のものです
※強制参加ではありません
- ⑥ 三田祭
第1章 陸運網と内地流通
第2章 海運網と対外交易
この2章構成で、「近代日本の交通網
と商品流通」という一つの論文を仕上
げます。

合宿
なし
- ⑦ 夏休み
各自で三田祭の論文で使う文献を読む
だけで集まりなどはありません
- ⑧ 授業
中西先生の日本経済史 a/b を履修して
いるゼミ員がほとんどですが、必修で
はありません
- ⑨ 経費
教科書代
フィールドワークの交通費など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日本経済の歴史 (中西聡編)

※ゼミ試は「これまで日本経済史について勉
強してきたこととこれから勉強していきたい
こと」についての2000字のレポートと面接で
す。この中西先生の本を読んで自分がどの分野
を研究したいかを考えておくといいでしょ

う!

7. 先生が担当している講義

日本経済史 a/b (三田、水曜日3限)
経済史入門Ⅱ (日吉、金曜日2限)

8. ゼミ HP

なし

9. 連絡先

外ゼミ代表 竹内 宏
連絡先 rikarika@runrun.keio.jp
入ゼミ担当 安彦 伊織
連絡先 waffle1995@icloud.com

崔在東研究会

—近代社会経済史—

1. 研究分野

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀前半のロシア・ソ連の社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済史的研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族一世帯」、「共同体」、「土地」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族一世帯」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「ジェンダー」、「人口」、「植民と移民」、「農民運動」、「社会主義」、「労働と労使関係」などもその射程に入る。

前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

なお、研究会はあくまでも学生が主体となって自主的に運営されることを原則とする。

2. 学生への要望

何よりも論理的な思考を通じて、自分なりの見解を確立していくことを重視したい。人の意見を鵜呑みにすることなく、さまざまな意見や論理について常に問いかけ、物事を広く相対的に見る姿勢を身に付けていくことを願っている。

なお、経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有できることと、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

3. 選考について

① 募集人員

A 日程、B 日程あわせて10～15人程度（経済学部以外の学生も含む）

② 選考方法

- ・ 欧文または和文論文のレビューの提出
- ・ 面接：志望動機、関心のあるテーマ、語学力（英語、ロシア語、韓国語、その他）、

現代と歴史についての問題意識などを問う。

- ・ 成績表のコピーの提出

③ 選考基準

志望動機と問題意識、語学力を重視する。

4. ゼミ員構成

3年生 19名(男13名、女6名)(留学中0名)
4年生 22名(男22名、女0名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ(火曜4・5限)・・・授業の前半は三年生が主体となって輪読を行い、後半は四年生が自分の去年の三田祭論文の内容を紹介するとともに、卒論のテーマ設定を行います。三田祭の時期が近づくと三年生も三田祭論文のテーマ設定を徐々に進めていきます。輪読は毎週三人が指定され、教材の要約と疑問点を挙げだします。これを元に指定されたコメンテーターが自分の意見を述べます。
- ② サブゼミ・・・ありません
- ③ パートゼミ・・・ありません
- ④ インゼミ・・・ありません
- ⑤ 課外活動・・・ありません
- ⑥ 三田祭・・・三田祭論文の発表を行います。
- ⑦ 夏休み・・・各自研究を進めつつ、自由に過ごしています。
- ⑧ 合宿・・・先生が温泉好きであるため、毎年温泉地での合宿を決行しています。今年の合宿は、残念ながら先生のご都合が悪く、生徒のみの参加となりました。一泊二日で箱根に行きました。
- ⑨ 授業・・・ゼミ必修授業はありません。
- ⑩ 経費・・・ゼミ運営費用の他、合宿参加者は合宿費を支払う必要があります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

入ゼミエントリー後に先生が指定してください。

7. 先生が担当している講義

専門外国書購読(露)(三田、春学期、火曜日1・2限)

Economic History of Russia(三田、秋学期、火曜日1・2限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/choi/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 大塚 雄登

連絡先 yutooo.0824@gmail.com

内ゼミ代表 奥泉 亮

連絡先 7911oku@gmail.com

入ゼミ担当 矢野 真理

連絡先 ruruandmukku@gmail.com

松沢裕作研究会

— 日本社会史 —

1. 研究分野

この研究会では、日本の近世・近代社会（19世紀・20世紀前半の日本社会）のあり方を取り扱う。

本年度春学期は、三年生は、横浜近代史研究会編『横浜近郊の近代史』の輪読と、『神奈川県史 資料編』の共同研究をおこなった。その後は三田祭論文に取り組んでいる。三田祭論文の共通テーマは「都市横浜の社会資本整備」となる予定である。

四年生は主として卒業論文の執筆に取り組んでいる。

ゼミナールの最終目標は、各自が自らのテーマを設定し、一次史料に基づく卒業論文を執筆することである。卒業論文テーマの設定は自由であり、実際にこれまでも多様なテーマが選択されている。

その研究方法は歴史学的なものであることが求められる。その際必要となるのは、史料の精密な読解である。史料の書き手は現在の私たちとはことなった環境のもとに暮らしていた人々であり、私たちの経験を安易に投影してはそれを読み誤ることになる。

なお、担当者自身の研究課題は、おおざっぱに言えば、「明治維新」ということになる。「明治維新」といっても、有名な指導者による華やかな政治の世界だけが問題なのではない。「明治維新」は社会全体のおおきな変化であり、それは政治・経済・文化といったさまざまな側面に及ぶものである。担当者は、これまで、主として関東地方の農村をフィールドとして、そうした変革がどのような論理によって生じたのかを研究してきた。

担当者の研究については、『自由民権運動』（岩波新書、2016年）がもっとも簡易なものである。その他の業績についてはhttp://researchmap.jp/yusaku_matsuzawa/を参照していただきたい。

2. 学生への要望

経済学部生の皆さんは、これまでの学習を通じて、経済学のさまざまな理論やその現実への応用について学んでこられたものと思う。経済学の理論の明晰さ、またそれによる現実の分析の鋭利さは、人間が、自分たち自身の社会を理解するうえで獲得した、人類の貴重な知的遺産である。

しかし一方で、経済学理論の明晰さ、鋭利さに魅せられつつも、どこか現実の複雑さを前にして納得の行かない気分を抱えている人もいるのではないかと思う。そうした場合、歴史とその複雑さの世界に身を浸してみるのも、賭けてみる価値のある試みではないだろうか。

私たちの日常生活は些細な出来事の積み重ねでできている。史料を残した過去の人々という、他者の声を謙虚に聞くこと、他者のかすかな声に耳を澄まし、そこに意味を見出していくことは、私たちが日常生活のなかで出会うささいな経験をよりよく理解するために益するところがある。そして、過去の人びとのかすかな声を確かに聞き取ることができたとき、そこには確かな手ごたえと喜びがあろう。

そのように過去の人々向き合うためには、しかし、現代に生きる私たちの側にもそれなりの準備が必要である。そのため、学生のみなさんには、なるべくたくさん書籍や文献に目を通してほしい。幸い慶應義塾大学は優れた図書館を有している。在学中に徹底的に図書館を利用することを強く要望したい。

また、三田で設置されている科目「日本史史料講読 a/b」の履修が研究会参加の条件である。

3. 選考について

- ①募集人員：全日程合計8名
- ②選考内容：レポートと面接による。
- ③選考基準：レポート課題となる文献を正確に読解できているか否か。

4. ゼミ員構成

3年生 10名(男10名、女0名)
4年生 8名(男8名、女0名)

5. 活動内容

①本ゼミ (火曜 4、5 限)

春学期は『横浜近郊の近代史 橘樹郡にみる都市化・工業化』と『神奈川県史』の2冊を使って発表を行いました。

秋学期は主に3年生は三田祭論文、4年生は卒業論文に向けた準備を進めていく予定です。

②サブゼミ 現在のところなし。

③パートゼミ 現在のところなし。

④インゼミ 現在のところなし。

⑤課外活動 本ゼミの内容にかかわる巡見を行なった年もあります。

⑥三田祭 「横浜近郊の資本整備」をテーマに個人論文の作成を予定しています。

⑦夏休み 今年は合宿のみでした。

⑧合宿 1泊2日で富岡製糸場付近を巡見します。またその際各自三田祭論文等の準備を行う予定です。

⑨授業

ゼミ必修授業として日本史資料講読 a, b(今年は金曜2限、通年)があります。

⑩経費

現在のところなし。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

レポート課題図書：満園勇『商店街はいま必要なのか 「日本型流通」の近現代史』。講談社. 2015

7. 先生が担当している講義

日本史資料講読 a, b(三田、金曜日2限)

歴史的経済分析の視点(日吉春、水曜日2限)

社会問題Ⅱ(日吉、秋水曜日5限)

8. ゼミ HP

Twitter : @matsuzawasemi

9. 連絡先

外ゼミ代表 河上航

連絡先 w.dg0904.did@gmail.com

入ゼミ担当 宮坂航一郎

連絡先 miyasaka343@gmail.com

經濟地理

河端瑞貴研究会

武山政直研究会

直井道生研究会

河端瑞貴研究会

—空間社会経済研究、地理情報システム (GIS) —

1. 研究分野

「空間」を切り口に、現実の都市・地域の社会経済問題を分析します。分析には、GIS (地理情報システム) を活用します。GIS の強みは、空間情報を視覚化 (マッピング) できるだけでなく、空間的位置関係に基づく分析を行えることにあります。日本では、2007 年に地理空間情報活用推進基本法が制定され、GIS の活用に必要な空間データの整備や提供システムも進んでいます。

GIS と空間データが発達したことにより、都市・地域の「空間」に関わる諸問題を、新たな視点で分析できるようになっています。医療、環境、交通、福祉、防災などの政策課題には、都市・地域の空間構造と密接に関わるものが少なくありません。発達の著しい GIS と詳細な空間データを適切に活用すれば、分析手法の精緻化や新しい知見を与えることができると期待されます。

GIS ソフトウェアとしては、主に ArcGIS を利用します。慶應義塾大学には ArcGIS のサイトライセンスが導入されており、塾生は無料で利用できます。

2. 学生への要望

都市・地域の「空間」(地理)に関わる社会経済問題に興味があり、研究したい人。また、GIS の習得と活用に意欲のある人を歓迎します。

3. 選考について

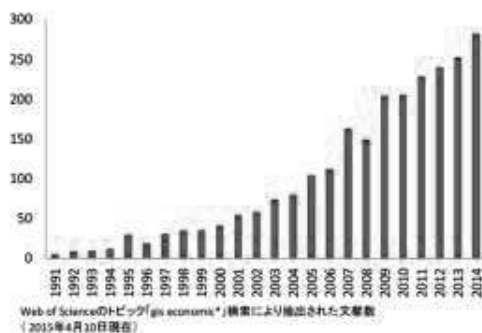
①募集人員：15 名

②選考内容：

- i. 1 次試験：筆記試験 (統計学、ミクロ経済学 (教科書持込可、電子機器持込不可))
- ii. 面接試験 (1 次試験合格者のみ)

・
・
・
・

- ・ 試験当日に、成績表を持参してください。(1・2 年) [学籍番号・氏名を記載した keio.jp 印刷物可]
- ・ 願書の志望理由の中で、研究してみたい都市・地域の「空間」に関わる社会経済問題を説明してください。
③選考基準：先輩・仲間と協力しながら、積極的に研究会をつくり、関わろうとする学生を歓迎します。
最新情報については、教員および研究会ホームページを確認してください。



GIS と経済に関連する学術文献数



地震による建物倒壊危険度 (東京都)

4. ゼミ員構成

3年生 15名(男11名、女4名)(留学中1名)
4年生 21名(男13名、女8名)(留学中0名)

5. 活動内容

①本ゼミ (水曜3・4限)

本ゼミでは1. 輪読 2. GIS 演習 3. 論文報告の三つを行っています。

1. 輪読は経済地理・都市経済学・計量経済学についての本を主に取り扱い、知識を深めています。

2. GIS 演習では前半にスキルを学び、そのスキルを用いてグループごとにテーマを決めて経済的分析を行っています。スキルだけではなく有効な使い方や切り口についても学ぶことが出来ます。

3. 論文報告では、4年生は卒業論文、3年生は三田祭論文について定期的に報告を行っています。

②サブゼミ (水曜5限)

サブゼミは3年生のみで自主的に行います。現在はGIS演習や論文の研究を進めています。

③パートゼミ

現在は行っていません。

④インゼミ

現在検討中です。

⑤課外活動

現在特筆すべきものはありません。

⑥三田祭

3年生が5人程度のグループに分かれて論文を作成し発表します。

⑦夏休み

ゼミ合宿と論文発表、班それぞれでの研究を行います。

⑧合宿

毎年8月に関東周辺で二泊三日程度の合宿を行っています。オンオフをはっきりとした楽しくも充実した合宿です。

⑨授業

ゼミ必修として、河端先生の経済地理は必ず履修します。また計量経済学の基礎的な知識が必要となるため、計量経済学の授業も推奨されています。

⑩経費

教科書代、合宿費用など。また本ゼミで使用するGISは比較的要求スペックの高いソフトウェアです。自宅などで使用する場合、ある程度のスペックを持ったPCが必要となります。詳

しくはゼミ員にお尋ねください。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日吉時代に使用したマイクロ経済学、統計学の参考書。特別に推奨されている参考書はありません。

7. 先生が担当している講義

経済地理(三田、水曜日2限)

経済と環境(日吉、月曜日2限)

8. ゼミHP

<http://kwbt.wp.xdomain.jp/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 小林 寛英

連絡先 kobahiro8.1@docomo.ne.jp

内ゼミ代表 多田 拓明

連絡先 hiroaking0@gmail.com

入ゼミ担当 高尾 均

連絡先 hitohito.t@gmail.com

武山政直研究会

—サービスのデザインとイノベーション—

1. 研究分野

本研究会では、サービスデザインの方法論を学ぶとともに、サービス発想からのビジネスイノベーションをテーマに実践的な研究を行います。

サービスデザインは、1980年代に誕生した、デザインとビジネスを横断する知のフロンティアです。特に近年のサービスは、情報ネットワークの発展と普及を背景に、人の活動、モノ、メディア、活動、場所の組み合わせによって実現されるようになってきました。そのような様々な資源の組合せによって、新たな価値や事業を生み出すことに、この分野のチャレンジと面白さがあります。

研究への導入として、まずデザイン思考を体験的に学びます。デザイン思考は、問題の性質や範囲が明確でない状況において、探索的に問題と解答を同時に導いていく創造的な問題解決法です。それは、抽象と具象、感覚と論理を往復するところに特徴があります。またデザイン思考への入門に続き、戦略的にサービスのイノベーションを生み出すためのデザインディスコースや発想法、共同デザインワークショップなどの技法を順に習得していきます。

研究活動の多くは大学と企業の連携による産学共同研究プロジェクトとして遂行され、他学部の研究室とのコラボレーションも行っています。

2016年度に取り組んでいる研究テーマは、以下の通りです。

- 1) 地域の魅力を引き出す未来のスマートステーションのビジョンづくり
- 2) 中高生とともに地域のモビリティの未来を考える、発想触発型カスタマージャーニー
- 3) コワーキングスペースの知的交流を促す、社会人と学生の共創サービスデザイン
- 4) 2020年のオムニチャネルショッピング体験のサービス提案

2. 学生への要望

社会やビジネスの構造が大きく変動する今日において、新しい価値を生み出すために、正解の無い可能性の世界を探索し、未来に形を与えていく、創造力やデザイン力が求められています。

創造やデザインというと、特別な才能を持った限られた人間の話と思われがちですが、今あるものを変えたいという強い意思や、未知の世界と戯れる遊び心や好奇心を持つすべての人に、そのような能力を発揮するチャンスが与えられています。

現在の学校教育では既存の問題に正解することが重視され、自ら新しい問題を設定し、答えをデザインすることを学ぶ機会は、ほとんど与えられていません。多くの学生たちも、大学の授業やゼミを、体系化された知識を身につけ、それをを用いて正解を導くスキルを学ぶ場ととらえているのではないのでしょうか。

本研究会では、製品やサービス、ビジネスモデル、社会の組織や制度、知識や常識は決して正解ではなく、すべて可変であるとの前提から知的な冒険をはじめます。そして、これまでにない新たな豊かさや喜びをつくり出そうとする意思と勇気を持った学生たちが、志を同じくする学内外の人々との交流を通じて、自らのアイデアを具現化する試行錯誤を繰り返しています。

このような研究会の問題意識と文化に共感し、世の中をプレイフルに変えていくスピリットに満ちあふれた学生との出会いを、心より楽しみにしています。

3. 選考について

- ①募集人員：15名程度
- ②選考内容：
 - 1次) レポートと成績票コピー
 - 2次) 面接
- ③選考基準：研究動機ほか

4. ゼミ員構成

3年生 13名(男6名、女7名)(留学中 0名)
4年生 13名(男7名、女6名)(留学中 0名)

5. 活動内容

- ①本ゼミ (月曜 4,5 限)
ゼミ員全員で集まり、各班ごとにプロジェクトの進捗を共有し、先生よりフィードバックをいただきます。
- ②サブゼミ (水曜日 4,5 限)
- ③パートゼミ (不定期)
サブゼミ・パートゼミでは班ごとにプロジェクトに取り組んでいます。
- ④インゼミ
特になし
- ⑤課外活動
フィールドワークを行ったりします。
- ⑥三田祭
特になし
- ⑦夏休み
9月前半に中間報告会があります。
- ⑧合宿
年に2回、合宿を行っています。
- ⑨授業
必修ではありませんが、ゼミ生の多くは月曜日2限の経済地理の講義を履修しています。
- ⑩経費
特になし

6. ゼミ試験対策で使用了参考書

レポート提出のため、各自で異なります。

7. 先生が担当している講義

経済地理(三田、月曜日2限)

8. ゼミHP

<http://keg-lab.jp>

9. 連絡先

外ゼミ代表 鈴木 亮也

連絡先 suzukiryoya@keio.jp

内ゼミ代表 佐野拓海

連絡先 takumi.0929@a3.keio.jp

入ゼミ担当 眞勢 瑛礼奈

連絡先 dnc.elena.smf@gmail.com

直井道生研究会

—都市経済学・応用計量経済学—

1. 研究分野

この研究会では、都市や地域における経済活動を分析の対象とする、広い意味での都市経済学を扱います。研究会では、都市経済学の考え方や分析ツールを習得するとともに、それらを現実の経済問題に応用し、経済学的な観点から自身の見解を持てるようにすることを最終的な目標とします。また、分析のアプローチとしては、経済理論に基づく分析に加え、計量経済学の手法を応用した実証分析を重視します。したがって、研究会では、現実の経済問題に対する理論的な分析から始まり、そこから導かれた仮説を検証するためのデータの収集やパソコンを用いた計量経済学的な分析手法などの、一連の分析スキルを身につけていきます。

本ゼミでは、都市経済学および隣接分野の教科書や、個別のトピックに関する専門論文を講読し、ゼミ生によるプレゼンテーションを行うことを予定しています。ここでは、自分が理解した内容や主張などを、分かりやすい形で他人に伝えるためのプレゼンテーションスキルを身につけます。また、基礎となる分析スキルについては、サブゼミや担当者による演習などを通じて、身につけていくことになります。上記に加え、他大学とのインターゼミも実施する予定です（本年度は東京大学田淵ゼミとのインターゼミを実施予定）。

これらの活動を踏まえ、三田祭論文および卒業論文では、自身の問題意識に基づいてテーマを設定し、それを経済学的に検討していきます。取り上げるテーマは、広く応用ミクロ経済学のカバーする範囲であれば、必ずしも都市問題に限定しませんが、その場合にも、原則として経済理論に基づく仮説の設定とデータを用いた実証分析を行うことが求められます。

なお、参考までに、これまで研究会で取り上げた文献には、次のものがあります。

- O'Sullivan, A. (2011) *Urban Economics*, 8th edition, McGraw-Hill.
- McDonald, J.F. and D.P. McMillen (2010) *Urban Economics and Real Estate: Theory and Policy*, 2nd edition, Wiley.
- Moretti, E. (2012) *New Geography of Jobs*, Houghton Mifflin Harcourt.

- Brueckner, J.K. (2011) *Lectures on Urban Economics*, MIT Press.
- Wooldridge, J.M. (2012) *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 5th edition, Cengage Learning.

2. 学生への要望

都市問題に限らず、現実の諸問題に対して幅広い興味を持つ人を歓迎します。また、経済理論をさまざまな現実の問題に応用し、かつそれらをデータによって実証的・客観的に検討してみたいという人を歓迎します。

入ゼミあたっては、日吉でのミクロ経済学初級および統計学の単位を取得していることを前提条件とします。その他、計量経済学概論、情報処理などの科目についても、履修していると、研究会での学習に役立つと思いますが、必須ではありません

3. 選考について

①募集人員：10名程度（A・B日程合計）

②選考内容：ミクロ経済学・英語についての筆記試験および面接

※形式はA日程、B日程とも共通です。ミクロ経済学の試験では、日吉のミクロ経済学初級で学習した内容を確認します。また、面接は教員によるものとゼミ生によるものを個別に実施します。参考資料として成績表コピーを当日持参のこと。

③選考基準：上記の筆記試験と面接による、総合評価で選考を行います。

4. ゼミ員構成

3年生 17名(男12名、女5名)(他学部2名)
4年生 14名(男9名、女5名)(留学中2名)

5. 活動内容

① 本ゼミ(月曜4・5限)
本ゼミでは都市経済学と計量経済学についての英語のテキストを担当制で輪読していきます。2人1組で担当箇所をパワーポイントにまとめて発表する要領となっています。

② サブゼミ
行っておりません。

③ パートゼミ
行っておりません。

④ インゼミ
12月に東大の田渕ゼミとのインゼミを行っています。

⑤ 課外活動
任意でISFJ(日本政策学生会議)への参加を決め、それに向けた論文作成を行っています。
加えて東大の田渕ゼミとのインゼミ。

⑥ 三田祭
三田祭に向けた論文の作成。

⑦ 合宿
今年度は9月12日～14日に合宿を開きました。主に4年生の卒論と3年生の三田論の中間発表を行いました。

⑧ 夏休み
特に決まった集まりなどはありませんが、三田論作成のためにグループごとに集まることになると思われます。

⑨ 授業
ゼミ必修
金曜2限「都市経済学」(直井道生)
火曜1・2限「演習」(直井道生・別所俊一郎・山田篤裕・津谷典子)

⑩ 経費
ゼミ合宿費として2万5千円ほど。

6. ゼミ試験対策で使用了参考書

基本的には日吉のミクロ経済学の授業範囲からの出題なので、授業プリントなどで充分だと思われる。

7. 先生が担当している講義

都市経済学(三田、金曜2限)

演習(三田、火曜1・2限)

マクロ経済学初級I(日吉、木曜2限)

経済と環境(日吉、水曜1限)

8. ゼミHP

<http://keionaoiseminar.wordpress.com/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 味村 俊吾

連絡先 ajimuraz8@yahoo.co.jp

入ゼミ担当 野島 祥嗣

連絡先 nojisho0522@gmail.com



計量經 済・統計

伊藤幹夫研究会

河井啓希研究会

田中辰雄研究会

辻村和佑研究会

長倉大輔研究会

宮内環研究会

星野崇宏研究会

伊藤幹夫研究会

— 金融市場データの理論分析・計量分析 —

1. 研究分野

伊藤研究会では、ここ数年間は金融市場に対して統計学的手法を用いた実証研究を行なってきました。具体的にはテクニカル投資戦略の有効性のブートストラップ法による検証、信用リスクの測定、株価の国際連関、株式価格の予測可能性、伝統的 CAPM 理論の検証などです。

研究会において学生諸君は、最近の金融理論、金融市場構造の実証に関する統計的方法、実際に実証を行う場合のデータ処理の方法を講義と演習から学びます。また、比較的入手しやすいデータを用いて、様々な実証研究を行ない、その成果を逐次 Wiki 上で発表します。

2016 年度は国際為替市場の動学的特性をゼミのテーマとしました。前期は近年の金融関連の法律の改正を含む歴史的・制度的な調査・学習に力をいれる一方、株式市場・債券市場についての基礎的な事項の学習を行いました。さらに、本格的な実証分析を行なう後期への準備として、解析・線型代数・確率と統計に関する学習を平行して行ないました。2017 年度も前年度と同様に金融市場に関連したテーマでゼミを行なう予定です。

なお研究会では、レポーターの一方的な発表にならないように、レポーターが内容に関して詳細なレジюмеの作成のみを求められるのに対して、レポーター以外のゼミ員は、レポーター用課題の内容に関連して個別に課題を与えられます。また、ゼミで用いる文献の内容についても、レポーター以外のゼミ員が調べ、ゼミの時間内に発表するという運営形態をとります。サブゼミは、コンピュータや計量経済学、統計パッケージの使用方法などを学びます。

4 年次の卒論は、就職活動が一段落した者から着手します。テーマは 3 年次のゼミの活動に関連したものに限って、相談の上で決めます。

この研究会の特徴は、経済学とファイナンスをいろんな角度から学ぶという点にあります。ゼミに入会した学生諸君は、理論を学ぶにしろ実証的手法を学ぶにしろ、どちらかに特化することなく両方をバランスよく学ぶことを求められます。また自ら体と頭を積極的に動かして、さまざまな経験を積むことが求められます。研究会活動は、授業時間の前、まさに時間中、授業後の随時、研究会の Wiki サーバーにアップロードされことも特徴と言えるでしょう。

ゼミ活動では共同作業を重視します。各人はゼミの活動にあたっての基本的なこと（図書館での資料の調べかた、NEEDS データのダウンロードのやり方、文書作成と共有、R などの統計・計量パッケージソフト、PowerPoint のようなプレゼンテーション・ツール、Google の特殊検索機能など）を習得した後は、各人は自らの特技（コンピュータ、図形作成、文書作成、データ処理、数学、統計学、資料検索、英語）を伸ばし、ゼミ活動における共同作業において独自の貢献ができることを要求されます。

過去の活動については

<http://www.math.keio.ac.jp/itoseminar/index.php?FrontPage>
を参照してください。

2. 学生への要望

研究会活動を含め大学における学習・研究活動が、将来の糧となるのか無意味な時間つぶしになるのかは、学生諸君の動機付けに一重に依存します。研究会に参加するならば、積極的な動機付けを自らに課してほしいと思います。

3. 選考について

- 1、募集人数、15 名程度 (AB 日程合計)
- 2、選考、レポートと 4 年生による面接
- 3、選考基準ゼミ活動に関して、本氣になれるかどうか

4. ゼミ員構成

3年 13名(男10名、女3名)

4年 8名(男8名)

5. 活動内容

①本ゼミ(水曜4・5限)

春期は数学や統計、金融に関する基礎知識の復習を講義形式で、秋期はRを用いての実習を行います。

②サブゼミ

③パートゼミ

サブゼミとパートゼミはありません。

④インゼミ

実施予定はありません。

⑤課外活動

実施予定はありません。

⑥三田祭

三田祭への論文提出は行いません。

⑦夏休み

合宿以外の活動はありません。

⑧合宿

フリーソフトのRを実際に使用できるようにするため、毎年合宿が行われています。今年度は3泊4日の日程で行われました。

⑨授業

ゼミ必修の授業はありません。

⑩経費

合宿費のみです。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

・金融工学の悪魔(著:吉本 佳生)

・世界一やさしい金融工学の本です(著:田淵直也)

・文系人間のための金融工学の本(著:土方薫)

7. 先生が担当している授業

マクロ経済学中級Ⅱa(春・水2)

マクロ経済学中級Ⅱb(秋・水2)

8. ゼミHP

<http://www.math.hc.keio.ac.jp/itoseminar/>

9. 連絡先

外ゼミ代表:伊東貴広

連絡先:takahiroito@gmail.com

入ゼミ担当:加藤大地

連絡先:rsbjack1@gmail.com

河井啓希研究会

一応用マイクロ計量経済学、産業組織論、
医療経済学—

1. 研究分野

私の研究会では「応用マイクロ理論にもとづく実証分析」についての研究を行います。

近年のマイクロ経済学では、従来の理論では出てこなかった製品の品質、財の差別化、情報の非対称性といった問題を明示的にとりあげた研究が盛んとなっています。一方、計量経済学では企業や家計の詳細なマイクロデータの蓄積から、質的選択モデル、パネル推計、セミパラメトリック推計等の新しい分析手法が開発されています。

従来、計量経済学はマクロモデルに代表される景気や経済成長の大まかな推測に利用されてきましたが、近年では上記の理論とデータの蓄積からより具体的な政策評価に利用されています。例えばアメリカでの通信産業や航空機産業自由化等の政策決定においてたくさんの実証研究が報告されています。

私は2年間のゼミナールを通して応用マイクロ理論、計量経済学理論、コンピュータ等の分析手法の基礎的なトレーニングを行います。最終的には学生の皆さんが疑問に感じた政策的な問題を経済理論にもとづいて解釈したうえで実証分析を前提とした具体的な政策提言をできるまでのお手伝いをしたいと思っています。

今年の本ゼミでは、ベサンコほか『戦略の経済学』ダイヤモンド社の輪読を行っています。各章で登場するトピックに合わせて、自然独占と最適規制、同質財寡占市場とカルテル形成、製品差別化と市場支配力、価格差別、情報非対称性、標準化とネットワーク等といった産業組織論や医療経済学の理論についても取り挙げます。

3年生の段階で計量経済学の基礎理論と離散選択モデル等のより高度な方法論を学習するため三田で開講されている計量経済学中級ならびに上級を履修してもらっていますが、本ゼミでも Greene, *Econometric Analysis*, Prentice Hall と Stock & Watson, *Introduction to Econometrics*, Pearson を利用しながら理論だけでなく統計パッケージ (R と stata) を用いた実習をおこないます。

2. 学生への要望

理論的な興味ばかりでなく政策的な問題意識をもち、自分で実証分析をやってみたいという意欲的な学生を募集します。しかし自分でやりたいテーマを現段階で持っていなくとも結構です。ゼミ活動を通じて必ずテーマを見つけることが出来るはず。日吉ではマイクロ経済学、マクロ経済学、統計学をしっかり勉強してきてください。また輪読する論文はすべて英語なので多読に慣れていることも必要です。計量経済学のゼミなので、計量経済学概論や情報処理についてご存知ならばより望ましいです。

3. 選考について

募集人員：16名程度 (A B 両日程)
選考内容：簡単な筆記試験 (マイクロ経済学と統計学、90分)、面接試験 (10分)
選考基準：最低限の知識とあふれる意欲
筆記試験の範囲など詳細についてはゼミの Web
Page (<http://seminar.econ.keio.ac.jp/kawai/>) を参照してください。

4. ゼミ員構成

3年生 21名(男18名、女3名)

4年生 25名(男24名、女1名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜4・5限)
4限は3年生が応用ミクロ経済学の参考書である『Economics of Strategy』(David Besanko 著)の日本語版を輪読します。章ごとに割り当てられた3年生がプレゼンを行い、先生やゼミ生が質疑応答しながら、理解を深めていきます。
5限は先生が選んだ様々な分野の専門論文を3・4年生と一緒に輪読を行います。また、秋には4年生の卒論の中間発表も行われます。
- ② サブゼミ
春学期に産業研究所が主催する計量ソフト Stata の講習に参加し、扱いに習熟します。
- ③ パートゼミ
パートごとに様々で、週1～2で集まり、三田祭の研究発表にむけて準備を進めます。
- ④ インゼミ
なし
- ⑤ 課外活動
なし
- ⑥ 三田祭
三田祭論文は全三年生が取り組みます。今年度の全体テーマは「技術革新」です。1パート4～5人に分かれ、グループでテーマを決め、論文を執筆します。今回は、自動車・宅配・農業・医療・食品の5つのパートに分かれて研究を行っています。
- ⑦ 合宿
9月:夏合宿 二泊三日で草津温泉に行きます。初日に3年生は三田論の中間発表を、4年生は卒業論文の中間発表を行います。2日目はスポーツや観光をし、親睦を深めます。
- ⑧ 夏休み

三田論の各パートで集まり、研究を進めます。夏合宿での中間発表に向けて準備をしていきます。

- ⑨ 授業
 - ・計量経済学中級 (火曜1・2限、春集)
 - ・計量経済学上級 (金曜2限、通年)
 - ・産業組織論 (水曜3限、通年)

- ⑩ 経費
合宿費合計3万円程度
テキスト代

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ミクロ経済学 (武隈真一)
演習ミクロ経済学 (武隈真一)

7. 先生が担当している講義

統計学Ⅰ・Ⅱ (日吉、水曜日2限)
計量経済学上級a (三田、金曜日2限)
医療経済学 (三田、今年度は休講)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/kawai/index.html>

9. 連絡先

Twitter @kawaizemi2017

ゼミ代表 榛村光哲
shimmura-1m@excite.co.jp
入ゼミ代表 川又祐子
ma2074yu@gmail.com



田中辰雄研究会

—IT 産業の実証分析—

1. 研究分野

本研究会では、情報化をテーマとして、計量経済分析の基礎と応用を学ぶ。

1990年代末から始まる情報化の流れに日本は乗り遅れ気味であった。近年ではブロードバンド化と携帯電話などで失地を回復し、アニメやテレビゲームなどコンテンツの分野で一定の成功を収めたが、これも近年、iPhoneやiPad、そして電子書籍など新しい動きに翻弄されている。

このようにIT産業での近年の変化はめまぐるしい。このような変化を経済学としてどうとらえるべきだろうか。日本がIT分野で出遅れた理由はどこにあるのか。復活の道筋はあるのか。また、IT産業の各分野について経済政策としてできることがあるだろうか。本研究会では、このような問いに対して、実証的に着実に分析することをテーマにする。この分野はデータが未整備であるので、まずデータの収集から始めなければならない。理論の学習→仮説の設定→データの収集→計量での実証という通常の研究サイクルをそのままとることになる。このようなサイクルは学者やシンクタンクなどの調査に携わる者であれば誰でもとどるものであるが、大学でこのサイクルをきちんととどる機会はゼミしかない。本ゼミではこのサイクルを一通り体験してもらおうことになる。

2. 学生への要望

広い意味でのIT産業のどこかの分野に興味のある人か、あるいは計量分析に興味のある人を歓迎する。

広い意味でのIT産業とはコンピュータと通信だけに限らない。取り上げるテーマとして予想されるものをあげておく。ソフトウェア産業、情報化と産業組織、情報家電、携帯電話、iPhone、スマートフォン、電子書籍、ゲーム・映画・アニメ・音楽などコンテンツ産業、ベンチャー企業、電気通信産業、インターネット、電子商取引、情報化投資、著作権問題、オープンソース、地域情報化、ソーシャルゲーム、Facebookなどが考えられる。最近のトレンドをこのようなテーマのどれかに興味があるとゼミでの議論に参加しやすい

だろう。計量分析の学習は三田での計量経済学中級をマスターすることが必須となる。それを越える話題はゼミ内で適宜取り上げて学習する。日吉での計量経済学概論を取っていることが有利であるが、三田からはじめても十分追いつける。要はやる気である。

ゼミ生は16人程度である。例年の平均値をとると、計量分析に関心がある人が8人程度（うち、パソコン好きな人3人、ネット系ビジネスをやりたい人2～3人、オタクな人2～3人）となっている。

最後に一番大事なのは「手と足」のやる気である。ここで手と足のやる気とは、データを集めるために歩き回ることや、データを手で打ち込むことを厭わないことをさす。IT分野は研究が始まったばかりで、整ったデータベースは存在しない。そこで、国会図書館をまわったり、perlでプログラムを組んでウェブから集めたりする事になる。これを厭わない人に来てほしい。

本研究会が対象にするのは先行研究の少ない分野であり、学生の立場でも新しい知見を見出すことは不可能ではない。事実、過去に学生が私の共同の形で論文をだしたことが何度もある。そのような挑戦を行おうというパイオニア精神のある人を期待したい。大学院進学希望の人も歓迎する。

3. 選考について

①募集人員：15名程度

A日程のみ（人数不足時にB日程）

②選考内容：レポート＋面接＋成績表

③選考基準：レポート7割、面接2割、成績表1割

（1～3、昨年度資料）

4. ゼミ員構成

3年生 13名(男 11名、女 2名)(留学中 0名)
4年生 名(男 11名、女 4名)(留学中 0名)

5. 活動内容

- ①本ゼミ 水曜 4, 5 限
- ②サブゼミ 水曜 6 限 (基本的にはなし)
- ③パートゼミ

→各パート毎に必要なに応じて実施

- ④インゼミ 特になし
- ⑤課外活動 特になし
- ⑥三田祭 三田論の発表
- ⑦夏休み 各自作業。
- ⑧合宿

→3年生は三田論の中間発表。4年生は卒論の中間発表。

⑨授業

→田中辰雄教授の計量経済中級 a・b がゼミ必修です。

⑩経費

三田祭出展費として一人 500 円。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

7. 先生が担当している講義

計量経済中級 a・b(三田、火曜日 1, 2 限)
計量経済概論 (日吉 水曜日 2 限)

8. ゼミ HP

<http://www.clb.ecom.mita.keo.ac.jp/tanakazemi>

9. 連絡先

外ゼミ代表 川上友輔
連絡先 yu02su15ke@gmail.com
入ゼミ担当 松室哲一朗
連絡先 emurond966@gmail.com
入ゼミ担当 石田広樹
連絡先 ishidah1995@gmail.com

辻村和佑研究会

一 経済統計・計量経済学・資金循環分析 一

1. 研究分野

素朴な観察の積み重ねにより理論を構築し、さらに理論にかなった観察方法を採用することにより、経済変量間に安定的な法則性を見出そうとするのが計量経済学の第一の目的である。そしてこれを基に政策シミュレーションを行い、的確な政策提言を行うことが最終的な目標でもある。そのためにも日頃から幅広い経済の事象に興味をもち、統計データを丹念に観察し続け、経済諸変数間の複雑な相互依存関係を丹念に読み解くことが重要である。また研究対象である現実の経済の定性的な側面にも常に関心と好奇心を抱き、なぜ、どうしてという姿勢を大事にしていきたいと考えている。

計量経済学が経済の定量的分析をその本旨とする以上、現実の経済を統計資料として把握することが、最初の重要な第一歩となる。一般に統計資料を作成するのは決して容易なことではない。たとえば家計の消費行動について知りたいと思えば、個々の家計に家計簿を配ってこれに記入してもらい、これを回収することになる。もし本気で日本の家計行動を知ろうとすれば、4000万以上的家計にこれを依頼せねばならない。実際にはそれは不可能なので、せいぜい数千世帯の情報で全家計の集計値を推定しているのが実情である。したがって欲しい情報を手に入れることは困難をきわめることが多く、また集計には多大な時間と労力を要するがゆえに速報性という観点でも問題は多い。しかしながら毎日の新聞やweb上など、実は至るところに経済に関する統計資料があふれていることに気づく。いわゆる金融面や証券面をみれば金利から株価に至るまで多くの情報が満載されている。これらの統計資料は業務統計と呼ばれ、金融機関や証券取引所が日々の業務を遂行する過程で副次的に作成公表されるため、僅かの努力で大量の情報を迅速に得ることができる。その意味では金融市場は計量経済学に格好の分析素材を提供してくれる。

しかしながら、金融に関する情報は膨大であるがゆえに、これを使いこなすことは容易ではない。そこで「資金の流れ」という点に着目して、金融に関する情報を収集整理したのが資金循環表である。資金循環表はもとも

と、金融機関をはじめ企業などでは必ず定期的に作成されている貸借対照表を羅列することにより作成される。これを作成するだけでも、一国内でどの主体が貯蓄をし、どの主体が投資をしたのかが一目瞭然となる。またこれを主体間の「資金の流れ」を示す金融連関表に組替えることで、誰がどこから資金を調達し、どこに運用したのかを知ることができる。たとえば日本銀行の金融政策はその貸借対照表として書き表すことができるから、資金循環表があればその政策効果をつぶさに分析することも可能である。さらに資金循環表は世界各国でも作成され、日本でも過去50年分が利用できるから、資金循環という視点からその経済成長の軌跡をたどるといった使い方もある。詳細については拙著『バランスシートで読みとく日本経済』（東洋経済新報社、2002年）、『資金循環分析—基礎技法と政策評価』（慶應義塾大学出版会、2002年）、『国際資金循環分析—基礎技法と応用事例』（慶應義塾大学出版会、2008年）、『経済学入門—現実の経済を理解するために（第2版）』（日本評論社、2008年）などを参照されたい。

2. 学生への要望

現実の経済で起こっている事象に目を向け、統計資料を駆使した現状分析ができるように最低限の知識の習得は不可欠である。また統計、数学的な関係のみならず、あらゆる経済事象の背後には歴史、制度、慣習等様々な制約条件があり、それらを知るとともに自分なりの経済の見方、捉え方を身につけることが望まれる。各自の研究領域については、経済統計をその基礎とするものであれば、とくに限定しない。現実の経済に対するあくなき好奇心と、先入観のない自由な発想を期待したい。

3. 選考について

- 募集人員 A日程 12名程度
B日程 A日程の応募状況により判断する
- 選考内容 レポート、面接
- 選考基準 総合評価とする

4. ゼミ員構成

3年生 12名(男9名、女3名)(留学中0名)
4年生 13名(男8名、女5名)(留学中0名)

5. 活動内容

①本ゼミ (火曜4、5限)

②サブゼミ・・・なし

③パートゼミ・・・3年生のパート毎の発表と4年生の卒業論文の発表がメインで、発表ごとに辻村先生を含めディスカッションを行います。3年生は、家計、企業、金融、政策の4パートに分かれ、1週間に2パートずつプレゼンを行います。

④インゼミ

⑤課外活動

⑥三田祭

⑦夏休み

⑧合宿

→三田祭では、ゼミ員で三田論の作成、発表を行います。ゼミ生の自主性が重んじられているため、自分の興味に合わせてテーマを設定できます。

⑨授業

連絡先 kiku02.06@hotmail.co.jp

入ゼミ担当 小澤光市

連絡先 koichi2459@gmail.com

→特になし

⑩経費

あり (金額は未定)

6. ゼミ試験対策で使用了参考書

特になし

7. 先生が担当している講義

経済統計(三田、水曜日3限)

資金循環分析(三田、火曜日3限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/tsujimura/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 橋詰 日菜子

連絡先 sizuna78@gmail.com

内ゼミ代表 山田菊之介

長倉大輔研究会

— 計量経済学 —

1. 研究分野

私の研究会では計量経済学と呼ばれる分野を研究しています。計量経済学とは、経済データを統計的に分析する際に発生する様々な問題をどのように解決するかについて研究、またそれらを応用して実際にデータを分析する分野です。統計学の手法を基礎としますが、経済データには他の分野のデータにない特有の問題が存在し、そのような問題を解決するために様々な方法が考えだされています。

私の研究会では計量経済学の理論を学ぶ事を目的としており、学生にはそれらを応用した論文を書いてもらおうと思っています(また学生が希望すれば理論の論文を書くことももちろん可能です)。論文は計量経済学の手法を用いて分析した論文であればテーマは何でも可としています。例年、ゼミ生のみんなは株価の分析から、出生率の分析まで様々なテーマに沿って論文を書いています。

3年生はいくつかのグループに分かれて三田祭の論文を書く事を目標として進めていきます。3年生の前半は計量経済学の手法やその手法を実際に行う際のソフトウェアの使い方(Rという統計分析のソフトウェアを使います)、等についてさらに勉強し、中盤から後半にかけて三田祭の論文執筆のために既存研究のサーベイ(論文発表)をしてもらい、自分たちの論文のテーマが決まった後はそれぞれのグループに途中経過を発表してもらい、という要領で進めていく予定です(これらの合間に、重要と思われる事柄について私が講義をしたりもします)。4年生では基本的に卒業論文を書くことに集中してもらい予定です。成績はゼミや論文執筆グループへの参加度、貢献度、ゼミ中の態度などを見て総合的に判断して付けます。

2. 学生への要望

計量経済学の基本として統計学や数学も意欲的に勉強したいという学生を希望します。また統計学や数学の基本的な知識がある事を前提とします。

3. 選考について

① 募集人員：最大 15 名ほど

- ② 選考内容：筆記試験、面接、成績表の提出
- ③ 選考基準：上記の内容を見て総合的に判断します。

4. ゼミ員構成

3年生 10名(留学中0名)
4年生 12名(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (月曜4・5限)
本ゼミでは、前期の間は先生から計量経済の授業と統計計算ソフトRを使った演習を行い、様々な経済データを取り扱う上での手段を学びます。後期、3年生は三田論を書いたり4年生は卒論を書いたりと前期で学んだ内容をそれぞれ活かして自分の決めた分野を研究していきます。
- ② サブゼミ (月曜6限)
サブゼミはゼミ員が集まって何をするかを自主的に決めます。今年度は主に三田祭論文の制作を行っています。
- ③ パートゼミ
パートゼミでは金融・スポーツ・マーケティングのパートに分かれて各々研究をしています。
- ④ インゼミ
今年度は今のところインゼミをしていません。
- ⑤ 課外活動
課外活動は特にありません。
- ⑥ 三田祭
三田祭では3年生が各パートで1つずつ論文を制作し、提出します。
- ⑦ 合宿
合宿は9月上旬辺りで大体2泊3日で行われます。合宿では三田祭論文の途中経過発表をした後、ゼミ員で交流を深めます。
- ⑧ 夏休み
夏休みの活動は合宿のみで、三田論制作の為に各パートが自主的に集まる場合があります。
- ⑨ 授業
上記の本ゼミ、サブゼミの他に、長倉先生が担当している時系列分析の授業を必修でとる必要があります。
- ⑩ 経費
必要があればその都度集めるようにしています。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

線形代数(授業で使用したピンクの冊子)
微分積分(授業で使用した緑の冊子)
統計学(日吉での授業レジュメ)

7. 先生が担当している講義

計量経済学演習(三田、火曜5限)
時系列分析b(秋、三田、金曜3限)
統計学I、II(日吉、木曜2限)
統計学I(PEARL)(秋、日吉、木曜1限)

8. ゼミHP

<http://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 東 真彦
連絡先 masahiko060326@yahoo.co.jp
内ゼミ代表 立石 周諭
連絡先 tateishi.syuyu@gmail.com
入ゼミ担当 東 真彦
連絡先 同上

宮内環研究会(他学部・可)

—市場の数量分析—

(ア) 研究分野

当研究会の研究分野は「市場の数量分析」です。諸君はミクロ経済学で、“The Edgeworth box”を用いるなどして“Pareto Optimality”の概念を学んだはずです。市場はこの意味で資源の最適配分を実現する装置ですが、市場のこの機能は無条件に作動するとは限りません。主にこの研究会では市場機能の作動についてミクロ経済学に基礎をおきながら統計学的、計量経済学的観点から分析を進めます。

研究会の最終目的は卒業論文を仕上げることです。研究会ではこの目的のために、論文の書き方についての勉強、およびそれを実践する過程での多くの議論が不可欠です。論文は単なる学習記録とは異なります。論文によって明らかにされる知見が社会の知的財産とならなければ論文の意味がありません。たとえば象の体の毛穴の数を数えたところで、それが社会にとって有用な知見とできるか否か、この点が論文では問われます。さらに論文は科学的作法に基づいて構成された仮説、および適切に選ばれた観測方法によって得られた観測事実、これら両者を突合せて仮説の検証結果を記述します。したがって論文作成の過程では、仮説の構成、観測方法の選択、これら両方が適切であるか様々な観点からの検討が必要です。このために研究会では参加者各自の論文を仕上げる過程で多くの議論を行います。

すでに市場の分析を行った論文を参考にすることはよいことです。この領域の多くの論文は

英語で書かれています。英語の論文を読むことに抵抗があれば、英語の論文に慣れることも大事な目的の一つです。

以上を要約すると、論文の書き方の勉強、論文作成過程での議論、英語で書かれた論文にも慣れて多くの先行論文を読む、主にこれらの活動を通じて市場の数量分析を進めます。

(イ) 学生への要望

当研究会を志望する学生諸君は、三田に来る前に日吉で学んだ科目の内容をしっかりと復習し、自分のものにしておいてください。これまでは解くべき問題と正解が与えられることが多かったでしょう。しかし三田の研究会では自身が解くべき問題を見つけ、自分が持っている知識をどのように適用すれば知りたいことが分かるのか、そのためにはその問題への接近法は何が適切なのか、このように考える作法を三田の研究会では学びます。そのためには日吉で学んだ科学的知識が確かなものでなくてはなりません。その準備を来年の4月までにしっかりと整えておいてください。

(ウ) 選考について

- ① 募集人員：10名程度
- ② 選考内容：事前レポート、志願書および成績表による書類審査
- ③ 選考基準：日吉で学んだことを市場の数量分析のために適用する準備ができているか。

4. ゼミ員構成

3年生 10名（男9名、女1名）（留学中0名）

4年生 12名（男10名、女2名）（留学中0名）

5. 活動内容

①本ゼミ（火曜4・5限）

②サブゼミ（火曜6限）

本ゼミでは論文や文献の輪読、または個人研究や三田祭論文についてのプレゼンテーションを中心に行います。発表に対して宮内先生、ゼミ生から質問を受け、それに答える形でゼミは進行します。個人研究に関しては、計量経済学・統計学の枠組みにとらわれず、自由な課題設定をすることが可能です。サブゼミ・パートゼミでは自由にそれぞれの課題を研究する時間にしています。

③④ パートゼミ・インゼミ 特に無し

⑤課外活動 今年度はソフトボール大会に参加しました。

⑥三田祭 三田祭論文の発表と、今年度は中庭で模擬店を出店します。

⑦夏休み 合宿に向けて各自論文の準備を進めます。

⑧合宿 今年度は9月12日～14日の日程で新潟県の酒田というところに行きました。酒田には隔年でいくのですが、来年度はゼミ生で話し合っていく場所を決めます。昨年は2泊3日で群馬県の草津にて合宿を行いました。3年生は三田論文の発表

と4年生は卒業論文の発表を行います。飲み会やその他のお楽しみも自由に決められます。

⑨先生が担当している講義

計量経済学概論（日吉、秋学期、金曜日4限）

自由研究セミナーa,b（日吉、金曜日3限）

社会科学基礎論 a,b（三田、火曜日3限） ☆ゼミ必修

計量経済学上級 b（三田、秋学期、金曜日1限） ☆ゼミ必修

演習（三田、春学期、金曜1限）

⑩経費

合宿費等。

6. ゼミ試験で使用した参考書

日吉での勉強を復習すれば十分です。

授業で使用した参考書で対策可能です。

7. ゼミ HP

seminar.econ.keio.ac.jp/miyauti/index.html

Twitter : @miyauchi_2017

8. 連絡先

外ゼミ代表 榎本 将太

連絡先 : syouta079@yahoo.co.jp

内ゼミ代表 菊池 達真

連絡先 : tatsumma.no1.honest@gmail.com

入ゼミ代表 杉本 祥一

連絡先 : sugi.iykk48@gmail.com

星野崇宏研究会

—計量経済学・行動経済学とその応用(マーケティング・経営・社会現象)—

1. 研究分野

指導教員はこれまで統計学・計量経済学・心理学の基礎研究と、マーケティング・行動経済学・脳科学・公衆衛生など様々な分野への応用研究を行ってきました。

また指導教員はこれまで様々な分野の企業の顧問や企業との共同研究を行っており、企業から提供いただいた実店舗の購買履歴データ、Web サービスでの利用履歴データ、市場調査データや SNS データなどが利用可能です。さらに店舗や EC サイトでのフィールド実験、学生を対象とする調査や経営者・担当者へのインタビューなどを実施する場とノウハウを研究会として有しています。

このような経緯から当研究会では、経済学部の研究会としては珍しく、基礎的な研究だけでなく、マーケティングや行動経済学の応用など、より実践的な分野に関心のある学生も歓迎しており、理論と実践を両立し磨き合う場となることを目指しています。

当研究会では下記に記載したような分野に関心のある学生を指導可能です。

【基礎的な分野】

- ・ 統計学と計量経済学
- ・ いわゆるビックデータ解析(統計学と機械学習の中間領域)
- ・ 行動経済学と心理学(ヒトの非合理生徒行動の傾向の理解)

【応用的な分野】

- ・ マーケティング。対象としては金融、消費財メーカー、小売業、Web サービス、政府公共機関、NPO など
- ・ 行動経済学の応用。特に企業・組織の経済学や公共マーケティングへの応用
- ・ 人的資源管理や組織行動などの経営学
- ・ 流行や同調などの社会現象の経済学的理解
- ・ 教育や医療などの応用計量経済学

上記はバラエティに富んでいますが、データ、統計学、数理モデルなど実証的なアプローチを用いた経済・経営・人間行動の研究についてであれば対象は限定しません。

研究会ではまず基礎固めとして各人の

関心に沿ってグループ単位で統計学と計量経済学、マーケティングや経営のための経済学、行動経済学や心理学などの基礎的な文献についての討議をします。

また座学だけではなく、何らかのプロジェクトに参加することで学ぶ、オン・ザ・ジョブ・トレーニングが非常に有効だと考えています。そこで、マーケティングであれば東京周辺の様々な大学のマーケティング関連ゼミが参加する国内最大規模のインカレゼミ大会(関東学生マーケティング大会)への参加、指導教員のコネクションのある企業との共同企画開発の実施(本年度はリクルートマーケティングパートナーズさん、リクルートライフスタイルさん、Cygames さんなど)、計量経済学やデータサイエンスであればデータ解析コンペティション等への参加、行動経済学ならば実験室実験や調査の実施、店舗等リアルな場での実証実験アド自分お関心に沿った内容を研究できる研究会です。

2. 学生への要望

経済のグローバル化と技術革新、産業構造の変化のペースは一段と速くなっており、今後本学部を卒業しても将来が完全に保証されない時代が来るでしょう。

所属する組織がどこであれ自分の力で活躍し、所属する組織、さらには社会に貢献する有為な人材として育てていただくために、当研究会では時代によらず必要とされる力を身につけてもらいたいと思います。具体的には、経済・経営学の基本概念や人間行動の傾向についての知識、さらにはそれを踏まえて、実証的に物事を理解し、より良い意思決定を行うための考え方や方法論、課題を見つけて定式化し解決する能力を獲得していただきたいと考えています。

このような土台を作るため、基礎をしっかり学ぶことはもちろん、外部と関わる何らかのプロジェクトに参加し、様々なフィードバックを得ることを求めます。

また統計学 I・II の内容は 3 年生進学までにしっかり復習しておいてください。

3. 選考について

- ①募集人員：A・B合わせて15名程度
- ②選考内容：レポート、面接、成績表
- ③選考基準：各自の関心事項に対して学び実践する意欲と積極性を重視します。また、統計学やビッグデータ解析に関心と適性のある学生を5名程度、残りを実践的な内容に興味のある学生として、2つの観点で考慮します。

4. ゼミ員構成

3年生 12名(男8名、女4名)(留学中1名)
4年生 18名(男9名、女9名)(留学中0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜3・4限)

本ゼミではマーケティング、行動経済学、計量経済学の基礎を勉強するとともに各班の毎週の進捗状況をプレゼン形式で発表し、先生やゼミ員からのフィードバックを受けます。また、先生の顧問先の企業の方を招いて講義を行っていただく機会もあります。

② サブゼミ (火曜5限)

先生の顧問先の企業データなどを用いて、統計解析手法を学びます。

応用統計モデルの理論的理解

基礎理論(因子分析、クラスター分析、線形回帰分析、コンジョイント分析、バスモデルなど)

応用理論(離散選択モデル、ロジスティック回帰、潜在クラス分析など)

③ パートゼミ

解析班：

野村総合研究所主催マーケティング分析コンテスト(11月11日締め切り)

マーケティング班：

- ・ 関東マーケティング大会 2016(9月17日中間報告会、11月26日最終発表)
- ・ リクルートマーケティングパートナーズさんとの共同研究(スタディサプリ改善の行動経済学的アプローチ)

④ インゼミ

本年度は行っておりません。

⑤ 課外活動

企業との共同研究及び有給インターン派遣

- ・ リクルートライフスタイルとの位置情報を用いた訪日外国人へのマーケティング施策の共同研究
- ・ Cygamesとの行動経済学を用いたゲーム施策の共同研究



- ・ トライアルカンパニーとのスーパーマーケットでの購買行動の共同研究
- ・ インテージとのメディア接触行動の共同研究
- ・ LINEとのネットいじめの共同研究
- ・ 無印良品とのECと店頭での購買行動の共同研究
- ・ 富士通研究所との地方創成のための施策評価の共同研究
- ・ 日経リサーチとの金融行動への行動経済学の応用についての共同研究

⑥ 三田祭

論文の発表や展示を行います。昨年度、新規ゼミとして史上初の三田祭論文金賞を獲得しました。

⑦ 夏休み

ゼミ全体の活動はありませんがパートゼミごとに定期的に集まり研究を進めます。

⑧ 合宿

9月に福島で2泊3日の合宿を行いました。



⑨ 授業

星野先生は三田において火曜2限の「ベイズ統計学」を受け持っておられます。必須ではありませんが、多くの学生が受講しています。

- ⑩ 経費
教科書代、合宿日など
6. **ゼミ試験対策で使用了参考書**
指定のものは特にありません。
7. **先生が担当している講義**
ベイズ統計学(三田、火曜 2 限)
8. **ゼミ HP**
<http://hoshinoseminar.com>
9. **連絡先**
外ゼミ代表 会川 智華
連絡先 ring.on.you@gmail.com
内ゼミ代表 植田 大雅
連絡先 zipfiorentini@gmail.com
入ゼミ担当 杉溪 大言
連絡先 hirotokisugitanil@gmail.com

国際経済

秋山裕研究会

大久保敏弘研究会

嘉治佐保子研究会

木村福成研究会

駒形哲哉研究会

白井義昌研究会

竹森俊平研究会

秋山裕研究会

—経済発展論・計量経済学—

1. 研究分野

経済発展論は、国際経済分野の1つです。国際経済分野は、グローバルな経済のシステムを、構造的かつ総合的に扱う分野です。その中で、経済発展論は、一国が途上国から先進国まで発展するメカニズムに焦点を当て、人々の幸福度や所得水準、および生産性の向上に関する諸理論とそれらを用いての政策論を中心とした領域になります。国や地域は限定されず、研究にあたっては、国際比較が多用されます。

当研究会では、「経済発展」をテーマとした研究を「計量的分析」を活用しながら行うことを基本としています。「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはとても言えません。経済発展を促進するために我々は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

現実の経済問題を課題とするため、実証分析が不可欠です。研究の対象とする国・地域がどのような「経済構造」になっているのかを「経済理論」に基づいた経済モデルによって明らかにし、それを手掛かりとして具体的な経済政策を立案していきます。

経済発展論については、『経済発展論入門』（秋山裕著）東洋経済新報社、をざっと読まれるのもよいでしょう。

ゼミでは三田祭論文の作成などを通じてグループで論文作成について学び、それを基礎に個人で卒業論文を作成していきます。

三田祭には毎年参加していますが、三田祭論文の研究テーマは経済発展に関するものであり、その年の3年生を中心に決定します。その際にはゼミ員全員で取り組むに値するテーマ（これまでは、貯蓄、政府、格差、雇用、震災、デフレなど）を選定しています。

卒業論文のテーマは、経済発展に関連し、計量的手法を用いながら分析するものならばどのようなテーマでも構いません。研究対象とする国や地域が限定されることもありません。

研究会は、大学生としての学問の研究成果を卒業論文の形でまとめる場であり、小人数のグループで様々なやり取りを繰り返しながら関心分野について効率的に研究する場です。研究会活動を通じて、互いに切磋琢磨してもらえた

らと思います。

2. 学生への要望

経済発展論で用いられる理論や分析手法について、前もって勉強しておく必要はありません。

経済発展論で用いられる理論については、日吉で、「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。

計量的分析を行うにあたっては、「統計学」が必要となります。ゼミでの活動は、計量経済学概論の履修を前提とするものではありません。日吉で「統計学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。

また、計量的分析の際にコンピュータを活用しますが、あらかじめ特別な技能を学んでおく必要はありません。必要となる技能はゼミでの活動の中で自然に身につけていきます。

資料・文献にあたるための英語能力が必要となる場合がありますが、日吉で必修単位が履修済みならば問題ありません。

経済発展論は現実の問題を考える領域ですので、書物や新聞などを通じていろいろな問題意識を持っておいってください。

入会にあたって特別に優遇する項目などはありませんが、ゼミでの活動はグループ活動が基本となりますので、自分が持っている優れた面があれば、それを研究会全体の活動に生かしてくれればと思います。

3. 選考について

① 募集人員：A日程10～15名、欠員が生じた場合のみB日程を実施。

② 選考内容：筆記試験2科目（マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、英語から2科目を事前に選択）と面接。

筆記試験（2科目計60分）は各科目から10問ずつ基礎的な理解を問う問題を出題します。解答形式はMultiple choiceを予定しています。

面接は1人15分程度。面接にあたっては、成績表と、事前に記入してもらった面接用資料を、参考として提出してもらいます。また、これまでの成果（学業に関連するものであれば科目・分野などは問いません）があれば、A4で1枚に要約して提出することが出来ます。

③ 選考基準：選考は学力、意欲、集団での学習における適応力の総合判断です。ゼミの学生が選考に関与することはありません。

4. ゼミ員構成

3年生 7名(男6名、女1名)

4年生 9名(男7名、女2名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜 4・5 限)

春学期は、経済発展に関する文献の輪読を行います。今年は『開発経済学入門』戸堂康之著、『地域分析ハンドブック』米沢誠司他著の2冊を輪読しました。毎週2人1組の発表者がテキストの内容を解説し、さらにその内容に関する実証分析の発表を行います。

秋学期は三田祭に向けての発表やそれに関する議論を中心に行います。三田祭後には、卒業論文の中間発表を行うと共に、他の文献についても見識を深めます。

② サブゼミ (金曜 5 限)

秋山先生のご指導のもと、計量分析について学ぶとともに、学外のコンテストに向けた準備も行います。PCでExcelなどの基本操作を学び、回帰分析や産業連関分析の手法、三田祭論文でのパネル作成に必要なPowerPointの操作も習得します。また、3～5名程度のチームに分かれて、日本経済新聞社主催の全国学生対抗円ダービーや日経STOCKリーグに参加し、それらに関する発表・討論を行います。

③～⑤ 本ゼミ・サブゼミ以外の活動

・ オフィスアワー

このゼミの特徴の1つとして週2コマ分のオフィスアワーが設置されており、秋山先生に積極的に質問でき、輪読、三田祭論文、学外コンテスト、卒論の準備を円滑に進めていきます。

・ 日経円ダービー

円ダービーでは翌月の為替レートの予測を行うため、基本となる理論を学んだ上で、独自の予想方法を考えていきます。

・ 日経STOCKリーグ

STOCKリーグでは株式運用について学んだ上で、チーム内で議論を行い投資テーマを決め、独自のポートフォリオを構築していきます。

・ 最近の実績

毎年、学外のコンテストに参加し、これまで数多く、入賞しています。円ダービーでは、2010、2012、2013、2014年に優秀賞を、日経STOCKリーグでは、2008年と2011年に敢闘賞を受賞しています。

・ OB・OG会

ゼミのOG・OGとの交流も盛んで、

毎年10月にOB・OG総会も開催しています。

※例年、パートゼミは設置していません。ただし、三田祭論文の作成にあたって、期間限定パートゼミにあたるグループを編成し、作業を行います。※また、インゼミについても例年行っていません。これはそれに代わるものとして学外コンテストに参加しているためです。

⑥ 三田祭

3年生を中心に全員で一つのテーマに関する論文を作成し、三田祭で発表します。現実の問題に学生らしく果敢に取り組むとともに社会に通用する水準を持った研究内容も兼ね備えた発表を目指しています。

⑦ 合宿

夏休み(例年、8月下旬あるいは9月上旬)に三田祭論文の中間発表を行うとともに、スポーツなどのリクリエーションを通じてゼミ員間の親睦を深めます。

⑧ 夏休み

基本的にはグループ単位で三田祭論文を進めていきます。各々のゼミ以外の活動も尊重するため、全員で集まるのは合宿のみです。

⑨ 授業

秋山先生の担当科目である「経済発展論a・b」は必ず履修します。

⑩ 経費

輪読文献費、レジュメの印刷代、合宿費、三田祭参加費などです。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

筆記試験は基礎的な理解を問う問題ですので難易度の高い特別な参考書は必要ありません。筆記試験の出題範囲および出題例については、ゼミのHPに掲載しています。

7. 先生が担当している講義

統計学I・II(日吉、水曜日3、4限)

計量経済学概論(日吉、春学期月曜日2限)

経済発展論a・b(三田、金曜日3限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/akiyama>

9. 連絡先

外ゼミ代表 藤崎 隆真

内ゼミ代表 大串 駿翔

入ゼミ担当 村中 杏莉

akiyama-nyuzemi@econ.keio.ac.jp

大久保敏弘研究会

—国際経済学、国際貿易、海外直接投資、空間経済—

1. 研究分野

国際貿易論、海外直接投資、空間経済、地域経済。私自身の具体的な研究内容は一連の論文を参照。

2. 学生への要望

上記の研究分野をしっかりと学び、研究を行いたい学生のみを募集する。私の研究内容に直結した研究に比重を置きたい。したがって、私の研究内容のある程度理解の上、応募してもらいたい。

1, 2年時にミクロ、マクロ、統計で良い成績をおさめていることが必要最低限である。特にミクロ経済学と統計学(計量経済学)、数学(特に微分積分、解析学)を用いて研究を行うため、応募に際して、既に十分な力量があることを求める。また、大量のデータ分析やデータ収集といった地道で精緻な作業を厭わないことも大いに求められる。3年以降も意欲的に国際貿易、計量経済学、ミクロ経済学、都市経済、経済地理などを履修し積極的に学ぶ意欲を求める。

就職活動の一環として、あるいは単位目的での応募はしてほしくない。サークル感覚での活動も困る。ゼミはあくまでも大学の授業であり、研究活動の場であるため、過度な就職活動や個人の都合の優先は困る。ゼミ活動は学生の自主性を重んじたい。教員に様々な場面で依存的なのは困る。このため、厳しい態度で臨む。大学院進学希望者を歓迎する。

3. 選考について

- ① 募集人員：8名
- ② 選考内容：ミクロと統計のテスト
- ③ 選考基準：成績。GPAがある程度以上(例年2.5~3以上)、再履修がない、テストの成績。面接。

4. ゼミ員構成

3年生 7名(男7名、女0名)(留学中1名)
4年生 11名(男7名、女4名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜4・5限)
初回の本ゼミにて今後の活動予定をゼミ員が意見を出し決定しました。本ゼミ・サブゼミともにゼミ員の学びたいものによって自由が利きます。以下は今年の春学期の活動内容です。春学期には国際経済の理論について教科書(KRUGMAN 他の INTERNATIONAL ECONOMICS THEORY&POLICY)を用いて輪読を行い、教授からの鋭い指摘や解説をいただきながら基礎を学びました。
- ② サブゼミ (月曜4・5限)
サブゼミではゼミ生が集まってミクロ経済学と統計学の輪読を行い、基礎から学んでいます。春学期に使用している教科書は、ミクロ経済学(武隈慎一著)と基本統計学(宮川公男著)です。
- ③ パートゼミ
なし。
- ④ インゼミ
なし。
- ⑤ 課外活動
なし。
- ⑥ 三田祭
三田祭論文の発表。
- ⑦ 合宿
春・夏の二回。
夏合宿は伊豆に行き論文の執筆を進めました。
- ⑧ 夏休み
夏合宿のほか、ゼミ員が自主的に集まり論文の執筆を進めました。
- ⑨ 授業
大久保先生が担当されている貿易政策はゼミ必修ではありませんが多くのゼミ員が受講しています。貿易政策 a では国際貿易、貿易政策の基礎をわかりやすく講義形式で学べます。貿易政策 b では国際経済の論点(馬田・木村編著)を用いて輪読形式で授業が行

われます。

- ⑩ 経費
合宿などのイベントごとに集めます。
年会費等はなし。

6. ゼミ試験対策で使用了参考書

途上国化する日本(戸堂康之著)。

7. 先生が担当している講義

貿易政策 a・(三田、水曜日1限)
貿易政策 b・(三田、水曜日2限))

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/okubo/>

9. 連絡先

ゼミ代表 大山貴史
連絡先 takafumioyama@gmail.com
入ゼミ代表 並木健剛・田矢祐樹
連絡先 kenkenvb@gmail.com



嘉治佐保子研究会

Sahoko KAJI' s seminar

—Open Economy Macroeconomics

Economies of Europe—

1. Field of Study(研究分野)

Study and research in this seminar centre around Open Economy Macroeconomics and Economies of Europe.

International economics can be broadly divided into international trade and international finance. Study and research in this seminar fall in the latter category, emphasising its macroeconomic aspects. This is why we say they centre around Open Economy Macroeconomics; macroeconomics that explicitly takes into account the interdependence of different national economies.

First we learn about the economic variables and or concepts introduced when the analysis moves from a 'closed economy' to an 'open economy', such as exchange rates, balance of payments and interest rate parity. Then we apply the knowledge to real world issues related to international interdependence and its effect on economies. Particular attention is paid to the European economies and what the rest of the world can learn from the European experience.

2. Expectations (学生への要望)

Students are expected to think independently and scientifically. In preparing for this seminar, they should spend their Hiyoshi years training themselves to ask questions, acquire information and find answers on their own. Applicants should pay attention to events happening around the world daily, and expose themselves to different viewpoints, comments and interpretations. In terms of

language skills, a second language in addition to English is strongly encouraged.

Everything in this seminar is conducted in English. We welcome all students, including those who do not have any experience of living abroad, and those that participate in the faculty of economics' Professional Career Programme (PCP), as well as the Double Degree programme with Sciences Po.

Students who are interested in international trade or development would want to consider joining seminars specializing in those subjects. Having said that, the topic of the graduation thesis can be freely chosen, as long as it is related to economics and is analysed using economic logic.

3. Entrance examination (選考について)

①Admission quota:
Approximately 10

②Examination
Written examination:
macroeconomics and
microeconomics, in English
Oral examination:
With the professor and students

Please bring a copy of your transcript
(which will NOT be returned)

③Admission criteria:
Good, solid knowledge in basic micro and
macro economics
Fondness and habit of independent
thinking
Eagerness to learn different
languages and viewpoints

4. Member of the seminar (ゼミ員構成)

- 4th years (23rd year): 12 (5 male, 7 female) 4 from the DD with Sciences-Po
- 3rd years (24th year): 13 (11 male, 2 female) 4 students currently studying abroad, one DD student expected to join in autumn

5. Contents of the seminar (活動内容)

① Seminar (本ゼミ)

: 4th and 5th periods, Mondays

<Spring Semester>

- 4th year

: Presentations for the graduation theses

- 3rd year

: Reading 『Open Macroeconomics』 (by Professor KAJI) in turns

<Autumn Semester>

- 4th year

: Presentations for the graduation theses

- 3rd year

: Preparation for the Mita theses (三田論)

② Sub-seminar (サブゼミ)

: 4th and 5th periods, Thursdays

Held by the 3rd year students who decide the contents and schedule every year.

③ Part-seminar (パートゼミ)

Held mainly by the 3rd year students. We divide ourselves into three groups to prepare for the Mita theses.

④ Inter-seminar (インゼミ)

Held with Kameda seminar of Kwansei Gakuin University twice a year. We give presentations and discuss about different topics.

⑤ Extracurricular activities (課外活動)

Decided by students. We participated in ISFJ thesis contest this year.

⑦ Summer vacation (夏休み)

During the summer vacation, we prepare for the Mita theses, take part in the Inter-seminar, and go on trips.

⑧ Trip (合宿)

We have trips during the spring and summer vacations. We go sightseeing and do activities together.

⑨ Classes (授業)

There are no mandatory classes for this seminar.

⑩ Fees (経費)

There are no fees obliged but participation fees for events (such as trips) are necessary if you join.

6. Textbooks for the test (ゼミ試験対策で使 用した参考書)

Paul Krugman 『Macroeconomics』
『Microeconomics』 etc.

7. Lectures given by Professor Kaji (先生が 担当している講義)

- OPEN ECONOMY MACROECONOMICS

(Mita, spring, 4th and 5th periods,

Saturdays)

- FINANCE POLICY AND THE GLOBAL

ECONOMY (PCP), INDEPENDENT STUDY

(PCP) (Mita, autumn, 4th and 5th periods,

Saturdays)

8. Seminar HP (ゼミ HP)

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/kaji/>

Twitter:

<https://twitter.com/kajizemi>

9. Contact (連絡先)

- Internal representative

(内ゼミ代表): Yuichiro KAWATA
(川田祐一郎)

yu1ro.kawata2016@gmail.com

- Liaison

(外ゼミ代表): Yuta ISHII
(石井裕太)

lewisyuta@gmail.com

- In charge of admission

(入ゼミ担当): Yuichiro KAITSU
(貝津佑一郎)

y.kaitsu.7258@gmail.com

Naoto UMAKAKEBA

(馬欠場直人)

numakakeba@gmail.com



木村福成研究会

—国際経済学・開発経済学—

1. 研究分野

本研究会では、国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論と、発展途上経済を分析する開発経済学を、理論と実証・政策研究の両面から学んでいく。

北東アジアと東南アジアを含む東アジアは、少なくとも製造業に関する限り、世界でもっとも進んだ生産工程・タスク単位の国際分業、すなわち「第2のアンバンドリング」が展開されている地域となっている。生産ネットワークのメカニズムは、企業のビジネスモデルを大きく転換させ、また発展途上国の開発戦略にも根本的な変革をもたらしている。またそれは、「21世紀型地域主義」に先導される新たな国際経済秩序の構築へとつながるものでもある。経済統合の深化、開発格差の是正、持続的経済発展の実現という3つの目標をいかにして同時に達成していくかが、当面の課題として認識されるに至っている。

本研究会では、国際経済学と開発経済学についての基礎的理解を土台とし、現代の日本経済、東アジア経済、世界経済が抱える諸問題について議論していく。

研究会の活動内容は、経済学を踏まえつつも大いに実践的である。教材は基本的に英語文献のみを使用し、またパソコンも駆使する。論理的な文章の執筆、説得力のあるプレゼンテーションを重視する。研究者・エコノミストや国際公務員を希望する者はもちろん、広く国際的な分野で活躍するビジネスマンを目指す諸君にとっても、有用な教育サービスを提供する。この教育リソースを有効に活用してくれる元気な学生諸君を望む。

私の最近の主要研究テーマは、国際的生産・流通ネットワークのメカニズム解明、東アジア・アジア太平洋の経済統合戦略などである。たとえば、『国際経済学入門』（2000年、日本評論社）、『通商戦略の論点：世界貿易の潮流を読む』（共編著、2014年、文眞堂）、『東アジア生産ネットワークと経済統合』（共著、2016年、慶應義塾大学出版会）、「やさしい経済学 国際貿易とTPPの基礎」『日本経済新聞』2016年5～6月などを参照してほしい。

また、ASEAN および東アジアの経済統合を推進するためにジャカルタに設立された国際機関、東アジア・ASEAN 経済研究センター（ERIA）のチーフエコノミ

ストとしても働いており、常にASEAN および東アジアの経済統合と開発問題の現場で仕事をしている (<http://www.eria.org>)。

詳しい履歴・業績は学部ホームページ (<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/fkimura/>) を参照されたい。

2. 学生への要望

日吉で経済学をしっかりと勉強してきたとか、英語を鍛えたとか、コンピューターに熟達したとかいうことは、将来必ず役に立つ時が来るだろう。しかしそれ以上に是非やってきてほしいことは、国際経済・開発経済、あるいはもっと広くグローバル化する国際社会が抱える諸問題について関心を持ち、新聞に目を通し、本をたくさん読むことである。できれば経済学だけでなく、その他の社会科学・人文科学も広く勉強して、国際人となるにふさわしい真の教養を身につけてほしい。誰の意見であれ鵜呑みにすることなく、自ら考え、自ら調べ、自ら行動する人間になることが、最も大切である。

プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP) との並行履修を目指す野心的な学生、海外留学を計画している学生、ダブルディグリーの学生も歓迎する。

3. 選考について

①募集人員：A 日程のみ実施する。募集人員は16名程度とする。なお、留学等のやむを得ない事情により A 日程選考日に出席できない場合には、正当な理由と事前連絡がある場合のみ個別対応する。

②選考内容：A 日程選考日当日、小作文と面接を行う。小作文は、「経済活動あるいは経済政策のグローバル化に関連する問題を1つ取り上げ、その解決に向けて経済学はいかに役立ちうるか」という問いに答える形で、当日1時間半の時間内に執筆してもらう（持ち込み不可）。面接は、個人もしくはグループで行う。

③選考基準：小作文50%、面接40%、日吉での成績（成績表のコピーを持参すること）10%のウェイトで点順に選考する。知識、プレゼンテーション能力はもちろん重要であるが、それ以上に自らの頭で考えているかどうかを重視する。

4. ゼミ員構成

3年生 17名(男8名、女9名)(留学中7名)
4年生 16名(男6名、女10名)(留学中1名)
※大久保ゼミから編入予定

5. 活動内容

本ゼミ (水曜4・5限)

春学期は国際貿易理論と開発経済学の2冊の教科書(洋書)を輪読して基礎固めを行います。サブゼミで学んだことを踏まえたうえで、本ゼミはプレゼン形式で進行し、先生からの確かなアドバイス・コメントを頂いて疑問点を解決したり、より深い議論を交わしたりすることで理解を深めます。秋学期には、春学期で学んだ理論をもとに、より現実的な問題やトピックを扱った論文・文献を読み込んでゆくことで、実証・政策研究を学んでいきます。春秋ともに毎回の本ゼミはCG(Chairman Group)を中心に進められます。CGとは担当箇所のレジュメ作成、議論の司会進行役のことであり、3・4年生合同でグループを組みます。このCGを通して、我々木村研究会は自己のプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、先生の鋭い指摘に対応できる精神力を養っているといえるでしょう。

サブゼミ (月曜4・5限)

春学期は本ゼミに備えて、教科書の内容の基礎固めを行います。教科書の範囲をゼミ員が各自予習したうえで議論しあい問題を解決します。秋学期にはこの時間をパート論文作成などに充てます。

パートゼミ

パートごとの集まりは主に三田祭に向けて行われ、秋学期の前半をかけて論文を執筆します。



インゼミ

塾内では商学部の安藤ゼミ、また一橋大の石川ゼミや横浜国立大の清田ゼミともインゼミを行います。

課外活動

ISFJ 日本政策学生会議への参加など、課外活動も積極的に行われています。

三田祭

貿易・中間・開発パートに別れ論文を執筆し、三田祭期間に発表を行います。

合宿

新歓合宿と夏合宿、毎年2回行われます。3年生は夏合宿までに個人小論文の執筆を課せられ、合宿中に各自発表します。

夏休み

希望者のみの参加ですが、一週間ほど東南アジアにスタディツアーに行きます。

授業

必修ではありませんが、木村先生が担当し、ゼミとの相乗効果の期待できる国際貿易論(水曜2限)やPCPの授業を履修するゼミ員が多いです。

経費

教科書代、ゼミ費(コピー代に使用)、合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

事前に発表された小論文課題から自身の論文テーマを決め、各自内容に合わせた参考図書を探します。面接は主に小論文をもとに行われますが、関連する時事問題なども予習しておくとうれい。

7. 先生が担当している講義

国際貿易論(水曜2限@三田533教室)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/kimura/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 小西 凱
内ゼミ代表 高野 泰河
入ゼミ担当 川合 康平
越智 航平

Mail:kimura.fukunari.seminar@gmail.com

駒形哲哉研究会

—東アジア・中国経済論—

1. 研究分野

(1) 担当者の研究分野：中国経済論、地域経済論、経済体制論

中国経済は計画から市場への移行と途上国の経済発展という二つの側面をもちます。前者については終わりが近づきつつも、中国のもつ空間の巨大さが加わり、固有の経済体制の下での経済発展がなお続いています。担当者は、上記の特徴が、中国の産業の発展にどのように影響を与えているか、日本企業が中国との関わりのなかでどのような機会を得、あるいは課題に直面しているかについて研究しています。研究方法としては、基本的には個々の事実の積み重ねから全体像を組み立て、論理を抽出するというスタンスをとっています（担当者の研究内容については当研究会 HP 等を参照してください）。

(2) 研究会の研究分野：経済体制論・地域研究・中国経済論

皆さんが生まれる何年前に、中国は市場経済の道を本格的に歩み始め、小学校入学前には、中国は「世界の工場」と呼ばれるようになりました。そして現在、中国はモノだけでなくカネの面でも影響力を持ち、さらに中国経済の景気動向が、世界経済に対し大きなインパクトを持つようになってきました。今や中国国内で発生する様々な問題が世界経済のリスクとなる可能性も高まっており、もはや中国と付き合いがどうかを好き嫌いで決められる段階ではありません。

日中両国はよく「一衣帯水の隣国」と表現されますが、隣国だから考え方が似ていると思うのは全くの誤りです。中国が国際社会でとる行動を理解するには、その政治経済体制や国土の大きさ、多様性がもたらす様々な背景を歴史的過程とあわせて把握する必要があります。また、中国は経済社会の発展を考えるには研究トピックの宝庫と言えます、興味は尽きません（研究会の HP で卒業生の卒論テーマ参照）。ただし、当研究会の目標は「中国通」の養成ではないことを予め強調しておきたいと思います。

本研究会での活動は、中国経済（中国を含む東アジア経済）を題材に、現実を理解し、その理解を論理的に把握したうえで、次にその論理を的確に表現する訓練を行うという、大学でなければできない能力の形成を目指しています。また、中国や東アジアの地域経済を研究することを通じて、日本の方向や日本で学ぶ意義を確認することも目的にしています。そして当研究会では一人ひとりの進路を見据えつつ、一人で頑張る能力、グループで協力し頑張る能力、全員で協力する能力、異なる環境に対応する能力といった各レベルの能力をトータルで高める活動（個人研究／パートゼミ／インゼミ・三田祭／中国研修等）を用意しています。

2. 学生への要望

・研究会の活動を最優先して、積極的に参加する意欲のある方のみ参加を許可します。個人、グループ、全体での活動に、かなりの時間を要するので、とにかく研究会を最優先できることが第1条件です。

・研究の必要上、第二外国語などで中国語を学んだ経験があるか、もしくは中国語を学ぶ意思のある方を歓迎します（ただし、入会の必要条件ではありません）。

・台湾経済・中台兩岸経済・中国を視野にいたした東アジア経済等の研究を希望する方も受け入れます。

3. 選考について

①募集人員：10名以内（AB両日程合わせて）

②選考内容：

・志願書の内容についての面接
・自分の設定したテーマによるプレゼンテーション（5分程度）、質疑応答

③選考基準：中国経済（または台湾・兩岸経済）を中心とする東アジア経済の研究を通じてさまざまな問題を探求していく意識と研究会活動を最優先して参加する意欲の有無。

んだことを実際に現地に赴き体感する機会となっています。

4. ゼミ員構成

3年生 8名(男6名、女2名)(留学中0名)
4年生 5名(男3名、女2名)(留学中1名)

5. 活動内容

① 本ゼミ(火曜4・5限(延長あり))

春学期

3年生が教科書を各章ごと要約し、約30分間の発表を行います(輪読)。中国経済を様々な視点から分析し、グループ議論、全体議論を通して知識を身につけます。また、外部の講師を招いて講演をしていただくこともあります。

秋学期

春学期に身につけた考え方、知識を土台として各自が個人研究をし、発表します。中国の地方財政、金融、自動車などテーマは多岐にわたります。

② サブゼミ

主にパートゼミの活動を行います。工場見学の準備や三田祭論文の活動に時間を充てることもあります。

③ パートゼミ

マクロパート

毎月の中国経済の動向をマクロ的に分析して記事を作成し、財団法人霞山会のHPに掲載させていただいています。

ミクロパート

企業訪問や工場見学などのフィールドワークは、主にミクロパートを中心に活動しています。

④ インゼミ

今年度は獨協大学、学習院大学と行う予定です。

⑤ 課外活動

企業訪問・工場見学

中国と深い関わりを持つ様々な企業や工場に見学に行っています。今年度は大塚製靴工場などを見学させていただきました。

中国研修

4年生が天津、上海のいずれかを訪れ、中国企業の見学や現地の大学生との交流を行います。2年間を通して学

⑥ 三田祭

3年生が主体となって三田祭論文を作成します。去年のテーマは「日系中小製造業の中国における持続的発展—中国拠点における人材の重要性—」でした。

⑦ 夏休み

ゼミの活動はありませんが、合宿に向けて個人研究を進めます。また、三田祭論文作成のため、自主的に集まることもあります。

⑧ 合宿

夏休みに2泊3日の日程で合宿をします。3年生はブレ卒論の構想、4年生は卒業論文の中間発表を行います。今年度は熱海で行う予定です。

⑨ 授業

経済体制論(三田(春秋)、月曜2限)

⑩ 経費

合宿費：20000円(合宿地による)

テキスト代：2000円

中国研修費：年度により異なります

7 ゼミ試験対策で使用した参考書

試験では参考書を使わずに、自分の興味のある新聞などの記事を選び、プレゼンテーションをしました。

8 先生が担当している講義

経済体制論(三田(春秋)、月曜2限)

フィールドワーク論(日吉(春)、月曜4限)

9 ゼミHP

<http://komagataseminar.strikingly.com/>

10 連絡先

外ゼミ代表 大橋慶也

yoshiya1207@hotmail.com

内ゼミ代表 尹名玥

yinmingyue.jp@gmail.com

入ゼミ担当 芹川哲也

seritetsu1001@gmail.com

吳昇姫

tmdgmlfldk@naver.com

白井義昌研究会

—国際経済学—

1. 研究分野

国際経済学(国際貿易, 開放マクロ経済、国際金融といった分野)の研究トピックスについて3年生はグループ研究、4年生は卒業論文を作成することを目標にする。3年生のグループ研究の成果は12月に他大学(一橋大学経済学部石川城太研究会および古澤泰治研究会、筑波大学国際総合学類黒川義教研究会、国際大学大学院国際関係学研究科柿中真研究室、東京大学公共政策大学院宮本弘暁研究室)との合同発表会にて発表する。発表は英語で行う。そのため英文研究報告書を作成することになる。

本研究会での研究アプローチは次のとおりである。国際経済問題を資源配分問題としてとらえ、その経済問題を議論する材料として科学的な問い(Scientific Question)を設定する。適切な理論分析と実証分析を行うことでその問いに答える。

例えば国際貿易の分野では、さまざまな国家や地域で分業の様子はどのように把握できるか? またそれはどのように決まるのか? またどのような枠組みで国際分業決定の仕組みを考えればよいのか? といった大きな問題がある。

研究会の年間スケジュールはおおよそ以下のとおりである。

春学期前半に本ゼミ(水曜日4、5時限)で学術論文はどのように書かれているかを実際の英文論文を輪読解説することで学ぶ。その過程で論文の読み方、発表の仕方も学ぶ。平行してサブゼミ(水曜日4、5時限以外に1コマ設定)にて国際貿易と国際金融についての教科書輪読をして国際経済の基礎知識を学ぶ。経済学者が国際経済の問題について通常どのように考えるかを知っておく事は研究を行ううえでとても重要である。どのような研究をするにせよまずはスタンダードな考え方を参考にしてアプローチすることが研究の設定を設定するためには不可欠だからである。

春学期後半からは3年生は研究グループを組み、各グループの研究トピックスと先行研究論文の選定と発表を行う。4年生は卒業論文で扱うトピックスについての先行研究論文について発表を行う。

この過程で研究グループでの共同研究(4年は卒論)での科学的な問いを見いだすための研究作業をなるべく明確にする。そして夏休み中の作業計画を建てる。

夏休みの最後に開催する合宿では夏休みの研究作業報告を行う。

秋学期は共同研究の研究課題の明確化とそれに答えるための作業結果の精査と繰り返し行い、結果の整理を行う。秋学期半ばから後半にかけて研究結果を実際に報告書にするために推敲する。まずは研究内容のスライド作成が第1目標になる。それに基づいて報告書の作成をする。

報告書の作成は学術論文のフォーマットにならう。(卒論作成も同様)

12月は英語での研究発表会の準備と発表を行う(卒論は卒論発表を本ゼミで行う)。

1月は卒論作成にむけてトピックス選定と先行研究文献表の作成を行う。卒論トピックス選定理由と文献表の提出が課題である。(4年は卒論の最終稿提出)

2. 学生への要望

国際経済に関することであれば研究トピックスは学生の自由意志にまかせたいと考えている。自ら積極的に問題をみつけてその問題にどうアプローチすればよいか相談してほしい。研究をする際に、結論を出す事を急ぐ学生が多いが、まずは先行研究ではどのようなことがわかっているのかを謙虚に学ぶ姿勢を持って欲しい。そして何事にも好奇心を持って欲しい。

大学でこそ学べることは学術研究の手法である。またそれを学ぶことはみなさんが実社会にでたときに一番役立つことだと確信している。

3. 選考について

⑦ 募集人員: 15名程度

① 選考内容: ミクロ・マクロ経済学の内容を英語で出題する筆記試験と面接

② 選考基準: 筆記試験と面接の総合点

4. ゼミ員構成

3年生 20名(男14名、女6名)(留学中5名)
4年生 16名(男10名、女6名)(留学中2名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜4・5限)
3・4年生で行います。春学期前半は、英語の学術論文の輪読・プレゼンを通し国際貿易・国際金融について学びます。春学期後半からは3年生は国際貿易・国際金融・開発経済のテーマ別に班を作り三田論に向けてグループ研究、4年生は卒論に向けて研究を行います。それぞれ定期的に研究経過を発表し、教師および他のゼミ生からのフィードバックを貰いながら進めていきます。
- ② サブゼミ (月曜4・5限)
3年生だけで行われ、英語の教科書を輪読・プレゼンします。International Economics という国際貿易・国際金融の教科書を扱います。本ゼミで扱う難易度の高い論文をよりよく理解するための基礎知識を身に付けることを目標とします。
- ③ パートゼミ
国際貿易・国際金融・開発経済のパートごとに班に分かれて三田論を執筆します。各班で適宜集まって研究・作業を進めます。
- ④ インゼミ
12月に慶應義塾大学の木村ゼミとのインゼミを行います。また、東京大学の宮本ゼミ・国際大学の柿中ゼミ・一橋大学の石川・古澤ゼミ・筑波大学の黒川ゼミと合同での研究発表会があり、英語でプレゼンテーションおよびディスカッションを行います。
- ⑤ 課外活動
なし。
- ⑥ 三田祭
本ゼミで進めてきた三田論の提出およびブースを設けての発表を行います。
- ⑦ 合宿
・新歓合宿(5月):今年1泊2日で伊豆に行きました。ソフトボール大

会に向けての練習や様々なアクティビティを通じ、3・4年生の親睦を深めます。

・夏合宿(9月):今年2泊3日で千葉に行きました。3年生は三田論の中間発表、4年生は卒論の中間発表を行います。

- ⑧ 夏休み
3年生は三田論の班で定期的に集まり、研究を進めます。
4年生は卒論の研究を進めます。
白井先生からアドバイスを頂きながら研究内容の方向性を定めていきます。
- ⑨ 授業
ゼミ必修はありません。
- ⑩ 経費
年会費:1500円
合宿費:1万5000円(新歓合宿)、2万円(夏合宿)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

- ・演習ミクロ経済学 武隈慎一著
- ・クルーグマンマクロ経済学 ポールクルーグマン著

7. 先生が担当している講義

マクロ経済学初級 I (日吉、火曜日1限)
MACROECONOMICS(PCP) (三田、水曜日2限)

8. ゼミ HP

<http://shir aizemi2014.jimdo.com>

9. 連絡先

外ゼミ代表 出町 光太郎
kotaro.demachi@gmail.com
内ゼミ代表 杉山 絵里香
10erikasgym01@gmail.com
入ゼミ担当 高橋 若那
t.mona.u.u@gmail.com

竹森俊平研究会

—国際経済—

1. 研究分野

三田で教えている専門科目の科目名は「世界経済論」。古き良き時代の遺物で、いまならこんないい加減な科目名は大学が認めない。経済のことなら何を話しても「世界経済論」に収まるのだから、何を話してもいいことになり、筆者にとってまことに好都合だ。

篠原三代平という昔の偉い先生からよく、「竹森君は、どうせ、また面白おかしく本に書くんだらうから」とからかわれた。友人の早稲田大学、若田部昌澄教授からは「日本の経済学者の中でストーリー・テリングの第一人者」という評価を頂いた。友人の評価だからアテにはならないが、気に入っている。そう、筆者の専門は「経済がテーマのストーリー・テリング」である。

経済事件は毎日、無数に起こっている。一連の事件を抽出し、その背後にある「ドラマ」を見つけ、面白おかしく語る。そういうと、他の「真面目な経済学」をしている先生とまるで違うことをしていると思うかもしれない。そんなことはない。

たとえば真面目な経済学の代表、「経済理論」とは、いくつかの仮定を数式の形で提示し、その仮定の間に葛藤や融合を引き起こすことによって「クライマックス＝結論」を論理的に導き出す仕組みである。数人の登場人物の葛藤や融合により、時には「悲劇」、時には「喜劇」が論理的に導き出されるドラマの仕組みと少しも変わらない。

二点補足する。

(A.) 「幸福な家庭はどれも同じように退屈なものだが、不幸な家庭はみな特有だ」というトルストイの言葉からも分かるように、「危機」はドラマとして面白い。したがってゼミでは必ず経済危機をテーマに取り上げる。

(B.) 以上のことを読んで、ストーリーなら自分でも語れる。マイクロ、マクロを勉強して損をしたと思う学生がいるかもしれないが、そんなことはない。ドラマは世の中の動きが「規則性」から乖離する瞬間に生じる。その瞬間にドラマを発見できるためには、マイクロ、マクロを徹底して勉強し、「規則性」の感覚を身に着ける必要がある。

2. 学生への要望

本ゼミでは選考に当たり面接はしない。その代わりに、延々とした、長時間の筆記試験を課

す。毎年5時間くらいの筆記試験で、がっちり文章を書いてもらっている。かならずマイクロ、マクロの経済学に関連した問題が出るので、マイクロ、マクロは死ぬほど勉強しておくこと。面接をしないで、学生の「やる気」や「性格」が分かるのかという質問を受ける。分かるために面接は必要ない。がっちり文章を書かせれば「やる気」も、「性格」も、「知識」、「分析力」と一緒にすべて文章に出てくる。

日吉でマイクロやマクロの点が悪かった、統計もダメだった、それでもいいかといった質問も受ける。日吉のことはいい。しかし、三田ではマイクロも、マクロも、統計も、死ぬほど勉強してもらおう。さらに世界史も、日本史も。「この科目はダメ」と、自分で自分に限界を設けるような学生は、伸びるわけがないから付き合わない。

3. 選考について

- (ア) 募集人員 18名
- (イ) 選考内容 筆記試験 英文で経済に関する文章を読んで解答してもらおう。その際、マイクロ、マクロの経済学知識が絶対に必要。試験時間は5時間くらい。
- (ウ) 選考基準 当たり前だが、試験成績優秀な者を採る。

4. ゼミ員構成

3年生 19名(男7名、女12名)(留学中1名)
4年生 24名(男15名、女9名)(留学中0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜4・5限)
本ゼミでは、竹森先生の専攻分野である国際経済を主なテーマとして扱い、4限では様々な論文を輪読しプレゼンを行うほか、5限では先生が選んだ題材(例 *The Federal Reserve and the Financial Crisis* など)の輪読をゼミ生で3,4人のグループに分かれて順番に行い、英語によるプレゼンテーションを通じて国際経済への理解を深めていきます。

② サブゼミ (木曜4・5限)
小グループ毎に、主にGPAC(詳しくは後述)やインゼミに向けての論文のテーマ決め、話し合い、中間発表などの時間として利用されます。活動内容は主に3年生に一任されており、論文に関する質問や相談に竹森先生が適宜に答えてくださいます。

③ パートゼミ
輪読の際には3,4人の小グループに分かれてプレゼンを進めていきます。GPACや他のインゼミ準備の際にも小さなグループになって個々のテーマに沿った研究を進めていきます。

④ インゼミ
毎年、夏休み期間中にはアジアの学生と交流を持つGlobal Partnership of Asian College(通称GPAC)に参加しています。1月に韓国インゼミ。11月に京大などと合同ゼミを行う関西インゼミが予定されています。

⑤ 課外活動
なし

⑥ 三田祭
三田祭期間は韓国インゼミに参加するため、出展はありません。

⑦ 合宿
4月中のソフトボール合宿など

⑧ 夏休み
毎年Global Partnership of Asian College(GPAC)に参加しています。2016年度は8/20~8/26の間に韓国でGPACが開催されました。日本のみならず台湾、韓国、ベトナム、イスラエルなどの海外の学生と互いに英語によるコミュニケーションにより交流を

持てる貴重な機会です。なお、2017年度は中国で開催される予定です。

⑨ 授業
ゼミ必修の授業は特にありません。

⑩ 経費
(参考費用)
教科書費、GPAC参加費(2016年度\$390)、インゼミ参加費etc.

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『ユーロ破綻そしてドイツだけが残った』
竹森 俊平著

7. 先生が担当している講義

国際金融論b(三田、水曜日2限)
世界経済論a/b(三田、火曜日3限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/takemori/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 桑原 大輝
連絡先 hrk988ra@gmail.com
内ゼミ代表 大嶋 有紗
連絡先 ars.osm.129@gmail.com
入ゼミ担当 友岡 芽唯
連絡先 mei.tomooka23@gmail.com



産業・労働

経済

赤林英夫研究会

植田浩史研究会

太田聰一研究会

駒村康平研究会

三嶋恒平研究会

赤林英夫研究会 (他学部・可)

—教育・家族・労働の

応用マイクロ計量経済学—

1. 研究分野

マイクロ計量経済学による教育・家族・労働の分析

どのような理論も、現実の問題の解決に対して有効でなければ意味がありません。この研究会では、経済理論を学ぶだけではなく、現実のマイクロデータの計量分析を通じ、経済学を社会の改善のために生かす手法と実践を学びます。担当者の現在の関心は**教育経済学**ですが、同様に、共通点の多い**家族の経済学・労働経済学**についても学びます。そこでは、今後の日本にとって最も重要な、しかしお金だけでは解決できない、教育、家族、労働の問題を正面から扱います。

マイクロデータの計量分析は「ビッグデータ」の基礎技術の一つとして、ビジネス・マーケティングにおいても大きな価値を持っています。研究会で学ぶ視点や分析手法は、シンクタンクや国際機関での政策評価に使えるだけでなく、未来のIT社会におけるデータの価値を理解し、データに基づいた新しいビジネスの可能性を考えるきっかけにもなります。

卒論・三田祭研究では、マイクロ計量経済学的アプローチであれば、広い範囲の社会経済問題からテーマを選ぶことができます。ここでは、問題発見・理論構築・データ開発・実証と、オリジナリティを重視します。

英語によるプレゼンテーションと討論

自分の考えを日本語で説明できるということは、もはや社会が皆さんに求めるスキルの十分条件ではありません。グローバル化は、英語で説明し、議論できる能力を要求します。研究会では原則英語の文献を読み、プレゼンテーションの約半分も英語で行うことを目標にしています。**英語に自信のない人も、人一倍のやる気があれば参加できます。**

さらに研究室のプロジェクトに参加

本研究会では、勉強会方式に加え、研究室のプロジェクトに参加する意欲のあるゼミ生も募集します。研究室では、教育の評価分析プロジェクトを複数進めています。本格的な研究の一端を経験したいと思う人には、是非積極的に参加してもら

いたいと思います。

これらの学習を通じた最終目標は、**現実の新しい経済社会事象と向き合う時に必要な、自分の頭で思考し、事実を分析し、人に伝え、社会を変えるための力を獲得すること**です。その力とは、経済学的な視点と論理、データを解析する技術、そしてへたな英語でも臆せず使うパワーです。これらは、皆さんが社会に出てから成長し続けるための、一生の財産になるでしょう。

2. 学生への要望

本研究会では、多様な関心を持つ人を歓迎します。ただし志望するためには、日吉で初級マイクロ経済学と統計学の単位をすべて取得していることを最低条件とします。計量経済学概論の履修も強く勧めます。

・facebook ページ 慶應義塾大学経済学部赤林英夫ゼミナール

・twitter @akbzemi2017

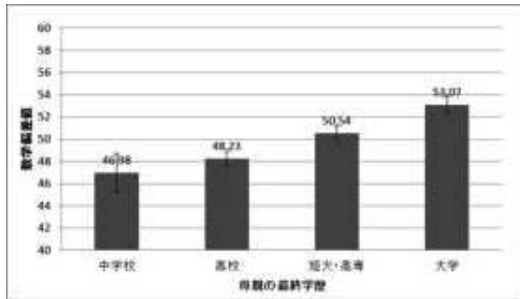
に必ず目を通しておいて下さい。入ゼミの最新情報が発信されています。

研究内容の紹介

赤林英夫研究室では、**最先端の教育経済学研究**を行っています。特に、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターと連携し、日本で唯一、研究目的で利用可能な、学力を含む子どもの追跡データ(JCPS)を収集しています。JCPSは、世代間の格差の伝搬の分析や、家庭内教育の国際比較に利用されています。研究室では、他に、政府や自治体のデータを利用した、教育政策の評価分析を行っています。



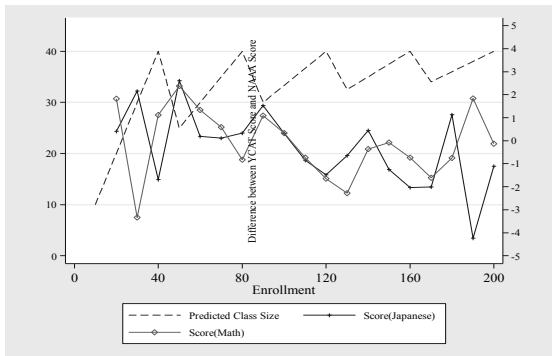
母親の学歴と子どもの数学の偏差値(赤林他



2012)

学級規模と小6の国語の成績の伸び(赤林・中村 2014)

<http://synodos.jp/education/12530>



3. 選考について(2016年度)

- ①募集人数 10人。原則 A 募集のみ。4年生、他学部も応募可
- ②選考内容 (以下あくまで予定) レポート提出・教員面接・日吉の成績表の組み合わせ。
- ③選考基準 1-2年で勉強している証拠があること、自分で問題を考え、明快に説明できること。やる気と行動力。英語力は入ゼミ時には不問だが、強烈な向上心は必要。

4. ゼミ員構成

- 3年生 6名(男3名、女3名)(留学中1名)
- 4年生 11名(男10名、女1名)(留学中1名)

5. 活動内容

①本ゼミ(水曜日4・5限)

今年の春学期は、計量経済学と教育経済学、また統計分析ソフトのStataに関する英語文献やネット上の資料、動画を用い、グループになってそれぞれ要約やデモンストレーションなどを行い発表しました。毎回各グループの発表

に対して3・4年生でディスカッションを行い、先生からも意見を伺ったりすることで応用ミクロ経済学全般の知識の獲得と、プレゼン能力の向上を図ることが出来ました。英語の文献や資料、動画を用い、プレゼンと発表後の質疑応答も積極的に英語で行いました。

秋学期は三田論文・卒業論文の中間発表を中心に行う予定です。

②サブゼミ

特になし

③パートゼミ

特になし

④インゼミ

今年は現在検討中です。

⑤課外活動

ゼミ生は有志で赤林英夫先生の研究室が行っている教育政策・家族政策の評価分析プロジェクトに参加することができ、研究現場の最前線を体験することができます。

今年度は11月中に行われます。

⑥三田祭

今年は「奨学金」と「進学の意味決定の要因」をテーマに論文を執筆します。適宜先生からアドバイスを頂きながら、各班それぞれメンバーが協力しあって進めています

大変なことも多い三田論ですがこの経験は学生生活の財産になるでしょう。

⑦夏休み

3年生は自主的に三田論のパートごとに集まり、三田論の作業を進めました。

⑧合宿

9月1日から二泊三日の夏合宿が行われ、3年生は三田論の中間発表を、4年生は卒業論文の中間発表をそれぞれ英語と日本語を交えて行いました。また、普段の授業でも行われる論文の輪読に加え、グループディスカッションも行いました。

⑨授業

今年はミクロ経済学中級I、計量経済学中級、労働経済論がゼミ必修授業でした。

⑩経費

テキスト代(コピー代含む)、Stata(統計ソフト)の学生版購入代、新歓・夏合宿代、飲み会代などがかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

今年度も成績表とレポートの提出と教授面接にて評価を行う予定です。筆記試験を行う予定はありません。レポートの課題は未定ですが、日吉のミクロ経済学・統計学のテキスト、プリントを参考にすることを推奨します。

昨年はレポート課題として、論文の要約を行いました。昨年の課題論文の詳細はゼミのfacebookページにあります。

7. 先生が担当している講義

労働経済論（三田、春学期後半水曜日、金曜日 1 限）

自由研究セミナー（日吉、秋学期金曜日 4 限）

経済学で考える人生設計：勉強・家庭・キャリアの選択（日吉、秋学期金曜日 5 限）

8. ゼミ HP

ゼミの facebook ページがあります。『慶應義塾大学経済学部赤林英夫ゼミナール』と検索してください。

9. 連絡先

外ゼミ代表 後藤理央

連絡先 gori.gori.gorio1229@gmail.com

内ゼミ代表 平野陽介

連絡先 yosuke-hirano@ezweb.ne.jp

入ゼミ担当 田丸良祐

連絡先 tama110055@gmail.com



植田浩史研究会

-産業論、企業論、中小企業論 -

1. 研究分野

植田浩史研究会では、日本や海外の産業、企業についての研究を文献や実際の企業訪問などを通じて行います。研究会での勉強や経験を通じて、現実の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察していきます。企業や産業・地域の現場で起きていること知るとともに、そこで起きている問題を正確に理解し、多面的かつ論理的に分析していく力をつけていくことを課題としています。

日常のゼミでは、国内外の産業や企業に関する文献を輪読しています。アカデミックな研究書からビジネス書に近いものまで、多くの文献に目を通し、具体的な問題から日本経済や世界経済の現状や課題について議論しながら、勉強しています。

また、夏休みには毎年2泊3日程度で特定地の地域に滞在し、地元の企業などを訪問する地域調査を実施しています。最近では、2011年札幌、2012年函館、2013年帯広、2014年倶知安・ニセコ、2015年帯広、2016年函館、と北海道が続いています。東京とは全く異なる環境で企業や地域、そしてそこに住む人々がどのような営みを行い、どのような課題に直面しているのか、地域の企業を見学し、経営者の方々と話をする中で勉強していくのか、調査合宿の課題です。

また、調査合宿では、後述する商工中金懸賞論文のテーマ別にグループを作り、グループで訪問先と質問内容を決め、グループごとに準備を進めてきました。このほか、夏休みや春休みに企業訪問を行うなど、企業や産業の実態を肌で感じられる場を持つのが、この研究会の一つの特徴になっています。

3年生は、中小企業向け金融機関である商工中金の研究機関、商工総合研究所の懸賞論文にも挑戦しています。商工総合研究所が決めた中小企業に関する研究テーマに対して、自分たちで課題を設定し、調査対象を決め、ヒアリングや資料を集めながらグループで論文作成をしています。今年度は、「中小サービス業の発展戦略」「IT技術の深化と中小企業」「地方創生と地域金融機関の役割」の3つのテーマに対し、5つのグループに分かれて、研究しています。今年度の函館合宿では、それぞれの班が関連する企業や機関をさがし、教員の力を借りながらアポを取って訪問して、調査を実施します。

2. 学生への要望

まず、現実の産業や企業の動向に関心を持ち、何事に対しても深く突っ込んで考え、調べていくこと、そしてそのための労をいとわないことを要望します。

また、サークルなどとは異なり、ゼミはゼミの仲間と一緒に悩みながら勉強を進めていく場です。仲間と一緒に勉強していくことは、学問する上ではもちろん、新しい友達を作っていく上でも非常に重要な場です。

研究会に参加する2年間は、期間としては決して長いものではありませんが、人生の中で、もっともいろいろなことをじっくり考えられる期間です。この2年間に、出来る限り多くのことに接し、多くのことを吸収し、多くのことを学び、考えてもらいたいと思っています。

3. 選考について

①募集人数

例年15名前後を募集しています。来年度も同じ人数で募集する予定です。

②選考内容

例年、入ゼミ希望者に対して課題を設定し、6000～8000字程度のレポートを出してもらいます。その上でレポートの内容を参考にした面接を行っています。来年度についても、同様な形式で選考を行う予定です。但し、レポートの課題や字数については、年によって異なりますので、注意してください。

また、レポートの内容や研究会活動への意欲を確認するなどの目的で、面接を実施しています。

選考は、入ゼミレポートと面接の総合判断で行います。

③選考基準

産業・企業に対する関心の高さや最低限の経済学や社会に対する知識、勉強やゼミ活動への意欲を評価しています。

4. ゼミ員構成

3年生 21名(男12名、女9名)(留学中1名)
4年生 22名(男12名、女10名)(留学中0名)

5. 活動内容

①本ゼミ(金曜4,5限)

輪読を中心に行います。先生から指定された文献の要約と討論するテーマを担当者がそれぞれ作成し、それを元にディスカッションします。さらに、各班5人程度の班を作り、グループディスカッションをして意見をまとめ、ゼミ員全員と共有します。また、4年生は卒業論文の発表を本ゼミで行っています。

②サブゼミ(月曜4,5限)

3年生がいくつかのグループに分かれて、商工中金主催の中小企業懸賞論文を制作します。

そしてそれと同時に、サブゼミ用の教材を輪読し、ディスカッションをして三年生のゼミ員で共有します。

③パートゼミ

3年生がいくつかのグループに分かれて、商工中金主催の中小企業懸賞論文を制作します。今年度は「中小サービス業の発展戦略」「IT技術の進化と中小企業」「地方創生と地域金融機関の役割」「創業・新規事業への中小企業金融の役割」をテーマに、各グループで企業訪問や研究・分析を重ねて論文を作り上げます。

④インゼミ

今年度は特に予定なし。

⑤課外活動

当ゼミの大きな特徴の一つで、現実の産業・企業・技術に即して学ぶためにフィールドワークを積極的に行っています。今年度は6月中旬にグループごとにわかれて中小企業訪問を行いました。その他にサブゼミや夏合宿でも数多くの企業に訪問し、精力的に実地の経験を積みます。

⑥三田祭

三田祭ではサブゼミや合宿で作成した懸賞論文を三田祭論文として発表しています。

⑦夏休み

夏休みは夏合宿と論文合宿を行い、それと並行して三田祭で発表するための懸賞論文を仕上げます。

⑧合宿

3年生だけで行く夏合宿は、懸賞論文のテーマに合わせて先生と相談し合宿地を決めます。一昨年は北海道の倶知安、去年は帯広へ行きました。そして今年度は函館を訪問しました。現地の企業経営者の方々からお話を伺い、懸賞論文を制作します。3、4年生全員で行く論文合宿では、首都圏近郊で懸賞論文と卒業論文の中間発表を行います。

⑨授業

幅広い分野の産業や企業、現実の事例を踏まえて色々な角度の視点から分析し、フィールドワークを積極的に行い、多面的に分析、洞察する力を養う。

⑩経費

輪読で使用するための教科書代+夏合宿代+その他

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ試験の課題が「特定の産業、または企業を取り上げ、2000年代から今日に至る環境と競争構造の変化、現状と課題について調べ、自分の見解を述べること」「『下町ロケット』の1及び2を読み、今日のものづくり中小企業の現状と課題について考察すること」のいずれかのテーマを選ぶ形式だったのでそれに応じた参考書を各自用意すること。

7. 先生が担当している講義

前期 日本資本主義発達史(三田、金曜日
1.2限)

後期 現代日本経済論(三田、金曜日2限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/ueda>

9. 連絡先

外ゼミ代表 村上 晃大

連絡先 murakami.akihiro0828@gmail.com

内ゼミ代表 岸村 賢

連絡先 kkcrossway@gmail.com

入ゼミ担当 五嶋 春花

連絡先 sakuraharuka7@gmail.co

太田總一研究会

—労働経済学—

一・研究内容

- 一 研究分野は労働経済学です。研究テーマとしては、計量経済学にはじまり、労働市場の均衡、賃金格差、労働組合の役割、雇用慣行、昇進とキャリア、失業問題など極めて多岐にわたるのが特徴です。

・メンバー構成

- 一 10 期生(4年生) … 14 名(男子 9 名:女子 5 名)
- 11 期生(3年生) … 15 名(男子 11 名:女子 4 名)
- 計 29 名

・活動日

- 一 基本的には週1回、水曜日の4, 5限に活動しております。また、その他に卒業論文(4年生)、三田祭論文(3年生)の執筆に向けて各メンバーが自主的にサブゼミを開催しています。特に三田祭論文には力を入れております。

・各種行事

5月	新歓合宿
6月	ソフトボール大会優勝 全塾3位
8月	夏合宿
11月	三田祭論文
12月	ISFJ 論文
	OB 会



《入ゼミ》 ~How do I get into Ota Seminar?~

- ・A 日程、B 日程ともに「ゼミ生の面接のみ」
- ・成績提出なし、ペーパーテストなし
- ・事前課題について… 労働経済に関する論述課題(A日程:4000-5000 字以内の課題を 2 稿、B日程:400 字以内の課題を 2 稿)を実施
- ・求める人物像… 積極的に発言をする行動力のある人・責任感の強い人
- ・昨年度の倍率 A 日程 2.1 倍 (9/19) B 日程 5 倍 (6/30)
- ・参考資料 レポート課題は毎年内容が異なるため、決まった参考文献は特にありません

《太田先生について》 ~About Professor Ota~

京都大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士前期終了の後、名古屋大学経済学部助教授、同

大学院経済学研究科教授を歴任。2005年に慶應義塾大学経済学部教授に就任しました。最終取得学位:Ph.D. 受賞歴:沖永賞, エコノミスト賞



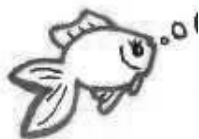
世間にはいろんな主張があふれていますが、その背後には必ず実存があります。だから、何のしがらみもない学生の内に、何の色眼鏡もなしに社会を見る目を養っておくことが大事です。

《ゼミの雰囲気》 ~What's Ota Seminar like?~

太田ゼミと他のゼミの違いは特にその自由度の高さにあります。明確な目的意識を持っている人にとっては、それを発揮するこの上ない環境になります。しかし、その代わりにゼミ員には高いレベルを要求します。ゼミを行う日には徹底的な質問、話し合いが交わされます。その日のプレゼンでは、ダメなアウトプットに対してはダメだと言い切られます。それはそのように振る舞うことがお互いのためになると全員が理解しているからです。

さらに、太田ゼミでは週1回しか顔を合わせないため、時間の濃度を非常に大切にしています。例えば、論文執筆のための宿舎では栄養ドリンクを大量に並べて文字通り死ぬ気で勉強しますし、イベント後の飲み会では徹夜で遊び散らかすのが常です。

ゼミ生は各々様々なバックグラウンドを持っています。サークルでの運営・活動に勤しんでいる者、部活でスポーツに携わる者、海外・社会人に数多くの人脈を持つ者。ゼミ生それぞれがゼミ以外での活動にも勤しみ、自身のバックグラウンドの充実、目指す人間像の確立を図っています。しかし、各々の活動と両立してゼミでの活動にもしっかりと参加でき、責任感のある方に志望していただきたいと考えています。それでは、たくさんの2年生の皆さんが太田聡一研究会を志望して下さることをゼミ生一同願っております。



ゼミの活動やイベントの報告を SNS を通じても行っています
ぜひ覗いてみてください！

Twitter アカウント : <https://twitter.com/Keiooota>

Facebook アカウ ント :
<https://www.facebook.com/Keioooooota>

太田聡一研究会 HP : 「太田聡一研究会」で検索！！

《太田先生の担当授業》

- ・経済学で考える人生設計:勉強・家庭・キャリアの選択(日吉後期金曜 5 限)
- ・演習半期(三田前期木曜 2 限)
- ・専門外国語購読 a/b(英)(三田前期木曜1限)
- ・労働経済論 b(三田後期水曜2限)

駒村康平研究会

—社会保障・社会政策—

1. 研究分野

少子高齢化の進展、所得格差・貧困の拡大のなか、年金、医療、介護、生活保護、障害者、児童福祉といった社会保障制度に関わる多くの問題が人々の関心を集め、最近も社会保障・税一体改革として重要な政策課題となっています。さまざまな社会保障のための費用は、年約110兆円、日本のGDPの24%を占め、今後もどんどん大きくなることが予想されます。本ゼミでは、高齢化社会の進展のなかで、社会保障制度がどのような役割を果たし、どのような問題を抱えているのか、そしてどのような改革案があるのか、それをどのように実行していくのかを研究していきたいと思えます。また学内・他学部、他大学等、外部機関との研究交流、見学、各種研究会での報告なども進めていきたいと思えます。

なお現在の私の研究テーマは、高齢化社会、格差・貧困、雇用問題、生活保護、および子育て支援政策、障害者福祉、年金制度改革が中心となっています。

2015年度の実績・課題は以下の通りです。

大学交流会：早稲田大学、同志社大学。
三田祭発表：「将来の社会保障制度について：技術革新と労働問題に関する報告」

2. 学生への要望

ゼミは「静以修身、儉以養徳」（「優れた人は静かに身を修め、徳を養う。無欲でなければ志は立たず。穏やかでなければ道は遠い。学問は静から才能は学から生まれる。学ぶことで才能は開花する。志がなければ学問の完成はない『誠子書』」）の考えに基づいて運営していきます。学生の皆さんには、質実剛健、元気で明るい人、積極的な人をのぞみます。また、普段から英語の学習、PCの積極的な活用を期待します。

3. 選考について

- ① 募集人員：15名前後
- ② 選考内容：事前レポート、指定図書に基づく筆記試験と面接
- ③ 選考基準：レポートについては、社

会保障制度について明確に関心があるか、きちんとした日本語を論理的に書くことができるかといった点に注目します。具体的なレポートの課題は後日発表しますが、例年、社会保障制度の課題についてのレポートを求めています。

筆記試験については、レポート作成のために指定した文献の理解について20分～25分程度の記述試験となります。

面接はレポートの内容に関する質疑、社会への問題意識・将来の志、ゼミ活動における貢献や協調性の有無といった点から評価します。

連絡先

研究室棟 543号室内線 23433

メールアドレス：bzt05433@nifty.ne.jp

学期中は、研究室への電話およびメールで、長期休暇期間中はメールアドレスで連絡を。

4. ゼミ員構成

3年生 19名(男11名、女7名)(留学中1名)

4年生 17名(男8名、女9名)(留学中0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ（水曜4・5限）

3年生は、『21世紀の不平等』（アンソニー・アトキンソン著）の輪読を行います。週2人程度のペースで担当章ごとにプレゼンテーションを行い、その発表に対する疑問点やより詳しく知りたいことなどをレポーターが中心となり質疑応答します。またその際に駒村先生からレポーターへの質問、指摘があり、内容補足として先生が出席されている会議等のお話も聞くことができます。4年生は卒業論文の発表、製作を行います。

② サブゼミ

行っておりません。

③ パートゼミ

駒村研究会では、4班に分かれてパートゼミを行っております。各班のテーマは駒村先生の専門分野である年金以外は社会の情勢によって毎年変わります。今年のテーマは①年金②格差問題③子ども教育問題④労働問題となっております。班ごとの活動ですので、学生主体で時間を決め、週一回程度集まっています。

- ④ インゼミ
今年は、来年の1月に早稲田大学とインゼミを行います。また12月に同志社大学の佐々木ゼミともインゼミを行う予定です。
 - ⑤ 課外活動
定期的に三田アカデミーという勉強会を行っています。社会で活躍されているOBや社会人の方々を講師としてお招きして、実際の企業の仕事内容やエピソードなど様々な分野の業界の現状を知ることができます。
 - ⑥ 三田祭
班ごとにパートゼミで勉強してきたことを発表する場です。ぜひお越しください！
 - ⑦ 夏休み
論文発表に向けて、班ごとに集まり、パートゼミを行います。
 - ⑧ 合宿
例年、9月上旬～中旬にかけて行っております。内容は、3年は班ごとの研究成果の中間報告、4年は卒業論文の中間報告が主です。
 - ⑨ 授業
駒村先生が担当されている講義は必修です。そのほかにも、人口論、労働経済、医療経済などゼミの研究内容に密接に関わる講義も推奨されています。
 - ⑩ 経費
合宿費以外は徴収しておりません。
6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**
昨年度ゼミで指定された課題図書
『中間層消滅』（角川新書）
『日本の年金』（岩波書店）
 7. **先生が担当している講義**
社会政策論(三田、秋学期、火曜日3限)
社会福祉論(三田、秋学期、火曜日2限)

生活保障の再構築(三田、秋学期、水曜日2限)

8. **ゼミ HP**
<http://seminar.econ.keio.ac.jp/komamura/>

9. **連絡先**
外ゼミ代表 日沖 翔大
連絡先 hioki_shota@yahoo.co.jp
内ゼミ代表 岡部 哲也
連絡先 tetsuya10226@gmail.com
入ゼミ担当 合田 萌映
連絡先 moe.gohda@gmail.com
左近 香澄
連絡先 kasumi.sakon@gmail.com
語の学習、PCの積極的な活用を期待します。



三嶋恒平研究会

一産業・労働経済一

1. 研究分野

本研究会では、工業経済、新興国、企業戦略、イノベーションに関する実態と歴史と理論の3点に関するバランスのよい理解を目指します。この背景には、学生の皆さんに自分の頭で考え、自分なりの意見を持ち、それを他者との意見を通じて高め合っているという、という本研究会のねらいがあります。

まず、本研究会では経済、経営の実態把握に向けたフィールドワークに取り組んでいきます。フィールドワークとは企業や官庁などに足を運び、企業を取り巻く経済状況や競争環境について経営者などにインタビューを行い、現場において自分の目や耳など五感をフルに働かせながらその問題点を探っていく、というものです。フィールドワークは単に現場を訪ねるだけでなく、訪問先企業・官庁の業界分析、質問事項の作成、アポイントメント、スケジューリング、報告書作成、プレゼンなど企画立案から管理運営、評価分析というビジネス・プロセスに準じたステップを踏んでいきます。

フィールドワーク先は日本企業の中でもグローバルな競争優位を有する製造業が中心になりますが、製造業にまつわるサービス業、金融業も対象となり、学生の興味関心も優先したいと考えています。

また、フィールドワークに際して、歴史と理論が現場の問題点を発見し、その解決策を考察するためのツールになると考えます。そうしたことから、本研究会では歴史と経済・経営に関する理論についても学んでいき、特に(1)新興国・日本の産業・経済発展のありよう、(2)企業の組織と戦略に焦点を当てようと考えています。そこで皆さんの興味関心を踏まえながら、例えば、以下の文献のいくつかを研究会では取り上げる予定です。

青島矢一・加藤俊彦(2012)『競争戦略論 第2版』東洋経済新報社。

末廣昭(2014)『新興アジア経済論 キャッチアップを超えて』岩波書店。

井上達彦(2014)『ブラックスワンの経営学 通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ』日経BP社。

藤本隆宏(2003)『能力構築競争』中公新書。

2. 学生への要望

3年生は三田論、4年生は卒業論文を書き上げることを目的にゼミでの活動に主体的に取り組むこと、ゼミに毎回出席し議論に参加すること、課題等期日を守って提出すること、は最低限守ってください。

フィールドワークはアポとりや質問作成、訪問先への移動、事後のお礼等煩雑な作業も多く発生します。また、自分の研究テーマと一見関係がないような組織を訪問調査することもあります。これらを厭わず取り組めるかどうかも重要です。

さらに本研究会は上記のような学びにおいて、ベンチャー・中小企業の社長、大企業の管理職・若手社員、官庁職員、他大学の学生、アジアの新興国の学生など幅広い人たちと接し、交流する機会を数多く設けていきます。それゆえ、本研究会は「何でもやってみよう」という積極さを学生の皆さんには望みたいと思います。

3. 選考について

① 募集人員：約10名

② 選考内容：レポートと面接

③ 選考基準：(レポート)文献の理解度、論理性、オリジナリティの3点と研究会でやりたいこととの具体的な関連性

(面接);これまで頑張ってきたこと、将来の目標、研究会でやりたいことの3点が本研究会とどのように関係しているか。

4. ゼミ員構成

3年生：14人（男子：10人、女子：4人）
4年生：14人（男子：6人、女子：8人）

5. 活動内容

① 本ゼミ（水曜4・5限）

本研究会では、工業経済、新興国、企業戦略、イノベーションに関して、実態と歴史と理論の3点のバランスのよい理解を目指しています。ゲストスピーカーによる講義、課題図書やフィールドワーク結果に関するプレゼンテーションやディスカッションを通して、上記の分野の基礎を身につけています。

また、前期から後期にかけては4年生の卒業論文に関する発表・ディスカッションも行います。

② サブゼミ（月曜4・5限）

企業に足を運び経営者の方々にインタビューを行うフィールドワーク、本ゼミで扱う課題図書や、ゲストスピーカーに対する議論や準備を中心に進めています。日本だけでなく、今年は長期休みには新興国（タイ）にてフィールドワークを行いました。また、テーマに応じて先行研究の調査も行います。活動内容は濃く忙しいため、ゼミに時間を割ける方をお待ちしております。

③ インゼミ

今年度は慶應商学部の井口ゼミとインゼミを行います。昨年度は中島ゼミと木村ゼミと1回ずつ、また、一橋大、国際大、そして筑波大とのインゼミを行いました。

④ 課外活動

ソフトボール大会、三田祭模擬店

⑤ 三田祭

模擬店、三田論ブース共に参加します。

⑥ 合宿

5月に新潟県でスノーピーク合宿、夏休みには国内合宿と国外合宿を行います。2016年度の訪問地は気仙沼とタイです。

⑦ 夏休み

合宿の準備、三田論準備のために各班

で集まり作業をすることがあります。

⑧ 授業

三嶋先生担当の工業経済論がゼミ生履修必須科目です。

⑨ 経費

ゼミでの合宿費等。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。レポートのための課題図書を読み込みます。

7. 先生が担当している講義

工業経済論（三田、通年、火曜日2限）

8. ゼミHP

http://seminar.econ.keio.ac.jp/mishima_seminar/

9. 連絡先

外ゼミ代表 池上太悟

ikegami.daigo@keio.jp

入ゼミ担当 後藤佑友

gt0.yuyu@gmail.com

制度・政策

金子勝研究会

寺井公子研究会

土居丈朗研究会

藤田康範研究会

山田篤裕研究会

金子勝研究会

— 財政、金融を中心とする経済政策 —

1. 研究分野

もともと財政学・地方財政論の研究から出発して、関連分野をあれこれやってきました。方法的には、歴史や制度を踏まえた政策研究という立場をとっています。

ここ10数年、私は、日本のバブル崩壊後の不良債権処理の失敗や格差問題を「セーフティネット」という概念を作り直しつつ分析してきました。また「反グローバリズム」の立場で、2008年9月のリーマンショックを契機にした世界金融危機を問題にしてきました。さらに2011年3月11日に東日本大震災と福島原発事故が起き、現在は、復興に際して、脱原発と再生可能エネルギーを軸に地域分散型ネットワークのシステムを構想しています。

しかし、それまでは、主に次の3つの領域を対象としてきました。第1は、欧米諸国、アジア、日本などを対象にした比較財政論、財政史研究です。第2は、それに関連して、社会保障・福祉、地方分権や地域経済の問題などについても、具体的な政策提言を含めて研究をしています。第3は、新たな制度派経済学の方法論として、ゲノム研究者と共同で「逆システム学」や「日本病」という非線形科学の方法論についての考察です。現在は非線形的変化と予測という問題に取り組んでいます。

ゼミ生のホームページを見ていただければ分かりますが、私はたくさんの本を書いています。近著は、『日本病：長期衰退のダイナミズム』

(岩波新書)『資本主義の克服：「共有論」で社会を変える』、『儲かる農業論：エネルギー兼業農家のすすめ』(集英社新書)です。他にも、世界金融危機を対象とした『閉塞経済 金融資本主義のゆくえ』(ちくま新書)や『新・反グローバリズム』、『世界金融危機』(岩波書店)、など新産業の問題、あるいは『負けない人たち』(自由国民社)や『食から立て直す旅』(岩波書店)などの地域経済や地方財政のフィールドワークまで、いろいろやっています。

実際に、具体的な対象はグローバリズム、財政赤字、金融問題、エネルギー政策、地方経済と地域経済、企業組織、農業問題、社会保障と社会福祉、社会哲学、インド、中国、韓国の現状分析などにわたっています。つまり、いろいろな分野を薄く広くカバーしていますが、残念ながら、全体の体系化がうまくいっておらず、まだ多少時間がかかるといったところでしょうか。自戒を込めて言えば、そろそろ方向転換を図らないといけません。

2. 学生への要望

ゼミの運営方法としては、まず年間でテーマを研究会参加者で話し合い、そのテーマについて基本的な文献を決めます。それを輪読した上、自分たちでディスカッションする形式をとります。そこで、問題の発見能力や討論の能力を磨きます。つぎに自分たちでテーマを決めて自分たちで調べて報告をし、議論をします。自分で一つの論理を作ることの難しさを経験します。そして三田祭にゼミで一つのまとまった報告書を作る共同作業を学びます。異なる意見をどうすり寄せていくのか、これも大変な作業で

す。最後に、他大学のゼミと共同討論会をします。自分たちの能力がいかに高まったかを他流試合で確認することになります。

一年間、自転車の乗り方を教えても自転車に乗れるようにはなりません。何より自主的に取り組む姿勢が大事です。知的好奇心が強く、意欲のある学生を望みます。

ゼミで扱う文献・参考書は参加者との話し合いで決めます。一応、担当教員がどのような考え方をしているのか知るために、私の拙い本のどれかを読んできてくれることを希望します。相性が悪い教員と付き合うのは苦痛です。学生を大人の扱いをし、教師が強制することはなく、ゼミの運営はあくまでも学生の自主性に基づいており、楽しく活発です。

なお、応用系の分野ですが、経済学の理論的な基礎をしっかり勉強していることを望みます。同時に、人と違う見方をしたり、批判的に物事を分析したり、物事を論理的に組み立てる能力を高めたいと思う学生に参加してほしいと思っています。

3. 選考について

①募集人員：募集人数は、だいたい12～13名を基本にしております。それ以上だと、行き届いた指導ができなくなりますので。

②選考内容・選考基準：試験を実施します。ここではマクロ経済と現実の経済問題について答えを求めます。一回の試験で能力がわかるとは思えませんが、一応、論理的思考力を試す目的です。

③面接も実施します。その参考とするために、

事前に、志望動機と問題意識を（少なくともレポート用紙3枚以上）書いてきてください。

④今年は最後なので1年間だけになります。その点を了解のうえ応募してください。

4. ゼミ員構成

3年生 13名(男12名、女1名)(留学中0名)

4年生 13名(男11名、女2名)(留学中0名)

5. 活動内容

1 本ゼミ（月曜4・5限）

前期：

ゼミ生が独自に選択したテーマに基づき、毎週ディベートを行う。ディベートでは擁護・批判（2班）の3班に分かれ、週ごとに立場を変えつつ行う。あらゆるテーマを様々な立場から議論することで、より深い理解と多様な考え方、論理的思考力の獲得を目標としている。

後期：

夏休みを通して構想したテーマに基づき、ゼミ生全員で1本の三田祭論文を執筆する。執筆の過程で、各自が全体のことを考えつつリーダーシップを発揮し、協力する力を養う

2 サブゼミ（木曜4・5限）

3年生だけで集まり、本ゼミに向けた準備をする。毎週自主的に、本ゼミまでにすべきことを決める。

3 パートゼミ

必要に応じて適宜行う。

4 インゼミ

慶応義塾大学 井手英策研究会

京都大学 諸富徹研究会

5 課外活動

山形県高島町にて1泊2日の農業体験

6 三田祭

例年、論文を発表

7 合宿

春合宿：

1泊2日で春日に宿泊し親睦を深める。

夏合宿：

2泊3日にわたり箱根に宿泊。3年生は三田祭論文の中間発表を行い、金子先生と4年生からアドバイスをいただく。

8 夏休み

三田祭論文に向けた準備を進める。

9 授業

なし

10 経費

春合宿：1万円

夏合宿：2万円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

金子先生の著作を中心に、財政・社会保障・エネルギー・社会問題のぶんたについての本。

知識を身につけつつ、問題意識を持って読む

ことが必要。

7. 先生が担当している講義
産業社会学（三田、月曜日 2,3限）

8. ゼミ HP

ゼミ HP: <http://www.ka-cat.com>

入ゼミ Twitter: @2017kaneko

9. 連絡先

・外ゼミ代表 杉山卓人

連絡先 89sugitaku.vol@gmail.com

・内ゼミ代表 本田

連絡先 tack.astor@gmail.com

・入ゼミ担当

城根荘太

連絡先

whatever_willbewillbe16@ezweb.ne.jp

岡村衣里子

連絡先 eri07316212@gmail.com

寺井公子研究会

—公共経済学・財政学・政治経済学—

1. 研究分野

公共経済学は、公共部門（政府）の経済活動を分析対象とする学問分野です。市場メカニズムだけでは解決できない問題—たとえば、非効率な政府支出、経済主体間の情報の非対称性、機会や結果の不平等—について、政府がどのような対応をするのが望ましいかを考えます。

実際、私たちの国の政府は、個人所得・消費、あるいは法人所得への課税、公共事業によるインフラの整備、退職年金、健康保険などの社会保険の供給、生活保護制度による国民の生活水準の保障、規制など、様々な手段を使って、経済政策を行っています。政府による政策は個人、企業の意思決定に影響を及ぼしますし、所得や資産の分配を左右します。現行の制度や政策がどのような役割を担っており、どのような効果を生み出しているか、何が問題か、を考察することは、とても重要なことだと考えます。これらのことを考えたうえで、人々を経済的により幸せにするような政策のありか—たとえば、中央集権と地方分権のどちらが望ましいのか、現物給付と現金給付ではどちらが効果的か、政府が直接規制をするのがいいのか、あるいは規制に代わる方法があるのか、増税すべきか、あるいは国債発行で財源調達をしたほうがよいのか—を探求するのも、公共経済学に期待される役割です。

一方、政治経済学は、政治的要因が政策の選択・実行に、どのような影響を与えているのかに注目します。特に、選挙、議会、予算編成などの政治制度が、政治家、官僚、有権者の行動にどのような影響を与えるかについて、経済学の分析手法（たとえば、ゲーム理論など）を用いて考察します。望ましい政府、政策のあり方を知るとともに、その実現を妨げている要因について考えることも、同様に重要なことだと考えます。

私自身は、地域間の利害対立を解決できる制度設計、予算制度が予算規模にどのように影響するのか、日本の財政再建を進めるためにはどのような制度改革が必要か、に特に興味を持って、ゲーム理論を応用しながら、研究を進めています。

2. 学生への要望

研究分野の性格から、理論と現実の双方に関心を持っていることが非常に重要だと考えています。現実の経済で起こっている様々な問題の本質的な原因は何かを、つねに考える姿勢が重要だと思いますし、一方で、現実の部分、部分を観察しているだけでは、経済の大きな流れや、望ましい経済のあり方を見失うこともあります。このような考えに立って、基本的理論の学習・理解と、データを読み、扱えることの双方にウエイトをおいて、研究会の活動を進めていきます。

特に、ミクロ経済学と統計の基礎的知識を習得していることを前提とします。経済政策について豊富な知識を持っている必要はありませんが、関心と学ぶ意欲を持ち、意欲を持続できる人、根気強く文献を読み、自分で考えることのできる人、またゼミは集団で学習する場ですので、積極的に活動に参加することで他のメンバーに良い刺激を与えることのできる人の応募を期待しています。

3. 選考について

①募集人員：15名程度

② 選考内容：

(a)小論文

テーマ：「書籍、論文、あるいは新聞記事から、我が国の公共政策に関して書かれた論述文の一つを取り上げ、それについて議論しなさい」

字数：3000～4000字

○取り上げた論述文の出典（タイトル、著者名、発行年月（日）等）を明記すること

(b) 面接

(c) 1・2年次の成績

③ 選考基準：選考方法のそれぞれについて、特に次の点を重視します

(a)：文章力、議論が具体的か、文献をよく読み、深く考察しているか

(b)：関心、意欲

(c)：参考程度（ミクロ・マクロ・統計）

4. ゼミ員構成

3年生 17名(男 11名、女 6名)(留学中 0名)

4年生 18名(男 13名、女 5名)(留学中 0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (水曜 4・5 限)

今年度の春学期は『効率と公平を問う』(日本評論社)、『実証分析のための計量経済学』(中央経済社)、『経済財政白書』(内閣府編)、その他公共政策に関する論文の輪読、三田祭論文のテーマ発表を行いました。

秋学期は、教科書、論文の輪読や、三田祭論文の中間発表、卒業論文の中間発表などを行う予定です。

② サブゼミ (月曜 4 限)

基本的に三年生のみで行います。

春学期はデータ分析に必須のツールとして統計ソフト Stata の操作方法を習得しました。

秋学期は三田祭での論文の発表・展示に向け、班ごとに論文執筆に取り組みます。今年は地域活性班、教育班、財政再建班、震災班に分かれて論文を執筆します。

③ パートゼミ

三年生は6月下旬から各自の興味に応じていくつかの班に分かれ、三田祭論文執筆のため、自主的に班ごとに行います。

④ インゼミ

現在のところインゼミを行う予定はありません。(昨年度は河端瑞貴研究会とインゼミを行いました)

⑤ 課外活動

経済学部ゼミナール委員会主催のソフトボール大会に参加します。ISFJに参加する班もあります。

⑥ 三田祭

班ごとに完成させた論文を展示・発表します。

⑦ 夏休み

11月の三田祭に向け、論文の班ごとにパートゼミを行い、論文執筆のための調査・研究・分析を進めます。なお、積極的にサークルやインターンに取り組むゼミ生も多く、これらとの両立は十分に可能です。

⑧ 合宿

那須塩原にて二泊三日で行います。主

に三田祭論文・卒業論文の中間発表を行います。

⑨ 授業

普段のゼミや論文執筆の上で必要な知識を得るため、ゼミで履修を推奨する授業があります。(公共政策、計量経済学など)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

各自が入ゼミ小論文で取り上げるテーマに応じ、適宜お読みください。

7. 先生が担当している講義

公共政策 a/b(三田、水曜日 3 限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/teraiseminar/>

ブログ

<http://ameblo.jp/teraizemi/>

Twitter

@teraizemi2016

9. 連絡先

外ゼミ代表 張田谷魁人

haritayakaito@gmail.com

内ゼミ代表 小島あゆみ

k.ayumi0702@gmail.com

入ゼミ担当 関谷晴也

hattakinoishi@gmail.com



土居丈朗研究会

— 財政学・公共経済学・政治経済学 —

● 研究分野

財政学、公共経済学、政治経済学

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に税制改革、社会保障政策、地方分権改革、公共投資政策、国債管理政策などを対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。経済理論を用いた分析はもちろん、税財政制度など経済政策にまつわる諸制度の理解や政治情勢にまつわる知識を深めた上での考察も重視しています。

春学期では、教科書や論文などを用いて経済政策を分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な経済政策課題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、三田祭で発表する論文（三田祭論文）をグループで作成することを予定しています。これまでに、ゼミ員が三田祭で研究発表した論文の具体的なテーマには、税制（所得税、法人税、消費税）のあり方、社会保障問題（医療、介護、年金、保育）、地方財政の諸課題、財政健全化を実現する具体策、財政政策への政治が及ぼす影響の分析などがあります。

本ゼミでは、春学期には数人のゼミ員に事前に与えられた課題について発表してもらい、それに基づいて皆で議論をしながら進めます。経済分析に不慣れな3年生のために、4年生がサポートしつつ、分析方法などを必要に応じて指導します。夏休みから秋学期にかけては、三田祭論文を執筆し、その進捗報告・指導を行うとともに、他大学とのインゼミなどの準備を行います。4年生時には、各自で執筆する卒業論文の発表・指導も行います。必要に応じて、経済理論とデータを扱った計量経済学的分析について、自力でできるノウハウを習得できるよう実習を行います。

また、サブゼミでは、3年生を中心としたゼミ員が自発的に集まって、教科書として、土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社 井堀利宏・土居丈朗『財政読本』東洋経済新報社

などを講読する予定にしています。

● 学生への要望

最近のわが国では、税制改革、地方分権改革、そして社会保障（年金、医療、介護等）、

公共投資、国債管理など財政金融にまつわる諸政策において、経済学的に専門性が高い政策課題に直面しています。こうした政策課題は、高度に政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきています。

ゼミでは、特に、様々な経済政策について、経済効果だけでなく、政治の影響（選挙制度、官僚制度、政党内の政策決定過程等）も考慮した「政治経済学」の理解を深めることを狙いとします。そのため、現実の財政金融政策や政策決定の政治過程などに高い関心を持っている学生の参加を望みます。それとともに、近代経済学の考え方を愛し、高度な理論や手法をゼミや文献などを通じてもっと身につけたいという向学心のある学生を歓迎します。

また、ISFJ(日本政策学生会議)や公共選択学会学生が集い等への参加、懸賞論文への応募、他学部や他大学のゼミとの交流(インゼミ)、ゼミ対抗ソフトボール大会など、対外的なゼミ活動に関心のある学生も歓迎します。

● 選考について

➤ 募集人数

A・B 両日程合わせて 15 名前後（過去の募集では毎年、A 日程のみで定員に達したため B 日程は実施せず）

➤ 選考内容

筆記試験（60 分；マクロ・ミクロ・英語（英文和訳のみ）、全て持ち込み不可）と面接。筆記試験時に成績表提出。

➤ 選考基準

筆記試験の得点・成績表と面接時に感じられた本人の意欲等で判断します。筆記試験か日吉での成績のどちらかで、マクロ・ミクロともに B 相当以上の成績が求められます。英語は少なくとも「足切り点」を超える必要があります。

➤ 他学部からの志願

経済学部以外の学生も採用する可能性はあります。(2003、2004、2006、2008、2009、2011、2013、2014、2016 年度で各 1 名採用)

● 連絡先

担当者本人へは、
電子メール：tdoi@econ.keio.ac.jp
ウェブサイト：

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tdoi/>
略歴、研究活動、参考文献等は、上記 URL で情報を公開中

入ゼミに関する情報は、今後
<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tdoi/seminar.html> にて随時更新する予定

4. ゼミ員構成

3年生 21名(男11名、女10名)(うち商学部1名、留学中1名)

4年生 22名(男15名、女7名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜4・5限)

(春学期)

3年生は各自の興味あるテーマに関する文献を先生に紹介していただき、内容をレジュメやパワーポイントにまとめて発表します。4年生は卒業論文の中間発表を行います。

(秋学期)

3年生は三田祭論文や ISFJ 日本政策学生会議といった論文コンテストに向けたグループでの論文執筆活動を行います(例年、ISFJ 論文と三田祭論文は同じものです)。4年生は卒業論文の執筆活動に関して進捗報告を行い、先生からアドバイスをいただきます。

② サブゼミ (木曜4・5限)

3年生が主体となって、春学期は『入門公共経済学』(土居丈朗著、日本評論社)の輪読と時事問題等を題材としたディスカッションを行い、論文執筆に向けた基礎知識と思考力を鍛えていきます。秋学期はパート毎の論文執筆活動が中心となります。

③ パートゼミ

三田祭論文・ISFJ 日本政策学生会議に向け、5人程度のグループに分かれて論文執筆を進めます。夏休みや秋学期を中心的に自主的に行っています。今年度は財政・税制・地方・医療の4パートが結成されました。

④ インゼミ

これまで、本研究会はSFCの竹中平蔵研究会や東京大学の伊藤元重研究会とインゼミを行ってきました。今年度は9月にSFCの中室牧子研究会とインゼミを行いました。

⑤ 課外活動

ISFJ 日本政策学生会議で政策に関する論文を発表しています。また、希望があればその他の論文コンテストに参加することもできます。ソフトボール大会にも参加しており、今年度は、経ゼミ大会で準優勝、全塾杯で3位、と大健闘しました。

⑥ 三田祭

三田祭では、各パートによる論文の発表を行い、ブースでは論文内容のパネル展示を行います。また、毎年、模擬店の出店も行っており、今年も出店いたしますので是非お越しください。

⑦ 夏休み

パート毎に ISFJ 論文コンテストに向けた論文執筆活動を行い、ゼミ全体の活動としては、夏合宿があります。

⑧ 合宿

合宿は例年、5月頃に新歓合宿、9月頃に夏合宿を行います。今年度の新歓合宿は1泊2日で山梨県河口湖に、夏合宿は2泊3日で千葉県白子に行きました。

⑨ 授業

ゼミの必修授業はありませんが、土居先生の担当講義(下記7.参照)は多くのゼミ生が履修しています。

⑩ 経費

ゼミ費用として年間1000円に加えて合宿費(25000円前後・年2回)がかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『公務員試験新スーパー過去問ゼミ(マクロ経済学・ミクロ経済学)』を使用していた人が多いようです。出題分野はゼミHPに過去の試験問題が掲載されているので参考にしてください。

7. 先生が担当している講義

財政論 a・b (三田、木曜1限)

企業金融論 a・b (三田、火曜3限)

8. ゼミ HP

<http://doinyusemi.wix.com/doisemi>

(Twitter : @doi_nyusemi)

9. 連絡先

外ゼミ代表 湯山 朝子

連絡先: asakomoasna.yuyama@gmail.com

内ゼミ代表 高島 雄貴

連絡先: yuki.takashima@z8.keio.jp

入ゼミ担当 脇谷 康亮

連絡先: doi.nyusemi2016@gmail.com



藤田康範研究会

—経済政策・応用経済理論—

1. 研究分野

本研究会は経済政策・応用経済理論を研究分野とし、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うこと、経済理論の活用方法を身につけて専門論文を執筆できるようになること、そしてその上で、感動を設計できるようになることを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』、「ハーバード・ビジネス・レビュー」等を楽しめるようになることがおおよその目安です。

「コトづくり・ココロづくり」やプロモーション方法など、「感動の設計」に関する具体的課題を企業の方々からいただいてその解決案を提示させていただき、評価していただく機会を多く用意しています。

学生一人ひとりが新たな才能を発掘して相互に良い刺激を与え合い、「自他共栄」の中で大学生活の後半を充実させ、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと思います。

(具体的な課題解決のために経済理論がどのように役立つかについて関心のある方は、藤田康範『経済戦略のためのモデル分析入門』(慶應義塾大学出版会)(特に序章と第1章)をご覧ください。)

2. 学生への要望

本研究会は、「独立自尊」の個人によるグループワークを基本としています。各班が担当個所の報告を行い、その上で質疑応答を行なってお互いに高めあうことを目指していますので、建設的な意見交換を行うことに慣れておいて下さい。学生一人ひとりがそれぞれの背景を大事にし、互いに異なり互いに尊重できる存在であり続けていただきたいと思います。

プレゼンテーションにおいて最善を尽くすのみならず、プレゼンテーションをしていない時でも適切に振舞えることが理想です。

必要なことがらは責任を持って教え、無理なく丁寧に進行するように努めていますので、特に独自に学習を行う必要はありません。慶應義塾大学経済学部の2年生として誠実に生活し、交友関係を築いていただければ十分です。

3. 選考について

①募集人数

昨年度までと同様にA日程で約15人を募集

しますが、真剣に希望する人にはできる限り入会していただきたいので、応募人数が多い場合には、これまで通り募集人数を増やす予定です。(これまで、ゼミ員数が増えても、少人数を望んで受験された方々が失望しないように、最大限の努力をしています。)

②入ゼミ選考方法

(1) 事前レポート

現実経済や経済学、ものの考え方等に関するレポートです。昨年度と同様の内容であり、複数の課題資料の中から一つを選択し、その課題資料を契機として考えたこと感じたことをA4用紙2枚にまとめていただく予定です。数理的な分析を行う必要はありませんが、論理的な文章構成を心がけて下さい。内容は12月中旬頃に告知します。提出期限は入ゼミ試験日直前の予定です。

(2) 論述試験

応募される方々の力が最も発揮されるよう、「日本の経済」・「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」・「経営学」の中から1科目を選択して解答していただきます。(科目の選択は試験当日、試験問題を見てからで結構です。また、「ミクロ経済学」については、負担にならないよう、秋学期の学習内容を試験範囲としています。)1時間程度の試験時間、B4用紙1枚程度の解答量を予定しています。それぞれに関しては、本および範囲を明確に定め、12月中旬頃に告知します。

(3) 面接

担当者(=藤田康範)による5~10分程度の個人面接です。夢を抱いていてその実現のために本研究会が役立つ方々の入会を希望しますので、自分自身を適切にPRできるよう考えておいて下さい。

③選考基準

様々な背景を持つ人たちが交わって知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えていますので、明るくて前向きである人、新しいことがらを驚きと喜びをもって受け入れられる人、意見の共有を好む人の入会を希望します。

連絡先

電子メール：yfujita@econ.keio.ac.jp
住所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
慶應義塾大学経済学部 藤田康範

4. ゼミ員構成

3年生 26名(男7名、女19名)(留学中3名)
4年生 35名(男11名、女24名)(留学中2名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜4・5限)
月に1つ程度先生や外部の企業の方から与えられる課題について、5~6人のグループで取り組みます。課題の内容は経営戦略を考えるものが多く、現実存在する問題を題材とした実践的訓練となります。課題の発表形式はプレゼンテーションから動画まで、様々です。先生、ご協力いただいた企業の方、ゼミ生に向けての発表を経験することになりますが、社会に出たら必要不可欠であるプレゼンテーション能力が驚くほど身に付きます。経済学そのものに関する授業が行われることはありませんが、課題を解決する上で必要な経済学、経営学の知識や考え方は、必要に応じて先生にご享受いただきます。
- ② サブゼミ
本年度は実施しておりませんが、課題解決・発表準備のために、必要に応じてゼミ生が空き時間に自主的に集まり活動を行うことが多々ありました。
- ③ パートゼミ
特にパートに分けるシステムはありませんが、三田論など、それぞれの得意分野でパートごとに分かれて準備を進めることもあります。
- ④ インゼミ
今年度も東京大学大学院工学系研究科松尾研究室とともに活動をさせていただき予定です。
- ⑤ 課外活動
慶早戦の応援や動画撮影に関わらせていただいた我孫子市の訪問、先生とご交流のある外部の企業の方々との交流会など、ゼミの時間外にも多岐にわたる活動を行っています。
- ⑥ 三田祭
論文発表の予定です。
- ⑦ 合宿
5月には親睦を深めるための新歓合宿を、9月には「強化合宿」を行いました。
- ⑧ 夏休み
休み末の合宿の準備を各々でしたり、就活が終わった先輩方に様々なお話を伺ったりしました。

- ⑨ 授業
ゼミ生必修授業として、三田開講、月曜日2限の経済政策のミクロ分析を履修していただきます。
- ⑩ 経費
合宿やゼミTシャツ、毎月開催する誕生日会の費用等はその都度必要ですが、その他かかる経費は特にありません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『ゼミナール日本経済入門第25版』日本経済新聞社
『演習ミクロ経済学』新世社
『スタディガイド入門マクロ経済学(第5版)』日本評論社
『経済戦略のためのモデル分析入門』慶應義塾大学出版会
2016年度はこの4冊の中から得意なもの一つという方式でした。

7. 先生が担当している講義

自由研究セミナー (日吉、月曜日5限)
経済政策のミクロ分析 (三田、月曜日2限)
金融資産市場論 (三田、木曜日3限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yfujita/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 鈴木 麻理奈
smarina1909@gmail.com
入ゼミ担当 志村 七海
sea0508_baseball.773@docomo.ne.jp
入ゼミ担当 茅原 梨奈
c.s.r-luv_919@docomo.ne.jp
入ゼミ担当 豊田 瑛都
hello.eito@gmail.com



山田篤裕研究会

—社会政策（年金・医療・介護・労災・雇用保険、公的扶助、社会福祉、雇用政策）—

1. 研究分野

さまざまな社会問題を取り除き、人々の生活をより善くすること。それが社会政策です。「社会が生み出す病(やまい)にたいする処方箋」と言い換えられるかもしれません。処方箋を出すには、根拠に基づき、診断する必要があります。小ゼミでは、より善き人々の暮らしを目指し、エビデンスに基づき、社会政策を実証研究します。

超高齢化にもかかわらず、日本の社会保障給付費（年金・医療・介護等）はかなり抑制され、そのひずみが生々々の生活不安として表れています。財政的に社会保障費を一律抑制する単純な発想では、社会問題を解決できません。とくに先進國中、日本は就業率が高いにもかかわらず貧困率は高く、育児・介護による離職は多く、長時間労働や正規・非正規間の賃金格差、所得格差のみならず健康格差の存在、社会的排除等、解決すべき社会問題は山積しています。

社会政策（Box 参照）の体系全体のバランスを考えつつ、各政策が人々の生活・社会問題にどう影響しているか実証し、財政との整合性も勘案しつつ、解決策を模索する必要があります。

小ゼミでは、各自の関心に応じ個別研究テーマを設定し、より善き人々の暮らしのため、社会政策にできることは何か、一緒に追究します。

なお担当教員の研究分野は貧困・格差、最低所得保障、高齢者雇用等が主ですが詳細は CiNii、KOSMOS などで検索した論文・著作を参照してください。

BOX：「社会政策」とは

社会政策は大きく、社会保障・福祉政策と雇用政策の2つに分けられます。

雇用政策には、最低水準の賃金を定めた最低賃金法、長時間労働等を禁じた労働基準法、就職・仕事内容の男女差別を禁じた男女雇用機会均等法、公共職業訓練や公共職業安定所などがあります。

社会保障・福祉政策には、高齢期や稼働者死亡時の家族の所得保障（老齢・遺族年金）、失業時や育児・介護休業時の所得保障やサービス（雇用保険、介護保険、保育サービス）、最低生活水準に満たない場合の所得保障（生活保護）、傷病時の医療サービスや所得保障（医療保険）、障害を負った場合の所得保障やサービス（障害年金、障害者サービス、労災保険）などがあります。

2. 学生への要望

社会問題に何となく関心ある学生から、社会政

策の知識を将来のキャリアに活かしたい学生（研究者、公務員、ジャーナリストなど）まで広く歓迎します。

小ゼミに入るため必要なのは、①社会問題への強い関心、②地道な作業（文献・データ収集・分析など）のための根気のみです。専門的分析手法や社会政策の知識は入ゼミ後、一から学べるよう、手ほどきします。

ゼミ活動を通じ、根拠に基づき、より善き人々の暮らしのため「新しい知見」を提示することが小ゼミでの最終目標です。研究の9割は文献・データの収集・分析という、労働集約的で地道な作業ですが、そうした過程を経ることで「新しい知見」に出会う学問的喜びもあります。

また社会政策は、我々の生活に網の目のように張り巡らされており、知らないうちにさまざまな恩恵を受けています。この社会政策を小ゼミでより深く理解することで、一有権者としても将来、より善き政策を判断・選択できるよう（あるいはその判断材料を提供できるよう）になってほしいと願っています。

表面的な情報（倍率等）に惑わされることなく、自分の関心に合ったゼミを選択してください。熱意ある学生に出会えることを楽しみにしています。

3. 選考について

- ① 募集人数：A日程のみ20名。
- ② 選考内容：(a) 事前提出レポート（6000字程度）、(b) 課題文献に基づく簡単な記述式筆記試験（30分程度）、(c) 教員面接（レポート内容、ゼミでの研究テーマに関する質疑応答）、(d) 成績表。※ 学生面接なし。詳細は1月下旬発表。
- ③ 選考基準：(a)～(d)に基づく総合判断。レポートは、課題図書以外に、できるかぎり多くの関連文献（専門書籍・論文）を読み込み、引用・参照すると、高評価になります。

また専門科目・語学に関する入ゼミ筆記試験の代替として成績表提出を求めますが、何よりも社会問題への関心の強さ、自分の考え、「こだわり」を重視しており、そうした点はレポートを基に判断しますので、とにかくレポートに力を入れて下さい。

4. ゼミ員構成

3年生 19名(男10名、女9名)
4年生 21名(男17名、女4名)
※含留学中1名

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜 4・5 限)
今年の本ゼミでは、『社会政策』駒村康平・山田篤裕ら(著)・『21世紀の不平等』アンソニー・B・アトキンソン(著)・『不平等の再検討：潜在能力と自由』アマルティア・セン(著)・『これからの「正義」の話をしよう』M.サンデル(著)の4冊(予定)に関して、毎週担当グループがレジュメ形式で要点を報告しています。
秋学期については例年3年生・4年生の研究報告とそれに対する指導が中心に行われます。
- ② サブゼミ (火曜 4・5 限)
パートゼミ毎に分かれ、自分達で設定した研究テーマに基づき、研究活動に取り組んでいます。
- ③ パートゼミ
研究テーマごとに、少人数での研究班(パートゼミ)を構成し、論文作成を行います。三田祭論文や ISFJ 日本政策学生会議(他大学合同の論文コンテスト)で高評価が得られることを目指し、研究班ごとに取り組んでいます。
今年のテーマは、介護、医療、労働、災害、住宅の5テーマです。なおパートゼミの研究テーマは、ゼミ員各自の関心ごとに沿って自ら設定しているので毎年異なります。
- ④ インゼミ
ありませんが ISFJ 日本政策学生会議への参加を通じ、他大学・他ゼミとの交流があります。
- ⑤ 課外活動
パートゼミ活動の一環として、ISFJ 日本政策学生会議へ参加しています。昨年度も複数の論文が受賞しています。
- ⑥ 三田祭
ブースにてポスターセッション形式での論文発表を行います。また別途、

口頭でのプレゼンを行います。

- ⑦ 合宿
今年度も有志参加の1泊2日の新歓合宿で親睦を深め、全員参加の2泊3日の夏合宿では、主に卒業論文、各パートの共同研究の中間報告と質疑応答、指導が行われました。
- ⑧ 夏休み
研究班毎に集まり論文作成を随時進行します。8月中に大まかに論文を完成させ、今年は9月上旬の夏合宿で中間報告を行いました。
- ⑨ 授業
ゼミ必修科目である「演習」、「社会政策論」、「社会福祉論」、「医療経済学」、「生活保障の再構築」を履修し、社会政策研究や分析を行う上で必要な知識・分析手法を学びます。
- ⑩ 経費
輪読書購入の他、合宿費、ISFJ 参加費、経ゼミ費等が適時必要になります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

濱口桂一郎編【2013】『福祉と労働・雇用』ミネルヴァ書房
椋野美智子・田中耕太郎【2015】『初めての社会保障(第12版)』有斐閣
山田篤裕他編【2014】『最低生活保障と社会扶助基準』明石書店

7. 先生が担当している講義

演習 a,b(三田、春、火曜 1,2 限)
社会政策論 a,b(三田、火曜 3 限)
生活保障の再構築(三田、秋、水曜 2 限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamadasemi/>
Twitter @yamadaseminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 堀口 翔太
内ゼミ代表 梶山 奈緒美、田中 真帆
入ゼミ担当 中川 りさ子
(共通アドレス)

yamada.seminar2017@gmail.com



理論經濟

石橋孝次研究会

大西広研究会

尾崎裕之研究会

坂井豊貴研究会

塩澤修平研究会

須田伸一研究会

玉田康成研究会

中村慎助研究会

藤原一平研究会

穂刈享研究会

石橋孝次研究会

—ミクロ経済学・産業組織—

1. 研究分野

本研究会ではミクロ経済学を軸として、企業と市場の経済学である産業組織の研究を行う。

市場メカニズムの機能は厚生経済学の第1基本定理に集約されるが、同時に限界もあることはよく知られている。現実の経済は純粋な完全競争市場ではなく、何の施策もなければ機能不全に陥るのが常である。経済が健全に機能するには、政府が適切に介入を行うことも必要だし、組織や制度による資源配分が市場を補完することも必要である。私の主な関心は、現実の多くの企業は少なからず市場支配力をもつこと、また現実の経済活動はほぼ例外なく不完全もしくは非対称な情報の下で行われることを念頭において、市場メカニズムの限界と是正策を明らかにすることにある。この目的のためには、他の経済学の分野と同様、理論分析と実証分析の両方が必要になる。理論は経済問題を理解し解決策を探るためにあるという意味で、現実の経済問題との接点を見失った理論は健全ではないし、他方理論を軽視した実証分析も同様に健全ではないと考えている。

産業組織 (Industrial Organization)とは、不完全競争市場での企業行動の分析や需要の分析を通じて社会的に望ましい競争政策のあり方を考察する学問である。それと同時に、ビジネススクールなどに設置されている経営戦略論の基礎となっている学問でもある。より具体的に言えば、独占企業や寡占企業の価格戦略・品質や広告などの製品差別化行動・イノベーションと技術革新・企業の合併や統合・参入阻止などの問題について、ミクロ経済学に基づいた分析を行う分野である。また産業組織で主役となる主体は企業であり、企業の経営・組織・財務を考察する広い意味での企業理論は産業組織と密接に関わっている。本研究会では、ミクロ経済学と計量経済学を分析用具としながら、企業理論を含んだ産業組織の理論・実証研究を行う。

本ゼミ活動では、第1に分析ツールとしてゲーム理論・契約理論・行動経済学を学び、第2にゼミの研究分野である産業組織に関する文献を学習する。そして第3に、

3年生と4年生がそれぞれ個別の研究テーマに関する発表を行う。英語は重要な言語であり社会に出てからも絶対に必要なので、教材としては英語文献を扱うことが多い。春学期はテキストによる基礎的学習にウェイトをおき、秋学期には研究書や専門的な学術論文を用いる。またプレゼンテーションのスキルの養成はゼミ活動の重要な目的の1つであり、通常の授業は学生によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

本ゼミでは理論分析を主とするが、実証分析に必要な計量経済学を学ぶためにサブゼミを設置する。またゼミ活動を円滑に遂行する上で必要な基礎知識の補充を行うため、私が担当する三田の授業の他にいくつかの授業を履修することを求める。その他に3年生は、パートゼミで個別研究および共同研究を行う。4年生には相応の覚悟で卒業論文の作成に臨んでもらう。これは研究会活動の最終目的であり、学生生活において自らを鍛錬する最後の機会である。本研究会の卒業論文では、産業組織またはそれに関連する分野から具体的な問題を取り上げて理論分析および実証分析を行うことが求められる。卒業論文に取り組むためには分析能力を習得することだけでなく、普段のゼミ活動を通じて適切な問題意識を養っておくことが必要である。

2. 学生への要望

本研究会の趣旨を理解し、三田で充実した学生生活を送ることを望む諸君の入会を期待している。日吉ではミクロ経済学・マクロ経済学・数学・統計学・英語をできるだけ十分に学習しておいてもらいたい。これは三田の授業やゼミでの学習にとって必要であるだけでなく、社会に出てからも非常に有用な知識になるからである。

3. 選考について

- ①募集人員：15名程度
- ②選考内容：筆記試験および面接
- ③選考基準：筆記試験(90%程度)・面接(10%程度)。試験の出題範囲はミクロ経済学全般の内容とし、持込不可とする。日吉での成績は問わない。

4. ゼミ員構成

3年生 名(男7名、女4名)(留学中0名)
4年生 名(男11名、女1名)(留学中1名)

活動内容

- ① 本ゼミ (月曜4,5限)
産業組織論の理論研究と実証研究の両面から学習を進めていきます。学期の始めに割り振られた担当箇所について担当者がpower pointを用いてプレゼンを行います。

(春学期)
教授に指定された日本語、英語のテキストを用いて産業組織論について、もしくはその周辺知識を学んでいます。

(秋学期)
3年生は春学期で学んだことを生かして産業組織論の英語論文をプレゼンします。4年生は卒論の中間発表を行います。
- ② サブゼミ (春学期 木曜5限)
産業組織論の実証分析を行う際に必要不可欠な、計量分析の理論や方法を学んでいきます。
毎週木曜日にパソコン室を利用して3年生は計量経済学の理論についてpower pointによるプレゼンを行い、4年生は計量ソフトSTATAの演習問題を実演、解説します。教授にも参加していただいてアドバイスなどを頂きます。
- ③ パートゼミ
産業組織パート、経営戦略パート、競争政策パートの3つのパートに分かれて三田論に向けて各自で学習を進めていきます。今年は教授に指定された教科書をパート内で発表を行ってから三田論の準備に取り掛かりました。
*パートごとに任意の時間に週1時間
- ④ インゼミ
行っていません。
- ⑤ 課外活動
行っていません。
- ⑥ 三田祭
パートごとに論文を発表します。
- ⑦ 夏休み
9月中旬に合宿があります。それ以外には特にありませんが、合宿も下準備をパートごとに進めていく必要があります。
- ⑧ 合宿
9月中旬に3泊4日の合宿を行います。3年生は三田論の中間発表、4年生は卒論の

中間発表を行います。

- ⑨ 授業
・マイクロ経済学中級Ⅱab(三田 水曜2限)
・産業組織論 ab(三田 水曜3限)
・計量経済学中級 ab(三田 春集中 火曜1,2限)
この3つの授業が必修科目になります。

- ⑩ 経費
ゼミ費 2万円
合宿費 3万5000円

5. ゼミ試験対策で使用した参考書

武隈慎一(1994)演習マイクロ経済学 新世社
奥村正寛(2008)マイクロ経済学 東京大学出版

6. 先生が担当している講義

- ・マイクロ経済学中級Ⅱa(三田 春学期 水曜2限)
- ・産業組織論b(三田 秋学期 水曜3限)
- ・マイクロ経済学初級Ⅱ(日吉 秋学期 木曜1限)

7. ゼミHP

<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/ishibashi/>

8. 連絡先

外ゼミ代表	上野 浩
連絡先	kouyeno@a7.keio.jp
内ゼミ代表	関口 尚輝
連絡先	nase0000ff@gmail.com
入ゼミ担当	足立 春花
連絡先	fssf0404@gmail.com



大西広研究会

—近代経済学を基礎とするマルクス経済学—

1. 研究分野

指導教員は「近代経済学を基礎とするマルクス経済学」を構築するために長らく作業をしてきた。近代経済学はマルクスのアイデアの多くを受け継ぎ発展をしてきたというのがひとつの理由であるが、それと同時に、では何が「マルクス経済学」であるのかも問われなければならない。世界経済危機や原発危機は近代経済学の危機でもあり、社会の在り方と経済学の在り方は根本的に問われている。研究会では、この大きな課題を正面に据え、2年間をともに歩みたい。簡単な課題でなくとも、まずは挑戦することが重要であり、案外ポイントは単純なところにあるかも知れないからである。なお、この目的のために、今年度はゲーム論などを多用した盛山和夫『社会を数理で読み解く』有斐閣を読んでいる。ゼミ生がこれを基礎に様々なアイデアを考えることのできる良い本なので、来年度もこの本を教科書とする可能性は高い。内容的には、格差の問題、権力の問題、互酬性の問題、社会的ジレンマの問題、教育機会の不平等問題、差別の問題、集合的決定が引き起こす問題など多様な内容を含んでいる。

また、この他、担当教員のテキストで展開されている成長モデル関連の研究をしているチャレンジングな学生もいる。このようなスタイルで、各人の研究テーマを開拓してくれることを期待している。

なお、以上のテキストで3,4年生全員で開催

する「本ゼミ」以外に、『資本論』を学年ごとに開催するサブ・ゼミで読んでもらっている。『資本論』は学生時代でしか本物を読めないなので、このようにしている。読み込む中で自分なりの考えを形成してほしい。

最後に、新研究生の中には指導教員の日吉での講義を受講していない君もいると思うので、その場合は、三年生向けに三田で開講する「現代資本主義論」と独学で努力されたい。入ゼミ選考の際にはもちろん差別しない。

2. 学生への要望

慶應の学生諸君に大きな期待を持って京都からやってきた。「就職に役立つ研究会」をやる気はない。それより、真のエリートとは自分のことより社会のこと他人のことに気を配り、それに貢献しようとする人間だと言いたい。世の政治、経済は混乱の極みであり、こんな時こそ真のエリートが求められている。生き方に迫る新しい経済学を学生諸君とともに作り上げたいと考えている。

3. 選考について

- ①募集人数：A・B日程合わせて10名以内。
- ②選考内容：レポートを提出いただき、その上で面接を行う。
- ③選考基準：近代経済学とマルクス経済学のどちらも学びたいとの意欲、ものごとを根本的に考え直してみたいという意欲のある者を歓迎する。

4.ゼミ員構成

3年生 11名(男9名、女2名)(留学中0名)

4年生 11名(男10名、女1名)(留学中0名)

5. 活動内容

①本ゼミ (水曜4・5限)

教科書の輪読。今年度の教科書は盛山和夫編著の『社会を数理で読み解く』。

②サブゼミ (火曜4限)

マルクス『資本論』の輪読。

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

論文発表を行います。

⑦夏休み

合宿を行うなど論文の準備を進めます。

⑧合宿

例年9月中旬に2泊3日の合宿を行います。今年度は伊香保にて行いました。

⑨授業

ゼミ必修授業はありません。

⑩経費

合宿費、教科書代など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書特に指定はありません。

7. 先生が担当している講義

マルクス経済学(日吉、木曜日2限)

現代資本主義論(三田、水曜日2限)

現代日本経済論(三田、火曜日2限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/onishi/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 今井一輝

kazuu5696@gmail.com

入ゼミ担当 秦 雄一

yuuiqin0810@gmail.com

入ゼミ担当 萩原貴利

taka0815@keio.jp

尾崎裕之研究会

— 公理的・統計的意思決定論 —

1. 研究分野

不確実性には2種類あり、確率が分かっているものを「リスク」と呼び、分かっていないものを「真の不確実性」とか、「ナイトの不確実性」と呼びます。ある人が真の不確実性に直面していると仮定します。このとき、「彼女の行動が一定のパターンに従っていることが観察できるのであるならば、彼女は何が起こるかについての確率を、あたかも知っているかのように行動していると考えてよい」という有名な結果があります。ここに出てくる「パターン」のことを、「人々の行動に関する公理」(behavioral axiom)といいます。このような、公理を研究することによって人々の行動を分析する科学のことを、「公理的意思決定論」といいます。

一方、上では、「観察される」と言っていますが、何をもって観察されたとするのか、あまり自明ではありません。当然、観察はデータに依らなければなりません。このようなデータを基にして人々の行動を分析する科学のことを「統計的意思決定論」といいます。

このゼミでは、この2つを研究テーマとします。後者に出てくる「統計」というのは、学問分野としては「ベイズ統計学」なのですが、僕自身の興味の中心は、「古典的な統計学」(回帰分析とか)のそもそもの基礎としてのベイズ統計学にあるので、ゼミでは古典的な(普通の?)統計学の学習に力を入れます。テキストは今年と同じく、浅野・中村著『計量経済学(第2版)』を使う予定です。

また、ゼミでは特に、「Mathematica」という数式処理ソフトと、「TeX」という数式用ワープロソフトの習得に力を入れます。上記テキストの輪読、ソフトウェアの実習、プラス、ゼミの時間に行う「社会科見学」がゼミの柱となる予定です。

これに加え、毎年、他大学とインターゼミを開催していますので、この準備も秋学期から本格化します。4年生は卒論も書かなければなりません。遊んでいる暇はありません。(大嘘)

2. 学生への要望

映画好きであること。これに尽きます。というか、そうでないと、僕のゼミはまったく面白くないと思います。僕は、「学生は勉強をする暇があるのであれば、映画を一本でも多く見た方が良い」と半ば本気で思っています。僕自身、高校・大学と、勉強もしないで映画ばかり見ていました。それでも、今、何とかなっています。(そういうものです。)

トリュフォー、タルコフスキー、ヴィスコンティ、フェリーニ、ヴェンダース、黒澤といった映画作家たちの名品の数々に、若いときに触れておくことは、本当に大事だと思います。ヨーロッパ系が多いですね。ノーランでも、タランティーノでもいいです。とにかく観てください。はなしはそれからです。

3. 選考について

① 募集人数：A 日程、B 日程合わせて15名以内。募集人員をA 日程で満たせばB 日程選考は行いません。

② 選考内容：筆記試験と面接を行います。筆記試験では、あらかじめ出題範囲を指定します。HPを確認してください。(来年度は、大河ドラマ『真田丸』から出題予定。)

③ 選考基準：筆記試験、面接を総合的に評価します。

4. ゼミ員構成

3年生 15名(男 13名、女 2名)(留学中0名)
4年生 17名(男 12名、女 5名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ 火曜 4、5 限
- ② サブゼミ なし
- ③ パートゼミ パートごと
- ④ インゼミ 毎年 1 月に、東京大学と大阪大学と
- ⑤ 課外活動 社会科見学
- ⑥ 三田祭 パートごとに論文を書きます。
- ⑦ 合宿 今年は金沢に 1 泊 2 日でいきました。

⑧ 授業 今年はゼミ必修なし

⑨ 経費 合宿費

⑩ ゼミ試験対策で使用した参考書 入門 ベイズ統計学

⑪ 先生が担当している講義

マクロ経済学初級 1 (日吉、木曜 1 限)

マクロ経済学中級 1 (三田、月曜 1 限)

数理経済学Ⅱ (三田、月曜三限)

⑫ ゼミ HP

⑬ 連絡先

外ゼミ代表 守屋祐一郎

連絡先 yuichiomoriya95@gmail.com

内ゼミ代表 小宮山泰郎

連絡先 yasuo_komiyama@a8.keio.jp

入ゼミ担当 宮本歩美

連絡先 miyamoto-ayumi@keio.jp

坂井豊貴研究会

—社会的選択理論・マーケットデザイン—

1. 研究分野

社会的選択理論：多数決は意思集約の仕組みとして性能が劣悪です。似た選択肢たちで票が割れて、よく分からない選択肢が漁夫の利で勝つとか、ロクなものではない。しかし、もっとましな代替案を探索すると、結構あります。例えば、1位に3点、2位に2点、3位に1点といったスコア式は、わりとよいです。どのような意味でよいのか？ これを問うには数理的な定式化と分析が必要です。

マーケットデザイン：「市場の失敗」という言葉がありますが、そもそも市場を成功させるのはなかなか大変です。いちいち「失敗」っていうほどのことではない。だいたい皆さん、机と椅子をうまく売れますか？ 机と椅子を単独でほしい人や、セットでほしい人など、いろんな買い手がいるなかで、利潤を最大化する売り方は何でしょう？ パッケージ付き同時競り上げ式オークションはそのひとつの解答です。これは周波数オークションで実用された新しい市場のルールで、各国政府（日本除く）は数兆円単位の収益を上げました。

どうすればよりましな投票ルールが作れるか？ 市場ルールが作れるか？ こうした設計可能性問題をゼミでは主に扱います。ゲーム理論を多く援用します。

こうしたテーマはとても先端的ですし、実用性も高いですが、より知的レベルを上げるために、ゼミでは思想的背景として政治哲学などの文献輪読も（けっこう熱心に）やります。

2016年度は John Rawls, *Lectures on the History of Political Philosophy* の、ルソーに関する章を勉強しています。最初は難しいかもですが、長時間集中して読むと、体が慣れます。若いうちにそのへんの体力をつけておくと、人生の都合上、いろいろ便利です。

2. 学生への要望

私の HP やブログ（検索で容易に見つかる）には、初学者用に書いた新聞記事や雑誌原稿などを置いてあるので、それらを参考にしてください。

ゼミは「学びの場」なので、志望者には「ゼミで学ぶ意欲」を強く求めます。ゼミを学びの場として成立させることは、私ひとりでは到底できません。ともに半学半教してくれるあなたの参加を心より歓迎します。

3. 選考について

- ① 募集人数：A・B 日程合わせて 15 名程度。A 日程で十分な人数が集まった場合は、B 日程を開催しない（これまで開催したことなし）。
- ② 選考内容：成績、願書、面接で総合的に評価します。筆記試験はやりません。
- ③ 選考基準：日吉での成績を重視します。次いで、願書と面接で判断します。

願書では、遠慮なく、あなたの知性や関心についてアピールしてください。アルバイトとサークルに関する記述は避けてください。

もし「自分の成績の、ここを評価してほしい」という点がある場合は、それについて書いていただいても結構です。

もし「成績で自分を判断するのは不見識だ」と思う場合は、それについて書いていただいても結構です。

4月の新歓合宿では河口湖、8月の夏合宿は伊豆にて行いました。

4. ゼミ員構成

3年生 18名(男16名、女2名)(留学中2名)

4年生 12名(男9名、女3名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (水曜4・5限)

3年生による社会的選択理論等に関するテキストの輪読や4年生による卒業論文に向けた研究報告を行います。輪読では事前に割り当てられた担当範囲を板書を用いながら発表します。疑問点は各ゼミ生が自由に質問でき、議論を通して解決していきます。また、要所では先生が補足をしてくださることもあります。

本ゼミに使われる教材は毎年変わっていく予定です。

② サブゼミ (金曜4限)

サブゼミはゼミ生の自主性に任されて行われています。今年度の春学期には本ゼミでの学習の補助のために解析学の勉強を進めました。証明を行うにあたって、疑問点は4年生が指導し議論を行う等して解決しています。

秋学期は主に三田祭論文についてグループごとの研究内容の発表とそれに関する討論を行います。

③ パートゼミ

パートゼミは今年度行っておりません。

④ インゼミ

11月に早稲田大学の船木ゼミと合同でお互いの研究成果の発表を行う予定です。

⑤ 課外活動

ゼミナール委員会主催のソフトボール大会への参加、定期的な懇親会やイベントを開くなどしてゼミ生相互の親睦を深め、ゼミの時間以外でも楽しく行っています。

⑥ 三田祭

今年度は3チームにわかれてそれぞれ研究を行い論文を執筆し、発表する予定です。

⑦ 合宿

⑧ 夏休み

夏休みは毎年合宿を行っています。また、三田祭論文を執筆するチームはその他にミーティングを行いました。

⑨ 授業

今年度はゼミ必修の授業として
ミクロ経済学中級Ⅰ
ゲームの理論
解析学Ⅱ
が指定されています。

⑩ 経費

合宿費、ゼミで使用するテキスト代等があります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

坂井豊貴(2015)「多数決を疑う」岩波新書

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学初級Ⅰ (日吉、木曜日2限)

ミクロ経済学中級Ⅰ (三田、水曜日3限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/sakai/index.html>

9. 連絡先

外ゼミ代表 前田 凌佑

内ゼミ代表 横山 領

入ゼミ担当 橋川 丈一郎

keio.sakaiseminar.2016@gmail.com



塩澤修平研究会

—理論経済学・金融経済学—

1. 研究分野

理論経済学および金融論を含むその応用を対象とします。望ましい金融システムのあり方や、適正な消費税率、TPP参加の意味など、現在まさに進行している問題についても取り上げます。

学生は理論パート、金融パート、応用パートの少なくともひとつに属し、与えられた課題についての共同研究を行います。本ゼミの内容は以下の通りです。

(1) 指定する基本文献の講読および問題演習

理論経済学の基礎となる英文文献について、3年生全員毎週課題レポートの提出、発表者は毎回ランダムに決定します。

(2) パート別課題報告

各パートによる課題の報告で、内容・発表者についてはパート内で決定します。

(3) 4年生卒業論文報告

個別の研究計画に基づいて、卒業論文を作成します。

2013年度3年生パートゼミ課題は以下です。

理論：動学マクロ理論、ゲーム理論

金融：金融機関と社会が共に発展していくには？

応用：食糧安全保障と税制、「ふるさと投資」（地域活性化小口投資）」

2. 学生への要望

ゼミに相応な時間を割くことができ、2年間集中力を持続できる学生を前提とします。

精緻な理論的訓練と応用面での広範な論議を通じて、現実の経済社会を認識し評価する知性とバランス感覚を養うことがこの研究会の目的のひとつです。入会者は、研究報告・討論への積極的な参加が望まれ、

現実との対応を念頭においた明晰な論理的分析が求められます。また、ISFJ (Inter-University Seminar for the Future of Japan: 日本政策学生会議) 参加など、他大学との交流も重視しています。

3. 選考について

④ 募集人員：15名

⑤ 選考内容：筆記試験（ミクロ経済学、英文和訳）、面接（担当者によるもの、および学生によるもの）、日吉の成績表

⑥ 選考基準：上記の総合評価によります。経済学部以外の学生も同一基準です。

トボール、バレーボール、サッカーなどのスポーツも行います。

4. ゼミ員構成

4年生(28期生) : 16人(男10人、女6人)

3年生(29期生) : 15人(男10人、女5人)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (火曜4・5限)
三年生は経済学に関する英語の文献(主にミクロ)の輪読、四年生は各パートの論文発表を行い、六月からは三年生も各パートによる研究課題の発表を行います。後期はパート発表のほかに、三田祭論文や卒業論文などの研究発表を行います。
- ② サブゼミ (月曜4・5限)
金融Aパート、金融Bパート、理論パート、応用パートの四つのパートに分かれてパートごとに興味のある分野について研究を行います。
また、全体では本ゼミの予習や、グループディスカッションを行うなど自主性をもって活動しています。
- ③ パートゼミ
主にサブゼミの時間を使ってパートごとに研究課題の発表準備を行います。また、発表が近くなるとサブゼミの時間以外にも集まって研究を行います。
- ④ インゼミ
今年度は行っていません。
- ⑤ 課外活動
今年度は行っていません。
- ⑥ 三田祭
パートごとに自由にテーマを設定し、興味ある分野について研究、発表を行います。
- ⑦ 合宿
新歓合宿
ゼミ員同士での交流を深めることを主な目的に、河口湖にて一泊二日の合宿を行います。
夏合宿
こちらは三泊四日で行います。各パートの研究発表と、四年生の卒業論文の中間発表が中心となりますが、ソフ

⑧ 夏休み

主に合宿や三田祭での発表の準備を行います。

⑨ 授業

基本的にゼミ必修はありません。自由に時間割を組むことができます。

⑩ 経費

四月にゼミ費用として3000円を集めます。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

演習ミクロ経済学(武隈愼一著 新世社)

7. 先生が担当している講義

金融論a(三田 秋 木曜日2限)

NPO 経済論(三田 秋 火曜日3限)

8. ゼミHP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/shiozawa/index.html>

9. 連絡先

外ゼミ代表 加藤将太郎

shogdaeb0069@gmail.com

内ゼミ代表 浜松明瑠

merunosuke@gmail.com

入ゼミ代表 ジアティユセフ健

youssefziati@gmail.com

須田伸一研究会

—理論経済学—

1. 研究分野

理論経済学は、複雑な現実経済を分析するために抽象的な理論モデルを構築し、そのモデルの性質を調べることによって、現実経済の動きに対する洞察を得ようとする学問である。つまり、複雑な現実経済を抽象化して捉えたものが理論であり、理論は現実経済を理解するための地図である。理論の理解ができてはじめて、経済現象を「説明」することができるようになる。モデルを構築する際の考え方の違いによって、理論経済学は伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学に分類されているが、最近ではどちらの分野でも経済主体(家計、企業、政府などの意思決定主体)の最適化行動に基礎を置いてモデルが作成されるようになり、そのためミクロとマクロの方法論上の差異は縮まってきている。また、ゲーム理論、契約理論といった分析道具も、近年の理論経済学の研究には欠かせなくなってきた。私の専門分野は、ミクロ経済学の中の一般均衡理論という学問分野であるが、研究会では理論経済学一般の知識を身に付け、それを応用して現実経済を分析する能力を養うことを目的としている。また理論経済学は前提となる仮定から推論を一つ一つ積み上げていくものなので、その学習は論理的な考え方を身に付けるためにも役立つだろう。

なお、理論モデルを分析するときには、しばしば数学の論理が使用される。なぜなら、数学を用いると、推論をすばやく、しかも正確に行うことが可能になるからである。たとえて言うならば、言葉だけを用いて推論することが徒歩で目的地にたどり着くことに対応し、数学を用いて推論することは電車に乗って目的地にたどり着くことに対応する。つまり、数学を用いることはそれだけ時間を節約することになるが、間違えた電車に乗ってしまえば、目的地とは似ても似つかない別の地点にたどり着いてしまうこともある。そのため、理論経済学を研究するときには数式に惑わされて変な結論を得ないように、数式展開を暗記するだけでなく、その内容を理解することが求められる。しかし、いったん数学的推論に慣れてしまえば、だれの目も

明らかな形で推論を進めることができるので、これほど便利なものはない。

2. 学生への要望

必修科目のマクロ経済学初級、ミクロ経済学初級(入門)の単位は取っておいてもらいたい。また、数学アレルギーのある学生には向かない分野だと思うが、かといって高度な数学を知っている必要はない。数学については日吉設置の微分・積分や線形代数の内容を理解していれば、あとは研究会に入ってから勉強すれば何とかなる。それよりも重要なのは、理論経済学に対する(漠然としたものでよいから)興味と、論理的思考の癖であろう。

3. 選考について

- ⑧ 募集人員：10-15名程度
- ⑨ 選考内容：ミクロ経済学、マクロ経済学、英語について基礎的理解を問う筆記試験。成績表のコピー提出。面接。
- ⑩ 選考基準：筆記試験の点数、面接の印象、1、2年の成績、さらには研究会申込書の内容を考慮に入れて総合的に判断する。

4. ゼミ構成員

3年生 11名(男11名)

4年生 12名(男9名、女3名)

5.活動内容

① 本ゼミ (水曜 4・5限)

本ゼミでは教科書の輪読をしています。担当者が与えられた教科書の範囲のレジュメを作成し、ゼミ生に対してプレゼンをします。そのプレゼンに対し教授がアドバイスやフィードバックをします。取り上げる内容は1年ごとにマクロ経済とミクロ経済を交互に取り扱っております。

② サブゼミ (金曜 4・5限)

サブゼミでは、主に4年生による指導の下、本ゼミと同じような形で教科書の輪読、三田論の準備などを行っております。

③ パートゼミ

グループに分かれ、グループごとに三田祭論文出展に向けて研究活動を行います。テーマは理論モデルを使ったものであれば自由に設定可能です。

④ インゼミ

行っていません。

⑤ 課外活動

行っていません。

⑥ 三田祭

各パートで論文を作成し発表を行います。

⑦ 合宿

新歓合宿:5月頃に1泊2日で行います。
新しくゼミに入った3年生の交流を深める機会になります
夏合宿:9月頃に2泊3日で行います。
3年生は三田論の中間発表、4年生は卒業論文の中間発表を行います。

⑧ 夏休み

三田論発表に向け各パートで集まり、発表の準備をします。

⑨ 授業

マクロ経済学中級
ミクロ経済学中級
ゲームの理論
(いずれもゼミ必修科目)

⑩ 経費

合宿代や教科書代等がかかります。加えて経ゼミ費 2000円がかかります。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

日吉のマクロ経済学、ミクロ経済学の授業で使用した参考書やレジュメを復習して理解していれば十分です。

7.先生が担当している講義

ミクロ経済学入門 I (春(日吉)、火曜日
1限)

8.ゼミ HP

なし

9.連絡先

外ゼミ代表 富山 徳仁

giantnoripanda@gmail.com

入ゼミ担当 坂本 壮

jpopxfile.fakeshow.fly@gmail.com

清水 憲彬

noriaki.s.0503@gmail.com

玉田康成研究会

一 ミクロ経済学, インセンティブ・契約理論, 産業組織論

1. 研究分野

研究の対象

従来の価格理論に加え, ゲーム理論, インセンティブ・契約理論を分析ツールとして獲得したことでミクロ経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し, それは経済学の全分野に及んでいる. そのキーワードとしては「インセンティブ」, 「戦略」, 「情報」, 「競争と協調」などをあげることができる. これらのキーワードが相互に密接に関連しているのはもちろんであるが, とくに, 経済主体に適切なインセンティブを与える方法は何かという問題意識を設定し研究を行いたい. 市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり, 経済主体が情報を戦略的に活用すると, 典型的にはモラルハザードなどの問題が発生し, 経済の効率性を損なうことになる. このことは最近頻発している企業不祥事などを見ても分かるだろう. インセンティブ問題を理論と現実の両面から研究することに中心をおく.

さらに, 上記キーワードを軸とした研究対象をより広範囲に考えると企業戦略・企業組織(産業組織論), 法と経済学, 公共経済学, 労働経済学などがある. ゼミ生は自らの関心に従って研究対象を選ぶことになる. 広い意味では当研究会の研究分野はミクロ経済理論とその応用といえる.

研究会の目標と運営方法

当研究会の目標は「専門的知識としての経済学の習得と現実経済の分析」にある. 教養を人や社会とのかかわり方とすると, 重要な柱は「視点の確立」と「視野の拡大」の2つに求められる. 現実経済に対する視野を広げ問題意識を培うことは重要だが, 視点の裏づけがない問題意識はしばしば直感のみに頼った結論や処方箋に帰結する. だが経済学的真理は直感的にも正しいが, 直感的に妥当と思えることは必ずしも正しくはない. 謎に満ちた現実経済から問題を見つけ分析するためには, 謎を解き明かす視点の確立が不可欠である. 他方, 視点を確立したとしても, 視野を広げ問題意識を持たなければ何も視ていないことと同じである. 視点を確立した上で視野を広げていく, これが現代的な意味での教養につながると思っている. 当研究会ではミクロ経済理論を「視点」にあて, 「視野」は現実の経済現象すべてに及ぶ. 経済理論を習得することにより, 現実の経済現象を普遍的な

10. ゼミ員構成

眼差しで見ることができ, 国際的にも確立された共通の基盤の上に立つことができる.

本ゼミでは教科書を用いてゲーム理論や産業組織論, 契約理論などの正確な理解を目指す. そして現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む. さらに3年生はサブゼミとパートゼミに参加する. サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け教科書の輪読を行う. パートゼミでは具体的な研究テーマについて分かれて研究をおこない, その成果を三田祭論文やインゼミに結実させる. 4年生は卒論の作成をおこなう. 卒論は経済学の知識と自らの具体的な関心を1つの構築物として作成するものであり研究会活動の目標である. テーマ選びの自由度は高い.

2. 学生への要望

1. 学問に対する敬意と現実に対する関心, ゼミ活動への熱意のすべてを兼ね備えた学生の応募を望む.
2. 論理的思考に抵抗がないことが重要である. ミクロ経済学やマクロ経済学の授業を「面白い」と思えることが必要条件である.
3. 経済学の知識をセールスポイントにしたいという意欲を持って欲しい.

3. 選考について

1. 募集人数: 17名. A日程のみ募集する.
2. 選考方法: 筆記試験: **60%**
研究プラン(筆記試験時にA4紙に15行以内で作成. 事前に考えておくこと) + 入ゼミ願書+面接: **40%**
研究プランでは入ゼミ後に研究してみたいトピックを1つ選び, 「なぜそのトピックを研究したいのか」という問題意識と「どのような結論を導きたいか」という展望を「自由に」表現してください.
3. 筆記試験: 80分の教室内試験. 出題範

囲はミクロ経済学初級 I, II. 次のHPを参考にするとよい. (パスワード管理されています)
<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tamada/microhiyosh>

4. ゼミ員構成

- 3年生 19名(男 13名、女 6名)(留学中 0名)
4年生 22名(男 11名、女 11名)(留学中 0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜 4, 5 限)
テキスト(3, 4 年生各 1 冊)の輪読が担当者によるプレゼンテーション形式で進められます。先生から適宜アドバイスをいただき、ゼミ生は理解を深めます。
- ② サブゼミ(火曜 4 限)
3 年生のみで、本ゼミとは違うテキストを輪読します。
- ③ パートゼミ(水曜 5 限)
3 年生がパートに分かれて自主的に進めます。今年はインセンティブ、行動ファイナンス、ソフトバンクを通じたモバイル産業、ディズニーリゾートの企業戦略というテーマを扱っています。各パート、三田祭に向けて論文を作成中です。
- ④ インゼミ
去年度は大阪大学の安田洋佑ゼミとインゼミを行いました。今年度は安田洋佑ゼミに加え名古屋大学の花園誠ゼミともインゼミを行う予定です。
- ⑤ 課外活動
特になし
- ⑥ 三田祭
三田祭では、3 年生はパートゼミで行った研究結果を発表します。
- ⑦ 夏休み
夏休みでは各自、夏合宿の中間報告に向けて準備をしています。
- ⑧ 合宿
今年度の夏合宿は静岡県の伊豆で行いました。夏合宿では毎年三田祭論文と卒業論文の中間報告を行います。
- ⑨ 授業
火曜 3 限、水曜 2 限のミクロ経済学中級、水曜 3 限の産業組織論、金曜 2 限のゲーム理論などが推奨されています。
- ⑩ 経費
合宿費 30000 円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

先生の授業のレジュメや期末テストの過去問、ゼミ試の過去問を利用している人が多いようです。

11. 先生が担当している講義

ミクロ経済学初級 I (日吉、木曜日 1 限)

ミクロ経済学初級 II (日吉、火曜日 2 限)

ミクロ経済学中級 IIb (三田、水曜日 2 限)

12. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/tamada/>

13. 連絡先

外ゼミ代表 家次 恭亮
sugu.leadoffman@gmail.com

内ゼミ代表 成田 昌弘
nanananarinarinarita@gmail.com

入ゼミ担当 関井 俊介
shunsukesekii0109@gmail.com



中村慎助研究会

—理論経済学・公共経済学—

1. 研究分野

私の研究分野は厚生経済学、特にメカニズム・デザインや社会的選択の理論です。理想的な状態における完全競争市場は、参加者である各消費者や生産者が利己的で合理的な行動を行った場合に、パレート効率性を実現する事は「厚生経済学の基本定理」として広く知られています。また、不完全情報や公共財の存在等がある場合には市場がパレート効率性を実現出来ない現象は「市場の失敗」と呼ばれています。2007年にノーベル経済学賞を受賞したLeonid Hurwicz 教授を嚆矢とするメカニズム・デザイン論は、このように市場が失敗する状況において、市場を補完あるいは代替する事によって、厚生上望ましいと判断されたターゲットを利己的で合理的な経済人が構成する社会において実現する事の出来る制度の設計を目的としています。この性質上、分析にはゲームの理論が多く用いられています。

一方、最近の実験経済学の進展により、人は実際には必ずしも合理的に行動せず、他者に影響されたり、リスクを過小や過大に評価したりする事によって、従来ゲームの理論で前提とされてきたものとは異なった行動様式を持つことが明らかとなってきました。これを前提とした理論的、実証的な分析が行動経済学です。

最近の関心は、人の限定合理性を前提とした経済モデルを用いて、制度設計論の再構築を行う事にあります。

本研究会は、もう少し広く理論経済学及び公共経済学に関心のある学生を対象としています。諸君はマクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱ及びミクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱを通じて理論経済学の初歩を学んだことと思います。当研究会の目的はその理論を更に深め、またその応用として経済政策論や財政論の基礎である公共経済学を研究することにあります。

2. 学生への要望

研究会の活動は、いわゆる本ゼミと3年次の共同論文の作成、4年次の卒業論文の作成、並びにゼミ生の自主性に任せるサブゼミ、パートゼミに分かれます。本ゼミでは上記範囲より適宜、基本的な文献を選んで輪読します。通常は「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「公共経済学」の3分野より2分野の教科書を選び、

それぞれ本ゼミないしサブゼミで読むこととなります。3年生及び4年生各2、3名ずつ計4、5名で一つのグループを作り、各グループが各回の報告を責任を持って行います。その際には、PowerPoint またはそれに相当するプレゼンテーションツールを用い、また、レジュメを配布することによる、分かりやすいプレゼンテーションが期待されます。ここでは、いかに積極的に討論に参加したか、又、いかに自分の理解したことや自分の考えたこと、意見を正確に説得力を持って伝えられるかが問われます。また、3年生は、2ないし3つのテーマを選び、テーマごとのグループに分かれて共同研究を行います。夏合宿において中間報告を行いそのでの討論によってテーマを一つに絞り、三田祭において最終的な研究発表を行います。

4年生の卒業論文のテーマは原則として自由とします。しかしながら論文は次の三点を目標とします。

- (1) いかに強いモチベーションを持っているか
- (2) 当該分野でどんな新しい事実あるいは結果を発見したか
- (3) 自分の興味ならびに発見をいかに正確に読者に伝えるか

3年次の冬休み明けに各自、卒業論文のテーマを決定・報告し、春休み明けに研究予定の提出、夏合宿において中間報告、4年次冬休み明けに最終提出し、卒業論文報告会を開催する予定です。

本研究会に参加を希望する学生には積極的な態度での議論参加と不断の努力を期待します。

3. 選考について

- ①募集人員：15名程度
- ②選考内容：筆記試験（ミクロ経済学）
面接試験
成績表のコピー

③選考基準：上記を総合的に判断する。
なお、A日程合格者数によってB日程の試験を行わないことがあります。

4. ゼミ員構成

3年生 14名(男9名、女5名)(留学中0名)
4年生 16名(男13名、女3名)(留学中0名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜 4・5 限)
前期はミクロ経済学や公共経済学のテキストの輪読を行い、後期は卒論や三田論の発表を行います。
毎週担当者が PowerPoint とレジメを用いてプレゼンテーションをし、教授の鋭いご指摘や解説を通して、理解を深めていきます。
輪読の準備、発表を通じてプレゼン能力を向上させることも、大切な目的のひとつになっています。
- ② サブゼミ (木曜 2 限)
3年生のみで自主的に行うゼミ活動です。曜日・内容は自分達で話し合っ決めて決めます。今年度は、応用経済学の知識を広げるために、『マーケットデザイン入門』(坂井豊貴著)の輪読を行いました。
- ③ パートゼミ
グループに分かれ、三田論に向けて自主的に活動しています。
今年度のテーマは、『CtoC ビジネス』『旅行積立制度』『第四次産業革命』となっています。
- ④ インゼミ
本年度は行いません。
- ⑤ 課外活動
ソフトボール大会に参加しています。
- ⑥ 三田祭
上記3つのパートゼミ単位で論文発表を行います。
- ⑦ 合宿
・新歓合宿 (1泊2日)
ゴールデンウィーク前後に都内で集まり、教授・ゼミ員同士の親睦を深めます。OBOGの方もいらっしゃいます。
・夏合宿 (2泊3日)
3年生は三田論、4年生は卒論の中間発表を行います。花火や BBQ などのレクリエーションも盛りだくさんです。
- ⑧ 夏休み
夏合宿に向けて各自が論文作成に取り組みます。3年生はパートごとに集ま

って三田論の作成にあたります。

- ⑨ 授業
ゼミ指定の必修科目は特にありません。
- ⑩ 経費
新歓合宿費、夏合宿費など。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

過去問演習が最も有効であり、基本的なミクロ経済学のテキストであれば対応出来ます。以下の参考書を利用したゼミ員が多いようです。

『入門ミクロ経済学』
ハル・R・ヴァリアン著 勁草書房
『演習 ミクロ経済学』
武隈 慎一著 新世社

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学初級 I (日吉、火曜日 2 限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/nakamura/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 中島 未稀
miki4940.rarely@gmail.com

内ゼミ代表 伊藤 純
junfootbaaaall@gmail.com

入ゼミ担当 青柳 和希
nakamurashinsuke.seminar@gmail.com

【Twitter】 @SeminarNakamura



藤原一平研究会 (他学部)

可)

—マクロ経済学・国際金融論—

1. 研究分野

私の研究分野は、マクロ経済学、国際金融論となります。経済について、システム全体（一般均衡）で捉えて、その変動の要因を探求し、あるべき政策の姿を模索することに関心を持っています。最近の研究には、「世界全体が名目金利のゼロ金利制約に直面する下での最適な国際金融協調のあり方」、「ニュースが景気循環にどのような影響を与えるか」、といったものがあります。具体的な研究内容については、<https://sites.google.com/site/ippeifujiwara/>を参照ください。

同時に、学術誌以外（日経新聞、日経ビジネス、経済産業研究所のコラム、East Asian Forum、等）への寄稿や、経済政策に関するイベントの企画およびそうした場での発表を通じて、現実の政策問題を経済理論に則して、わかりやすく理解することにも努めています。

ゼミで取り組みたい研究分野もマクロ経済学・国際金融論を中心に考えていますが、これに限りません。ゼミ生が自分の関心のあるトピックについて、経済学的に説明できるようになることが大切と考えています。

①経済学的思考および分析手法の学習、②テーマに取り組み、何らかの結論を導出することによって、「経済現象を理論的に理解する」、また、「これを説得的に説明する」能力の習得、③グローバル化した社会で働くことを強く意識すること、の3つを大きな目的としています。いずれも、社会人となった際に、必ず有益なスキルになると考えています。

①については、私が担当する「中級マクロ経済学」をゼミ生必修とするほか、ゼミでは、エッセイ執筆、経済問題の討論、PC教室でのデータを用いた講義などで習得することを想定しています。

②については、卒論作成を通じて個人として、また、インゼミ（東京大学青木ゼミとは、年末の共同研究発表会だけでなく、毎週お互いのゼミを数名が参加する交換留学を行っています）、その他の研

究発表を通じてチームとして、個々が関心あるテーマについて研究に取り組む機会を設ける予定です。

③については、海外の大学での教職経験、また、その他の海外での活動を背景に、例えば、海外トップスクールに在籍する同世代の学生が、「どのような意識を持って大学で学んでいるのか」、「どのような将来展望を持ち、それに向かって準備しているのか」といったことを適宜紹介したいと思っています。また、今年度同様、社会で活躍されている方々による特別講義も月に一度程度開催する方針です（詳しくはゼミのHPをみてください）。

2. 学生への要望

大学時代のゼミの最も素晴らしいことは、様々なバックグラウンドを持った友人と出会えることだと思います。部、サークル、アルバイト等を通じたつながりも素晴らしいものですが、ゼミという新しい軸を通じた友人は、その後の人生にとって、かけがえのないものとなるはずです。このため、ゼミの活動に積極的、かつ自発的に取り組む学生を希望します。

学生時代に、学業だけでない様々な経験をすることは素晴らしいことです。しかし、大学は、本質的には、将来に役立つ思考法を身につけることです。このため、ゼミでは、卒論、共同研究に真摯に取り組むことができる人を希望します。

自分の関心があるテーマを自力で見つけ、これを分析対象として設定でき、さらに、粘り強くあきらめずに自身で設定した問いに対する答えを導き出せるような学生と一緒に勉強できることを願っています。

3. 選考について

①募集人員：15名程度

②選考内容：レポートと面接（個別）と成績

③選考基準：レポート、面接では、以下の点を重視しています：(a)自分の考えを説得的に表現できるか？(b)様々な（経済）問題に対し、ロジカルな解決策を提示できるか？

レポート課題としては、例年通りの「ゼミへの志望動機」に加え、マクロ経済トピックについての見解を問う問題の2つを考えています。

4. ゼミ員構成

3年生 20名(男 10名、女 10名)(留学中 4名)

4年生 24名(男 13名、女 11名)(留学中 1名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (月曜 4・5 限)

毎週、経済指標の分析と経済雑誌の記事の発表を行います。経済指標の分析は、株価・為替・日経平均株価の変動の分析、政府や日銀が適宜公表した経済指標の解説をゼミ生が発表します。現実の経済で何が起きているのか学び、メディアに流されずに自分の頭で考える力を身に付けます。経済雑誌の記事の発表は、著名な経済学者が執筆した記事の内容を要約し、考察と共にゼミ生が発表します。発表後は、ディスカッションを行い、ゼミ生同士で意見を共有します。藤原先生も経済モデルの提案や、新たな視点からアドバイスをしてくださります。

また、月に 1 回程度、実社会でご活躍されている方をゼミにお呼びし、お話して頂きます。ゼミ生からの質問にも丁寧に答えてくださり、視野を広げ、教養を深めることができます。

② サブゼミ (水曜 4・5 限)

金融論の輪読、日本経済新聞の記事の発表を行っています。金融論の輪読は、『現代の金融入門【新版】』を用いて、毎回担当者が発表をします。金融論に苦手意識があっても、サブゼミでしっかりと前提となる知識をつけることができます。また、日本経済新聞の記事の発表を通して、様々な時事問題について知識を得ることができ、ディスカッションやディベートを通して理解を深めます。

③ パートゼミ

夏期休暇以降は三田祭論文のパートで適宜 1~2 週間に 1 回程度集まり、研究を進めていきます。

④ インゼミ

東京大学の青木浩介ゼミと行います。

年末に合同で研究発表会を開催するほか、毎週、お互いのゼミを数名が訪問しあう交換留学制度も導入しています

⑤ 課外活動

今年度は FinTech summit に参加しました(希望者のみ)。希望があればその他の論文コンテストに参加することもできます。また、日銀・東証の見学やソフトボール大会への出場もしており、積極的に課外活動を行っています。

⑥ 三田祭

パートごとに三田祭論文を執筆し、三田祭で発表します。自分の関心のあるテーマをもとに 5 名程度で 1 つのパートをつくり、活動します。

⑦ 夏休み

三田祭論文に向けて、各パートが論文執筆に取り組みます。9 月上旬にある合宿で中間報告を行いました。

⑧ 合宿

今年度は 9 月の月上旬に 2 泊 3 日で静岡県へ行きました。各パート三田祭論文の中間報告と質疑応答、ディスカッションなどを行います。

⑨ 授業

[ゼミ必修]

マクロ経済学中級 I b (三田、秋学期、月曜日 3 限)

⑩ 経費

輪読書の購入費の他に、ゼミ費、合宿費を適宜集めます。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

レポートと面接を行うため、各自必要に応じて参考書を使用してください。

7. 先生が担当している講義

・マクロ経済学初級 II (日吉、秋学期、火曜日 1 限)

・ELEMENTARY MACROECONOMICS (PEARL) (日吉、秋学期、火曜日 2 限)

・マクロ経済学中級 I b (三田、秋学期月曜日 3 限)

・ADVANCED MACROECONOMICS / TOPICS IN MACROECONOMICS (三田、秋学期、火曜日 3 限)

・マクロ経済学演習 (三田、春秋学期、火曜日 4 限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/fujiwara/>

twitter アカウント: @fujiwarazemi

9. 連絡先

外ゼミ代表 駒野 誠一

連絡先: s.komano55@gmail.com

内ゼミ代表 片脇 卓

連絡先: katakata.5207@gmail.com

入ゼミ担当 江口 崇之

連絡先: takayuki.eguchi0706@gmail.com

穂刈 享研究会

—マイクロ経済学・ゲーム理論—

• 研究分野

マイクロ経済学とゲーム理論のテキストの輪読を行います。また、それと平行して、経済学の古典や他の分野の文献の輪読を行うこともあります。

これまでで使用したテキスト

- H. ヴァリアン『入門マイクロ経済学』勁草書房, 2007年
- 根岸隆『マイクロ経済学講義』東大出版会, 1989年
- R. ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995年
- 奥野正寛『マイクロ経済学』東大出版会, 2008年
- Xavier Freixas, Jean-Charles Rochet. *Microeconomics of Banking*. 2nd edition, MIT Press, 2008.
- P. ミルグロム, J. ロバーツ『組織の経済学』NTT出版, 1997年
- 神取道宏『マイクロ経済学の力』日本評論社, 2014年
- 澤木久之『シグナリングのゲーム理論』勁草書房, 2014年

今後テキストとして使用する文献の候補

- 中村真幸・石黒真吾(編)『比較制度分析・入門』有斐閣, 2010年
- 柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社, 2000年
- 青木昌彦・奥野正寛(編著)『経済システムの比較制度分析』東大出版会, 1996年
- E. P. ラジアー『人事と組織の経済学』日本経済新聞社, 1998年
- A. ディキシット, B. ネイルバフ『戦略的思考をどう実践するか: エール大学式「ゲーム理論」の活用法』阪急コミュニケーションズ, 2010年
- Thomas C. Schelling. *Micromotives and Macrobehavior*. Norton, 1978

• 学生への要望

基本的に毎回休まずに出席すること。

• 選考について

- 募集人員: A 日程 5 名程度, B 日程 5 名程度
- 選考内容: 筆記試験(マイクロ経済学)と面接. 成績表の提出あり.

4. ゼミ員構成

3年生 10名(男 8名、女 2名)(留学中 0名)
4年生 8名(男 8名、女 0名)(留学中 0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜4・5限)

穂刈ゼミではゲーム理論・マイクロ経済学についての文献の輪読を行います。輪読は、事前に指名された生徒がプレゼンの形でその内容を説明する形式です。ゼミ員はみな和気藹々と取組み、かつ先生からの鋭い指摘により経済学について深く学ぶことができます。非協力・協力ゲーム理論はもちろんのこと、経済学の基本的知識や数学について多くのことを吸収できます。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

ソフトボール大会など

⑥ 三田祭

三田論発表など

⑦ 夏休み

特になし

⑧ 合宿

2016年度は実施せず

⑨ 授業

「ゲーム理論の歴史」では、ナッシュやゼルテンなどゲーム理論家の論文(原文)を読んでいます。先生がわかりやすい説明や例を交えながら進んでいきます。ゲーム理論黎明期の産声を感じ取ることができます。

⑩ 経費

特になし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

演習マイクロ経済学(武隈慎一著)
日吉のマイクロ経済学初級の過去問など。

7. 先生が担当している講義

ゲーム理論の歴史(三田、春学期金曜日 3限)

専門外国書講読(三田、春学期火曜日 3限)

Intermediate Micro Economics 1a(マイクロ経済学中級1a)(三田、秋学期火曜日 3限)

専門外国書講読(三田、秋学期水曜日 2限)

ゲーム理論b(三田、秋学期金曜日 2限)

経済思想の歴史II(日吉、秋学期月曜日 1限)

自由研究セミナー(日吉、秋学期月曜日 2限)

マイクロ経済学初級II(日吉、秋学期木曜日 2限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/hokari/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 田辺 翼

連絡先 tsubasa.wing11@icloud.com

内ゼミ代表 廣島 拓弥

連絡先 hirotaku789@gmail.com

入ゼミ担当 田中 俊輔

連絡先 rits_st@yahoo.co.jp

人口論
行動経済
都市計画
応用分析
医療経済
財政社会学
政策研究

津谷典子研究会

大垣昌夫研究会

長谷川淳一研究会

マッケンジーコリン研
究会

井深陽子研究会

井手英策研究会

北尾早霧研究会

津谷典子研究会

—人口論—

1. 研究分野

この研究会は、世界人口の増加、先進諸国における人口高齢化、その要因である死亡率低下と少子化などの人口学の主要トピックを広く学び、またこれらの人口変動と社会経済発展との関係について研究を行うことを目的としています。人口の規模や構造の変化は、それ自体重要な研究課題ですが、これらの変化はまたその国の経済発展・開発と結びつき、資源・環境への影響も大きく、労働力や消費への影響を通じて経済成長を左右する事柄でもあります。また死亡率や出生率の変化の背景にある結婚や家族、そして女性の地位・役割の変化などについても、この研究会では注目していきたいと思っています。

研究対象としては、現代日本のみならず、戦前や明治・徳川期の人口を扱うことも可能ですし、また日本以外のアジアの国々や西欧先進諸国との比較、および発展途上諸国の動向も含みます。また、人口学では人口および社会経済をデータを使って実証的に分析するため、人口データの種類やそのソース、統計データの読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎、およびコンピューターを使用したデータの集計や解析についても、実習を通じて手ほどきします。

より具体的に説明すると、この研究会は、①英文文献輪読と発表、②各自の卒業論文、③三田祭でのゼミとしての研究報告、の三つの活動を中心に運営します。まず、文献輪読と発表は、3・4年次を通じての研究会の活動であり、人口学およびそれに関連したトピックに関する英文文献を読み、その内容を報告し、それについて質疑応答をしていきます。文献は、3年次の前期には専門的な知識がないことを考慮して、基礎的なものを講師が選定します。基礎的な文献をカバーした後、ゼミ生諸君の興味に応じて、より応用的な文献を選び検討していきます。

次に、卒業論文ですが、課題の選定および執筆は主に3年次秋学期と4年次に集中して取り組みます。そのための卒論のテーマの選定は3年次の夏休み前に行い、これについては、講師

が個別指導をします。そして、3年次秋学期から4年次にかけて、各自の卒論の報告を複数回本ゼミ中に行います。

最後に、サブゼミの活動として、ゼミ全体での研究報告を三田祭にて行います。ここでは、ゼミ生全員が相談してテーマを選び、自主的に研究活動を進め、その成果を口頭およびレポートとして発表します。講師はゼミ合宿の場などで適宜相談に応じます。

2. 学生への要望

学問や研究が好きなことが重要であることはもちろんですが、この研究会では計量的な統計的データを扱うため、数学アレルギーがない人、そして統計学の基礎を学んだ人が望ましいです。また、人口学関連の文献（特に最新の文献や研究についての文献）は英語である場合が多いため、英語に対してもアレルギーのない人が良いと思います。

3. 選考について

①募集人数

A日程、B日程合わせて10～15人程度

②選考内容

英文読解（辞書持ち込み可）、教授面接、学生面接

4. ゼミ員構成

3年生 15名(男13名、女2名)(留学中2名)
4年生 14名(男11名、女3名)

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜3・4限)
3年の前期は、Asia-Pacific Population & Policyという人口論に関する英語の論文を輪読し、その発表を二人一組のペアで各組二回行います。6月の下旬頃から徐々に卒論のテーマを絞り、卒論プロポーザルの完成を目指します。3年後期は、4年生の卒論報告を聞きながら、自分たちの卒論を具体化していき、必要なデータを集め、執筆を始めます。4年生は基本的に卒論の執筆を行い、ゼミ中に発表を行います。
- ② サブゼミ
なし
- ③ パートゼミ
なし
- ④ インゼミ
なし
- ⑤ 課外活動
他大学を巻き込んだ企画があります。
- ⑥ 三田祭
三田論の発表を行います。テーマ決定から発表までのすべての過程を3年生だけで行います。
- ⑦ 合宿
新歓合宿(4月中旬、1泊2日)と夏合宿(9月中旬、2泊3日)の年2回の合宿があります。新歓合宿は主に親睦を深めることやガイダンスを目的としており、今年は熱海で楽しい時間を過ごしました。夏合宿では、3年生は主に卒論の枠組みの構築及び三田論の発表準備を行い、4年生は先生から卒論の指導を受けます。勉強後には、先生も交えた楽しい飲み会があります。
- ⑧ 夏休み
夏合宿を行います。
- ⑨ 授業
ゼミ生は津谷先生の「人口論 a/b」(基

本科目・春季集中)を必修として履修し、人口論の基礎について学びます。

- ⑩ 経費
合宿費(新歓合宿 10,000円、夏合宿 18,000円)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書 特になし

7. 先生が担当している講義

人口論 a/b (三田、月曜日 1,2限)
演習 a/b (三田、火曜日 1,2限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/tsuya/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 山田健斗
kento-yamada1120@outlook.jp
入ゼミ担当 藤木崇裕
spicy.tornado@gmail.com



大垣昌夫研究会

—行動経済学—

1. 研究分野

担当者は2005年ごろまではマクロ経済学、計量経済学、国際マクロ経済学を専門分野として研究してきましたが、現在の研究分野は主として行動経済学です。行動経済学は最近になって大きな発展をとげた分野で、2002年には行動経済学の業績でカーネマンが、2013年にシラーがノーベル賞を受賞しました。従来の経済学は、利己的で、無限の計算能力を持つという意味で超合理的な「経済人」を仮定しています。行動経済学は、心理学などで使われてきたようなアンケート調査や、経済実験を用いて、「経済人」の仮定の下では説明できない多くの重要な経済行動が現実にあることを示してきました。さらに「経済人」の仮定を用いないさまざまな経済理論が構築されてきて、特にファイナンス、発展経済学などの分野で応用されてきました。

本研究会では学生がグループを作り、行動経済学の仮説をアンケート調査やインタビューなどの行動経済学の手法を用いて実証研究を行なうことを目標とします。3年生は特に「世界観が経済行動に与える影響」というテーマの中で見つけた仮説について、4年生は自由なテーマで、それぞれ1年間かけて研究することとします。

世界観とは、哲学者のカントが使いはじめた言葉とされていて、哲学や文化人類学で、いろいろな意味で使われています。文化人類学では文化との関係で、倫理や規範などの価値観や、何を美しいと感じるかなどの感情も含めます。ゼミでは文化人類学での一つの定義、「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関しての認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組み」を採用しています。行動経済学の研究に用いる目的上、経済学の選好は世界観に含めないのが注意が必要です。

宗教を含む文化、科学、教育などが人々の知識に影響を与え、知識が世界観に影響を与えて、世界観を形成していきます。広大な世界に比べると、人間の認識力や知識には限界があるので、世界観を全く持たないで世界を見ることは不可能です。意識していなくとも、誰でも自分の世界観を持っています。世界に存在する世界観を大きく分類することは可能ですが、厳密には一人

一人が異なる世界観を持っていることとなります。

時代により地域により宗教や文化により、人々は大きく異なるさまざまな世界観を持っています。例えば認知面では日本の調査では「あの世」を信じる割合が、20代では1958年の13%から2008年の49%に上昇しています。また、日本では一神教的な神を信じる人は少ないのに対し、ほとんどのアメリカ人は、神あるいは宇宙的な霊の存在を信じています。

世界観は経済行動に影響します。例えば福澤諭吉が教育活動に力を入れたのは、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず。」という世界観が大きく影響したと考えられます。

2. 学生への要望

担当者の講義「国際経済と行動経済学 ab」は必修かつ要出席とします。「世界観の経済行動への影響」という研究テーマで3年生の一年間研究することに興味のある学生を募集します。グループ研究となるので、自分の特性をグループ研究に生かせることを嬉しく思う学生の参加を期待します。例えば対人関係に積極的な性格な人は、調査対象グループとの交渉の役目をしたり、心理学の授業を取った人は心理学の結果や手法を研究取り入れたり、英語の得意な人は英語の関連研究の論文を研究会で紹介したり、日本語の得意な人はアンケートの調査票でわかりやすい質問を作ったりする、というようなことです。

3. 選考について

- ① 募集人員：約20名
- ② 選考内容：レポートと面接(学生によるもの、および担当者によるもの)。レポートの課題などの詳細はゼミHPに発表されます。
- ③ 選考基準：意欲と興味の度合、共同研究の研究能力、リーディング課題での対話能力を中心に、男女比などのゼミ生のバランスを考慮しつつ総合評価します。バランス上、体育会所属学生は4人までとする予定です。

4. ゼミ員構成

3年生 20名(男12名、女08名、留学0名)
4年生 20名(男13名、女07名、留学0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (月曜4・5限)

3年生の本ゼミ活動は以下の二つに分かれます。

1. リーディング課題の発表・

ディスカッション
ディスカッション課題を読んでディスカッションします。例えば春学期は、入ゼミ課題本でもあるマイケル・サンデルの『これから「正義」の話をしよう』から学んだ世界観を基に、事例に対してグループごとに賛成・反対庭から、意見を発表しディスカッションを行います。教授の考えやアドバイスをもらうこともできるので、既存の経済学とは違う行動経済学の観点をより深く理解することができます。

《今期扱った事例(一部)》

- ・日本政府は死刑を廃止すべきか
- ・アメリカでの奴隷制への補償について、先祖が奴隷を保有した人であっても、本人が奴隷を保有したことのないうる人に補償のための税を課すべきか
- ・公共部門の道徳的・宗教的不一致に対して、政府は積極的に関与すべきか

2. 三田論に向けた研究発表

4人一組の研究グループごとに、「世界観が経済行動に与える影響」に関して、自由にテーマを設定します。三田論に向け、各グループの研究の進捗状況を発表していきます。教授は学生の主体的な研究活動を励まし、的確なリードバックをくださいます。

《本年度研究テーマ一覧》

- ・羞恥心がInstagramのハッシュタグの数に与える影響
- ・向上心が大学生の投資活動に与える影響
- ・自尊心と承認欲求が恋人のプレゼント代に与える影響
- ・精神的幸福が結婚式の披露宴にかけられる金額に与える影響
- ・共同体主義が残業行動に与える影響

4年生は広く行動経済学のテーマで卒業論文研究を中心に活動しています。

② サブゼミ (木曜4・5限)

本ゼミでのディスカッションや三田論に向け、リーディンググループ、研究グループに分かれて課題発表の準備、研究を進めています。

③ パートゼミ

特になし

④ インゼミ

去年から近畿大学経済学部経済心理コースの山根承子ゼミとのインゼミ活動を始めました。

⑤ 課外活動

行動経済学会での研究発表
実験補助等

⑥ 三田祭

三田論の発表を行います。ブースも設けているので、興味のある方はぜひお越しください。

⑦ 合宿

毎年2泊3日の合宿を行っています。合宿では研究のみならず、レクリエーション等を通じてゼミ員の交流を図ります。

⑧ 夏休み

三田論に向けた研究をグループごとに進めます。

⑨ 授業

大垣先生の火曜日 1.2限「国際経済と行動経済学」の履修が必要です。(三田キャンパス/要出席)

⑩ 経費

特になし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『これから「正義」の話をしましょう』(マイケル・サンデル著)

7. 先生が担当している講義

国際経済と行動経済学 a, b(三田、火曜日1・2限)

8. ゼミ HP

HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/ogaki>

Blog <http://mogakisemi.exblog.jp>

9. 連絡先

外ゼミ代表 笹森 慎也

sassa_bz@yahoo.co.jp

内ゼミ代表 青井 優樹

aoiyuki0510@gmail.com

入ゼミ担当 金正雄 (キム ジョンウン)

marineoxy2@outlook.com

長谷川淳一研究会

—都市政策、都市文化—

1. 研究分野

私は、授業では欧米経済史関係の科目を担当しており、そこでは産業革命以降を中心に話しているが、自分自身の研究では現代の日本とイギリス、とくにそれぞれの都市政策や都市文化に注目してきた。そもそもは、イギリスの戦災都市（第二次世界大戦中にドイツ軍の空襲で破壊された都市）の再建を研究し、そこから、福祉国家志向のイギリスの戦後再建やイギリスの都市について検討してきた。

また、日本についても戦災復興を皮切りに、1950年の首都建設法や国土総合開発法の制定を、戦後復興の一環として都市計画・国土計画関連の分野でも新しいシステムが構築されたのか否かという観点から検討してきた。いずれの国においても、ここ30年ほどの規制緩和路線以前の土台を築いた時期であり、改革とはいっても、規制緩和路線とは性質的にむしろ正反対といえるものがすすめられようとした時期ではあった。

最近では、まず、高度成長期であった1960年代に関心を持っている。イギリスに関しては、ウィルソン政権期の改革志向の強い経済政策や、寛容社会の到来についての検討を進めようとしている。この経済政策とは、軍需産業での先端技術を普通の民間産業に広めることで生産性を向上させようとしたテクノロジー省の試みである。寛容社会とは、モッズやスウィング・ロンドンといったことばに象徴されるような、奔放な若者文化のことである。

日本に関しては、佐藤政権期の1968年に、高度成長期の都市問題対策として制定された都市計画法について検討している。また、太陽族、六本木族、みゆき族、原宿族、フーテン族等々、高度成長期の若者文化についての共同研究を進めている。

さらに、災害からの復興や、東京オリンピックを含めた近年の都市開発についても検討している。こうした部分はとくに、ゼミ生も例年大いに関心を寄せ、自分たちの研究の対象としてきたトピックである。

2. 学生への要望

ゼミにおいても、日本やイギリスの戦後史やいま現在の都市に関する政策や文化といったトピックは大いに歓迎したい。

三田祭論文では、昨年は、東京の都市開発と交通、とくに鉄道の発達との関係についての研究を行なった。扱った具体的なトピックは、鉄道国有化までの、日本の鉄道史における黎明期の概観；東京駅開業と丸の内ビジネス街の発展；私鉄の成長；国鉄の分割民営化；山手線の新駅設立と品川再開発であった。

今年の3年生は、本年4月に発生した熊本地震の復興のあり方を、2011年の東日本大震災や1995年の阪神・淡路大震災の復興との比較も視野に入れて、考えていこうとしているところである。

4年生は例年、各自がトピックを考えて、卒論作成に邁進する。

来年、当ゼミの一員となったあかつきには、まずはこの三田祭論文をはじめ、ゼミにおける共同作業・活動に積極的に取り組んでほしい。そのうえで、自分自身で課題を決めて、自分自身の脚（つまり、実地調査やインタビューをしたり、様々な資料を捜し求めたりすること）と頭の両方を駆使して、卒論に取り組めるようになってほしい。

3. 選考について

①募集人員：若干名～10名

②選考内容：筆記試験、面接

③選考基準：筆記試験は、都市政策や復興政策に関する内容を中心としたものにする予定である。また、面接では、どういった研究課題をやりたいのかについて、なぜそれをやりたいのか、それをやることの意義は何なのかをしっかりと述べられるかどうかにも重視したい。その際には、どういう先行研究や、具体的な政策や計画、さらには問題点があるのかを、よりくわしく調べ、したがって、より多く語ることできる者が、より高く評価される。

4. ゼミ員構成

3年生 名(男4名、女0名)(留学中0名)
4年生 名(男5名、女2名)(留学中0名)

5. 活動内容

① 本ゼミ (火曜4・5限)

長谷川先生は日英の戦災都市の復興や都市計画についての研究をなさっており、今期のゼミは先生の論文を輪読して発表しながら理解を深めていくという作業をしました。その後は、三田祭論文に向けて、テーマ決めを行い、今年度は熊本地震の震災復興について研究することとなりました。比較的小規模なゼミであるため、自分の意見が反映されやすいです。先生は学生の自立性を尊重してください基本は学生で進めて細かいところの指示を丁寧に指導していただけます。

② サブゼミ なし

③ パートゼミ なし

④ インゼミ なし

⑤ 課外活動 なし

⑥ 三田祭 参加します

⑦ 夏休み 三田祭に向け数回集まります

⑧ 合宿 なし

⑨ 授業 なし

⑩ 経費 資料代等

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

三田学会誌

7. 先生が担当している講義

欧米経済史(三田、月曜1限、火曜3限)

経済史概論 I(日吉、月曜日3限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/j.hasegawa/>

9. 連絡先

ゼミ代表 山田浩太郎

連絡先

_008nothrow_nolife37_@ezweb.ne.jp

入ゼミ担当 麻見雄介

連絡先

Yuzu1572iheiya@yahoo.co.jp

マッケンジー・コリン

研究会

ヨーロッパ経済・日本経済の実証分析

1. 研究分野

本研究会の分析対象となるのはヨーロッパ経済と日本経済である。イギリスがEUから脱退することを国民投票で決定してからEUの色々なマクロ的やミクロ的な問題が議論されているが、EUの良い点が忘れられたような気がする。本研究会においてEUの長所・短所を研究するが、そのために、日本との比較も行う。日本を考えると、通貨(円)が一つ、財・人・資金は国内で自由に移動することができるが、EUとどこが違うか、その違いはどのような影響があるか等を研究することによって両経済主体の中身をよく知るようになる。

マッケンジーの専門分野は計量経済学ではあるが、良い実証分析をやるのに、分析対象の特徴をよく把握した上で、経済理論(特にミクロ経済学、国際経済学)と計量経済学の手法を両方うまく利用することが大事なので本研究会ではまず春学期にEUの実態や今までの研究について色々英文献を輪読する。この輪読はいくつかの目的があるが、学生はただ文献を読むだけでは駄目で、疑問を持ちながらものを読むように目指す。

ゼミの2年間の活動として

- 1) 春学期前半: EU関係の実証論文等を輪読すること。
- 2) 春学期後半、三田祭に向けてグループ毎に、研究テーマを選び、夏休みの間に行うインゼミ大会において論文を発表する。
- 3) 秋学期には三田祭論文の勉強・研究を進め、研究成果について定期的に報告する。三田祭が終わってから3年生は個人論文の研究を進め、定期的に報告する。それ以外に、毎週学生が興味のあるトピックを選び、ネタを提供してから皆が少人数のグループに分かれ、問題提起について議論した上で、全体で議論する。4年生は卒業論文について選んだテーマに沿って勉強を進め、研究成果について定期的に報告する。

グループの論文、個人論文や卒業論文のテーマはEU経済や日本の経済との関わりが必要であり、計量分析も不可欠となる。本研究会を英語のみで行うので注意して下さい。マッケンジーは留学を強く推奨する。

2. 学生への要望

本研究会では経済理論をベースにし、実証分析を行うため、ミクロ経済学、国際経済学と統計学の基礎を学んだ方が望ましい。担当教授の母語は英語なので英語の得意な方は是非参加して下さい。3年生の時、計量経済学関連の授業を履修する方が望ましい。

マッケンジーは下記の点を重視している。

- ・ ミクロ経済学・国際経済学と計量経済学との相互関係
- ・ パワーポイントによるプレゼンテーション技術を身につけること。
- ・ 英文論文の読み方・書き方について技術を身につけること
- ・ 論理的かつ体系的に議論を展開すること
- ・ 英語の文献を読みこなすこと
- ・ 自分の意見を持ち、相手に正確に伝えること。
- ・ 慶應の豊富な設備(データベース・文献検索システム・計量ソフト・パネルデータ等)の利用
- ・ インゼミ大会(立命館大学・東北大学等)

3. 選考について

- ①募集人員: 10-12名
A日程、B日程ともに行う。合計で10-12人を募集する。A日程で募集人数に達せばB日程選考を行わない。

選考内容:

願書(英語のみ)、成績と面接を総合的に評価するが、面接の質問は研究テーマ、経済学の基本知識、これまで読んできた本、研究会への期待、研究会にどのように貢献できるかなどを含む。ゼミを英語で行うので、教授面接を英語で行う。

- ③選考基準:

ある程度の経済学に関する知識を前提にし、自分の考え方・意見をはっきりと伝えることが一番重要。

連絡先

メール: mckenzie@z8.keio.jp

4. ゼミ員構成

3年生 12名(男8名、女4名)(留学中6名)13
4年生 13名(男4名、女5名)(留学中1名)

入ゼミ担当 笠井里紗

wanwan_ronron_06nchan@yahoo.co.jp

5. 活動内容

- ①本ゼミ (水曜4, 5限)
- ②サブゼミ 行っていません
- ③パートゼミ 行っていません

④インゼミ

今年は8月中旬、立命館大学と東北大学と共に研究内容の発表および三つのテーマについてディベートを行いました。

- ⑤課外活動 行っていません

⑥三田祭

前期に大まかなテーマを決め、夏休みにパートごとに分かれて進めてきました。

⑦夏休み

グループ別に集まってインゼミと三田論の準備を進めました

- ⑧合宿 行っていません

⑨授業

コリンの授業をとる必要はありませんが、計量経済学をとることが勧められています。

- ⑩経費 特にありません

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません

7. 先生が担当している講義

Applied Econometrics(PCP) (三田、春学期金曜日1限)

8. ゼミHP

Twitterにてゼミの情報を随時配信しています。

@Keio_Mckenzie

9. 連絡先

外ゼミ代表 齋藤悠樹
yukisaito0910@outlook.jp

井深陽子研究会

— 医療経済学 —

1. 研究分野

医療経済学は、英語対訳の Health Economics という呼称が示す通り、人間の経済活動と健康の関わりについて学ぶ経済学の一分野です。

経済は個人や企業、政府の活動から成り立っています。これまで皆さんが学んだ経済の動きを学ぶ理論において、健康という要素を明示的に扱うことは無かったかもしれませんが、実際の経済活動の多くの部分で健康という要素が様々な形で関わってきます。

例えば、ミクロ経済学で学んだ労働と余暇にそれぞれどれだけの時間を投入するかという問題を考えてみましょう。ジムなどで体を動かすことに時間をあてるのか（余暇）、それともその時間をアルバイトにあてるのか（労働）、というような意思決定は、日常的に行われていることでしょう。この様な意思決定は、経済活動と個人の健康状態の両方に影響を及ぼします。すなわち、健康状態と経済活動は相互依存関係にあるわけです。

国家は個人の集合体からなりますから、このような個人の単位での健康と経済活動の依存関係は、国の経済政策や医療保健政策を考える上でも重要になります。

本研究会では、医療経済学の諸課題をデータを用いて実証的に分析することを目指します。経済学は人間の意志決定や経済の動きを精緻な理論を用いて分析することが大きな特徴です。同時に、構築された経済理論が妥当であるのかについて、データを用いて検証する実証研究が、1990 年前後を境にますます重要になってきていることが

専門の学会誌においても指摘されています。

政策の議論において、Evidenced-based という言葉がよく聞かれますが、実際に行われた政策の有効性を評価する政策評価の分析は実証分析の一つの形態です。実証分析の一つの魅力は、ある政策の効果を評価する場合に、効果があったかどうか、だけではなく、その効果がどの程度の大きさであったか、を定量的に評価することができる点です。

本研究会では、実証分析に必要な計量経済学の手法を学んだ上で、その手法を利用した医療経済分野の研究を学びます。

2. 学生への要望

医療経済学 (Health Economics) は、経済学においては、比較的新興の分野であり、未だ解明されていない問題がたくさんあります。最近では、日本でも科学的根拠を提供するのに十分な質の高い個票（主に個人レベル）のデータが入手可能となり、この様な諸問題を分析する能力を有する人材の必要性が一層高まっています。研究分野の内容に加え、この様な点に魅力を感じる方を歓迎いたします。

研究会は少人数で学ぶことの出来る貴重な機会です。少人数であるということは、どの場においても、一人一人の果たす役割が非常に重要になってきます。個人の果たす役割の重要性を十分に理解して、研究会活動を行っていただけの方を希望します。

また、積極的であることは、研究会活動を自分にとって、また担当教員を含めたメンバー全員にとって充実したものにするために重要です。ただし、積極性のあり方には色々ありますので、必ずしもリーダーシップを取ることを得意とするこ

とを求めるわけではなく、自分にあった積極性を追求して下さることを期待しています。

最後に、本研究会は2年目の新しい研究会ですので、皆さんのアイデアや行動により盛り上げて下さることを楽しみにしています。

3. 選考について

- 1 募集人員：10名前後
- 2 選考内容：A) ミクロ経済学、統計学、英語の筆記試験(合計で90分)、B) 面接、C) 成績表
- 3 選考基準：A) からC) より総合的に判断。

着手し、グループごとに数回集まり、その経過報告などを行います。

4. ゼミ員構成

3年生 6名(男5名、女1名)(留学中0名)
新規ゼミのため4年生は0名

5. 活動内容

- ① 本ゼミ (水曜5限)
主に、行動経済学、医療経済学分野の文献を輪読します。今年の春学期には、『貧乏人の経済学』A・V・バナジー&E・デュフロ著を輪読しました。毎週1人が章を担当し、文献の内容の解説を含め発表をし、先生も含めゼミ員全員で話し合うことで疑問点を解決します。また、ゼミの開始の15分程度を用いて、各自が持ち込んだ時事ニュースのうち一つを発表し、それについて全員で質疑応答を通して発表をしています。
- ② サブゼミ (木曜5限)
学生のみで行われます。主に、医療経済学分野の本を輪読し発表することで、各々の理解を深める狙いがあります。また、三田祭論文のテーマについてもこの時に話し合ったりします。
- ③ パートゼミ
パートゼミは設置しておりません。三田祭論文の作成にあたって、期間限定でグループを作り、各自作業に当たっています。
- ④ インゼミ
三田祭論文作成にかねて、2, 3回ほどのインゼミを計画しています。慶應内のゼミの他、法政大学などのゼミとのインゼミをする予定です。
- ⑤ 課外活動
特に、行っていませんが、個々人の希望などによって行われる可能性があります。
- ⑥ 三田祭
三田祭期間中には、三田祭論文を発表する予定です。
- ⑦ 夏休み
夏休みの期間中は、三田祭論文作成に向けて、個々人で与えられた課題に

- ⑧ 合宿
夏休みの終わりに、1泊2日で合宿を行います。そこでは、三田祭論文の各グループの進捗状況、これからの展望などを発表し、またそこでは先生も交えて、合同で話し合いをします。また、レクリエーションなども行い、ゼミ員の親睦も深めます。
- ⑨ 授業
ゼミ必須授業として、水曜4限の演習(通年)、木曜2限の井深陽子先生の医療経済学(春学期)があります。また、強く推奨する授業として、火曜1, 2限の演習(春学期)があります。
- ⑩ 経費
経費は、教科書代とゼミ合宿台などで年間約3万円ほどかかるかと思いません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

基本的な問題が多いため、どの教科書でも大丈夫だと思われそうですが、今年度のゼミ員が使用した中で多かったものは、
『演習ミクロ経済学』武隈慎一(新世社)
『はじめの統計学』鳥居泰彦(日本経済新聞出版社)
です。

7. 先生が担当している講義

医療経済学(三田、木曜日2限春学期)
Health Economics (三田、木曜日2限秋学期)

8. ゼミHP

http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/i_buka/index.html

9. 連絡先

外ゼミ代表 桑原 倫香
連絡先 kuwaharamichika@gmail.com
内ゼミ代表 加藤 雄志
連絡先
入ゼミ担当 友野 皓介
連絡先 tmn.ko@keio.jp

井手英策研究会

—財政社会学・社会問題—

1. 研究分野

僕の担当科目は財政社会学、社会問題です。歴史的なアプローチから財政や社会の問題について学んでいます。近年、経済のグローバル化にもなって、日本社会のありかたは大きな変化を遂げつつあります。こうした社会の変容を、戦前以来の政府のありかたとの関連から研究しています。とくに、経済的要因だけではなく、信頼や規範といった社会的要因が財政運営にどのような影響を与え、そのことが社会にどのような反作用を与えているのかに関心を持っています。

2. 学生への要望

ゼミでは3つのイベントがあります。1) 春に広島県の介護施設を訪ねる、2) 夏休みに全国の大学と合同ゼミをひらく、3) 12月に京都大学との討論会をおこなう、です。これらすべてへの参加が単位取得の前提ですので、サークル等のイベントとの調整をできることが入ゼミの条件となります。春学期は古典の輪読と合同ゼミへの準備をします。それらをもとに討論会へのペーパーを書き上げるのが秋学期の課題です。サブゼミでの準備もあるため、ゼミの活動は相当活発になっています。研究会を学生生活の中心にできない諸君には大きな負担になりますが、「2年間思いっきり勉強したい」という意欲のある学生諸君にとってはやりがいのあるゼミです。僕も可能な限り時間を割いています。やる気のある学生の応募を期待しています。

3. 選考について

- ①募集人員：10名強
- ②選考内容：ペーパー提出と面接。
- ③選考基準：意欲、情熱、コモンセンス。

4. ゼミ員構成

3年生 10名(男7名、女3名)(留学中 0名)
4年生 12名(男7名、女5名)(留学中 0名)

5. 活動内容

①本ゼミ (金曜 4, 5限)

春学期は数理的なモデルのみでは捉えきれない財政という現象に関して、伝統的な古典を用いその根本を学ぶと同時に、歴史を紐解くことで現代の日本財政や社会が抱える問題点を有機的に見つめて議論を交わしました。秋学期は従来の輪読に加え、12月におこなわれるインゼミに向けての論文執筆、またそれについての討論や実地調査もおこなっていく予定です。

②サブゼミ (火曜 4限)

3年生のみでおこなわれ、現代財政の制度的構造や細かな知識の習得を目標としています。本ゼミや今後のゼミでの議論をより充実したものにするための大切な時間です。

③パートゼミ

春学期の終わりから2班に分かれて論文執筆を進めていき、秋学期は必要に応じておこなっていくつもりです。

④インゼミ

慶應義塾大学金子勝研究会と京都大学諸富徹研究会とともにおこなうインゼミが、今年度は12月に慶應大学で開催されます。各研究会が執筆した論文発表とそれに関する議論をおこないます。

⑤課外活動

GWには小田原で開催された北條五代祭りで希望者が神輿を担ぎました。

⑥三田祭

今年度は、三田祭での論文発表および展示はおこないません。質問などがあれば末尾に記載した連絡先までお問い合わせください。もちろん、入ゼミ説明会でも質問を受け付けております。

⑦夏休み

例年通り論文執筆のための会議や実地調査の時間に充てていました。それと同時に今年度は、8月終わりに開催された日本各地の6大学(埼玉大学、下関市立大学、帝京大学、東北学院大学、弘前大学、桃山学院大学)との合同勉強会に参加しました。桃山学院大学のキャンパスでおこない、各大学の調査報告をもとに議論を交わしました。互いの学習意欲を高めることができたのは言うまでもなく、他大学の学生と語り合い、時間を共にできたことはかけがえのない経験であったと思います。

⑧合宿

今年度は5月に、広島県三原市と福山市を訪れました。三原市では、児童発達支援と放課後等デイサービスの施設を見学し、過疎化が進む現実を前に、思いをめぐらしながら、子育てを応援する地域の人々の心を知りました。福山市ではNPO法人が運営する介護施設を訪問しました。非営利団体を地域のなかにいかに根付かせるのかという実践を、法人が主催する祭りを手伝う傍らつぶさに学ぶことができました。

⑨授業

ゼミ必修の授業はありませんが、井手先生の三田での講義は多くのゼミ生が履修しています。

⑩経費

ゼミで使用する参考書代と、合宿やインゼミでの交通費や宿泊費が必要経費です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

対策用として指定する参考書は特にありません。ただし、井手先生の著書である『日本財政転換の指針』(岩波新書)や『財政赤字の淵源 寛容な社会の条件を考える』(有斐閣)、『経済の時代の終焉』(岩波書店)などを読むのはとても勉強になるでしょう。

7. 先生が担当している講義

社会問題Ⅱ (春) (日吉、火曜日 5限)

財政社会学 a/b (秋) (三田、金曜日 2, 3限)

8. ゼミ HP

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/ideseminar/>

(ゼミ Twitter @ideseminar)

9. 連絡先

外ゼミ代表 藪越 大輔

連絡先 yaboo.iy@gmail.com

内ゼミ代表 石倉 はるか

連絡先 haruparu0401@gmail.com

入ゼミ担当 安達 栄作

連絡先 with2731sea@keio.jp

北尾早霧研究会

—財政・社会保障、マクロ経済学—

1. 研究分野

担当教員の専門は、税制や社会保障制度による影響をミクロの個人による意思決定をベースとしたマクロ経済モデルを使った研究です。

本研究会では日本が直面するさまざまな財政・社会保障問題やマクロ経済に関する政策研究を行います。春学期に教科書の輪読を通して、日本における財政・社会保障問題の概要と経済学的な分析方法について学びます。同時に新聞や雑誌などに掲載された時事問題について発表・議論し、問題意識を高めていきます。

本研究会の特徴としては、経済政策の影響を個人や企業に与えるインセンティブといったミクロの視点、それからGDP成長率や財政赤字といった変数に要約されるマクロの視点の両方から捉える訓練をします。また、政策決定における社会的、政治的なせめぎあいを現実問題として理解しつつ、経済学を専攻する学生として現実から一步下がり理論的な考察も加えた厚みのある議論ができるようになることを目指します。ミクロとマクロ、理論と現実のバランスを取りつつ研究会の活動を進めていきます。

議論に上る具体的なトピックとしては、高齢化問題、年金制度と財政の持続可能性、少子化対策、労働力の減少、医療・介護保険制度改革、所得・資産格差問題、税制改革などが挙げられます。輪読する文献は参加者の興味関心、研究会の進度に応じて決定します。

2. 学生への要望

経済政策に興味があり、問題意識を持ってオリジナリティのある研究をしてみたいと思う学生の参加を望みます。

担当者の研究分野は上記のように財政、社会保障制度についてのマクロ経済分析が中心ですが、広く経済政策に関することであれば原則研究論文テーマの選択は学生の自由意志に任せます。

ゼミでは教科書を読み研究するだけでなく時事問題に関する議論や個人・チームによるプレゼンテーションを積極的に行います。これらが現時点で得意である必要はありませんが、ゼミ参加を通じて調査

研究、議論、発表のスキルを身につけたいと思ひ努力する意思があることが条件です。議論に積極的に参加し、質問を投げかけたり自分の意見を述べることを期待します。

ゼミは木曜の午前(1、2限)です。限られた時間の中で集中してメリハリのある学習を望む学生を希望します。授業に参加しなければ単位は与えないので朝が苦手であったり正当な理由なく遅刻・欠席しがちな人には向きません。

研究会以外の時間にゼミ生が集まりサブゼミや課外活動をするのはゼミ生の自由意思に任せます。

研究職(大学院進学・留学や研究機関就職)を志望する人や留学生も歓迎です。

使用言語は基本日本語ですが、論文執筆や発表は日本語、英語どちらでもかまいません。ゼミでは日本経済の話が中心になりますが、他国の経済政策についての研究も可能です。2年目で少人数のゼミなので参加者の興味関心、要望に柔軟に対応します。

3. 選考について

①募集人員：約10名

②選考内容：

1. レポート提出。

(A) 興味のある経済問題を一つ選び、問題を要約し自分の考えや望ましい政策について自由に論述(A4で3枚以内)

(B) ゼミと担当教員に期待すること、ゼミでやりたいこと(A4で1枚以内)

2. 教授面接、学生面接

3. 成績表

③選考基準：レポート、面接、成績で総合的に判断します。研究意欲、問題意識、論理的思考力、基礎学力の有無に注目します。

4. ゼミ構成員

3年生(1期生) : 14人(男子:11人
女子:3人) (うち他学部1人、留学生2人)

5. 活動内容

- (ア) 本ゼミ: 木曜1,2限
- (イ) サブゼミ: 各自
- (ウ) 三田祭: 論文の発表
- (エ) 経費: 特になし

6. 先生が担当している授業

MONEY, BANKING, AND FINANCE B(金
融論b) (春(三田)、火曜日2限)

Introduction to the Japanese
economy (秋(日吉)、火曜日1限)

7. 連絡先

外ゼミ代表 大西 陸 仁
rikutoo0802@keio.jp

入ゼミ担当 伊丹 梨 乃
rinoitami@keio.jp

募集再開

廣瀬康生研究会

ゼミ

廣瀬康生研究会

—マクロ経済モデル分析—

1. 研究分野

マクロ経済モデルは、(1)現実の複雑な経済構造の理解を助けるための単純化、(2)経済情勢が今後どのように推移するか予測、(3)政策変更の影響を計るシミュレーション、などを行うことができる分析ツールです。本研究会では、参加者がこうした分析手法を習得し、各自の問題意識に応じてモデル分析ができるようになることを目標とします。

マクロ経済モデルには様々な種類が存在しますが、本研究会では特に、フォワードルッキングな経済主体の最適化行動から導かれる行動方程式と市場の均衡条件を組み合わせた「動学的確率的一般均衡モデル (DSGE モデル: Dynamic Stochastic General Equilibrium Model)」を研究対象とします。DSGE モデルは、政策の波及効果を考える上で重要となる経済主体の期待の役割を明示的に取り込んでいるなど、政策分析に適した性質を有していることから、世界中の主要中央銀行や国際機関においても近年盛んに開発・運用が行われています。

DSGE モデルの理解には、大学院レベルの知識が不可欠だと考えられていますが、少人数でじっくりと取り組むことができるというゼミの利点を生かせば、学部生にも十分習得可能だと思っています。

研究会では、まず、輪読または講義を通じて「DSGE モデルとは何か」、「DSGE モデルがなぜ必要か」といった点について理解を深めます。その間、DSGE モデルを理解する上で必要となる経済学と数学の知識も同時に学んでいくことになります。次に、行列演算ソフトウェアである MATLAB を用いて、モデルの解法やシミュレーション技法を身につけます。最終的には、参加者が自ら DSGE モデルを構築し、現実のマクロ経済分析（経済変動の要因や財政・金融政策に関する分析など）に活用することを目指します。

2. 学生への要望

学部中～上級レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、微分積分、線形代数、統計学の知識が必要となります。具体的には、以下のテキストを自力で読めることを前提とします。

・ George McCandless, *The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models*, Harvard University Press, 2008.

・ 加藤涼『現代マクロ経済学講義—動学的一般モデル入門』東洋経済新報社、2006年。

参加者は研究会の時間以外にも、各自積極的に研究時間を確保することが求められます。

来年度再開のゼミです。以前の活動内容は、ゼミ生による研究会 HP を参考にしてください。
<http://seminar.econ.keio.ac.jp/hirose/>

私の専門分野および研究内容については、以下の HP を参照してください。

<http://sites.google.com/site/yasuohirose/>

3. 選考について

① 募集人員：5～10名

② 選考内容：レポートおよび面接（日吉での履修科目・成績を重視します。）

PCP

研究プロジェクト

PCP

・PCPとは？

Professional Career Programme (PCP) は、慶應義塾大学経済学部が、カリキュラム改革の一環として、2005 年度に学部内に設置したプログラムです。新カリキュラムは、卒業後のキャリア・パスを明確に意識させることによって学生の学習意欲を喚起し、同時に教育サービスを向上させるために導入されました。

原則として経済学部の 3・4 年生を対象に、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ英語で提供します。講義・授業中の質疑応答・試験のほか、コーディネーターとの会話・連絡は、すべて英語で行われます。

・PCP の目的

PCP は、職業人として世界的に活躍するキャリアを築くことを目指す学生および、国内外の大学院・専門職大学院(法科大学院、行政大学院、ビジネススクール、開発関連大学院などのプロフェッショナル・スクール) に進学することを視野に入れている学生のために開設されました。以下の 2 つの側面において学生の指導を行うことにより、国際的な視野に立つ人材・未来への先導を行う真のリーダーを育成します。経済学専門科目の学習・リサーチ・スキルの習得：このプログラムに参加する学生は、まず基礎となる経済学的な考え方および数量的分析手法を習得します。その後、各自の興味に従って複数の専攻コースの中から一つを選択し、より専門的な領域の基礎知識を学びます。各設置科目の中では政策論が積極的に取り入れられているため、学生は政策分析の枠組についての

理解を深めることができます。そして共同研究と個別研究を通じて、リサーチ・スキルを高めます。

語学スキルの向上：授業や試験は勿論、コーディネーターとの会話や連絡が全て英語で行われます。さらに、英語以外の外国語を学習することも奨励されています。将来のキャリア計画を見据えたうえで語学能力を向上させることができます。

履修許可は選抜された学部 3・4 年生のみに与えます(選抜は 2 年次の終わりに行います)。

PCP の履修科目は全て卒業単位として計算され、プログラム内の科目全てに合格した学生には、塾長と学部長連名の修了証が発行されます。研究会・研究プロジェクトとの並行履修も、制度上は可能です。なお、研究プロジェクトとの同時履修をする場合は、それぞれのプログラムコーディネーターに申し出て、研究テーマの内容などについて事前に相談してください(単位履修その他の評価に影響する場合があります)。

・教育目標

PCP では、次のような教育目標の達成を目指しています。

- 基礎となる経済学的な考え方の習得。
- 数量的分析手法の習得。
- 関連する経済学領域の基礎の習得、政策論的分析枠組みの理解。
- 共同研究・個別研究を通じての、論文作成・プレゼンテーションを含むリサーチ・スキルの学習。
- プロフェッショナル・キャリアを見据えた語学スキル(英語・第二外国語)の習得。

ゼミを基軸にした大学教育との違い

従来、慶應義塾大学経済学部のエデュケーションサービスは、「講義科目」のほか、少人数教育としては「研究志向の強いゼミ」のみがありました。これに対し PCP を加えた新しい教育サービスでは、少人数教育の選択肢として、ゼミのほかに「研究プロジェクト」と「PCP」があります。PCP では、英語による実践的な経済学教育を少人数で行うことによって、国際社会で活躍する人材・研究能力の高い人材を育成します

ゼミ HP
<http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp>

連絡先

外ゼミ代表 清水咲蓉子
連絡先 sayokokshimizu@gmail.com
入ゼミ担当 高樋葉
連絡先 shiori.takatoi@yahoo.com



ゼミ員構成

3年生 49名(男 34名、女 14名)(留学中 12名)
4年生 10名(男 5名、女 5名)(留学中 0名)

活動内容

⑤課外活動

毎年、韓国の延世大学、中国の精華大学と合同で、ABF というプログラムを開いており、参加しています。今年は韓国が舞台でした。

⑥三田祭

PCP として三田祭で活動することはありません。

⑦夏休み

PCP で強制的に集まるイベントはありませんが、ABF に参加する生徒や、インターン、別のサマースクールに参加する生徒等、様々です。

⑧合宿

四年生主催で年に一度行います。

⑨授業

Academic Writing, FPGE, Independent Study の必修科目に加え PCP 設置の Major Classes の中から最低 8 科目選択してもらいます。

⑩経費

教科書代、合宿費等で 3 万円ほど

ゼミ試験対策で使用した参考書

2017 年度からゼミ試験はなくなります。PCP 申込書を記入の上、TOEFL または IELTS と学業成績表と共に学生部に提出してください。

先生が担当している講義

PCP 設置科目をご覧ください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp/curriculum>

研究プロジェクト

・研究プロジェクトとは？

経済学部で2005年度に始まった研究プロジェクトは、学生が自らのテーマを選び、学部選任教員の指導のもと、1年間で論文や作品を完成させるコースです。テーマは経済学に限りません。社会科学、自然科学、人文科学、どの学術分野を選んでも構いませんし、芸術作品などの創作を行うこともできます。今までに100人以上の学生が履修し、街づくりや現代医療、さらには音楽、映画、建築など幅広いテーマで研究成果を発表してきました。過去の研究成果に関しては、経済学部HPの研究プロジェクトのサイトをご覧ください。

研究プロジェクトは研究プロジェクト ab 研究プロジェクト C の2つの科目から成り立っています。研究プロジェクト ab では、指導教員に論文や作品を完成するまで指導してもらいます。この大きな特徴は、徹底した少人数制です。1人の教員がこのプロジェクトで指導できる学生は5人までとなっています。そのため、学術的な問いの立て方から文献の調べ方、論文を書く際の作法まできめ細やかな個別指導を受けることができます。

一方、研究プロジェクト C は、研究プロジェクトを履修した学生全員を対象に、論文の書き方講習会や、各自の研究の報告会など2～3か月ごとに開催します。これらは、プロジェクト履修生間の交流の場になると同時に、自分の研究の進捗状況がどのあたりなのかを客観的に把握してもらう機会となります。特に、中間報告会と最終報告会は一般公開となりますので、門外漢にも自分の研究内容を正確に伝えること

が要求されます。例年、これらの報告会では、履修生やその他の聴衆から活発な意見交換が行われ、知的刺激に満ちた場となっています。また、最終成果の要旨は全員インターネット上で公開することが義務付けられています。履修生の研究成果を広く知ってもらうことが主な目的ですが、それと同時に、履修生には研究内容に対する責任を意識してもらうことが求められます。

・履修までの手順

(1) 指導教員を探す

研究プロジェクトを履修するためにはまず指導してくれる教員を探さなくてはなりません。経済学部船員教員の中から自分のテーマに近い研究を探し、指導を依頼してください。指導教員がうまく見つからない、依頼したい教員への連絡の取り方が分からないといった場合は、研究プロジェクトのサイトから「問い合わせ用紙」をダウンロードし、必要事項を記入した後、後述のコーディネーター問い合わせ先までご相談ください。

(2) 履修申し込み

指導教員が決まったら、今度は「申込用紙」をダウンロードし、記入したうえで学生部に提出してください。

履修申込受付期間は以下の日程となります。

本募集 1月30日(に月)～2月6日(月)

三田学生部・日吉学生部にて受付

追加募集 3月15日(水)、16日(木) 三田学生部のみで受付

申し込み手続きの詳細については、研究プロジェクトのサイトの「履修申し込みについて」に

書かれていますのでご覧ください

(3) 履修登録

履修許可を得て、4月に履修登録を済ませれば履修のための手続きは全て完了です。

履修についてのよくある質問は、経済学部 HP にある、研究プロジェクトの頁の Q&A にもまとめてあります。こちらも参考にしてください。

ゼミ員構成

14名

活動内容

① 本ゼミ (指導教授と相談)

担当教授との週1度の授業で、研究プロジェクト A、B と呼ばれる。曜日や時間帯は教授との相談の上で決めることができる。授業としては1週間分の自分の研究成果を報告し、教授からアドバイスをもらう。自己管理能力と自発性が求められる。教授との議論が白熱し、数時間がすでに経っていたということもよくあることである。

② サブゼミ (隔月土曜3, 4限)

研プロ受講生皆で集まって行う授業で、研究プロジェクト C と呼ばれる。基本的に隔月で土曜に行われる。基本的に研究プロジェクトは一人で研究を行うものであるが、研究の進捗状況や情報を共有することが本授業の目的となっている。論文の書き方やプレゼンの仕方などが授業のテーマとなっている。なお、③以降は研究プロジェクト C の具体的な講座について記述する。

③ 論文の書き方講習会

論文の書き方を基礎からわかりやすく学ぶことができるのが本講座である。言葉づかいから章立てに渡るまで丁寧に説明してくれ、パソコンを用いた論文の書き方についてもここで取り扱う。なお、研究プロジェクトは自分の研究状況を発表する場でもあり、本講座では「表現する力」を養うことが目的である。今年度は5月と11月に行われる。

④ アウトライン報告会、プレゼン講習会

研究プロジェクトの論文は自分の興味に基づいて行われるため、論文テーマは千差万別である。しかし論文とは決して自己完結であってはならない。論文とは人に読んでもらうためのものである。自分の研

究分野をよく知らない人にもわかりやすく伝える必要がある。この点を補うのが本講座であり、「伝える力」を養うのが目的である。今年度は6月に行われた。

⑤ 中間報告会

本格的な報告会の1つで、1人当たりの持ち時間を正確に決め、その時間内で自分の研究の進捗状況や仮説・論証をプレゼンする。教授や志高い1・2年生が見に来ることもよくある。自分の研究状況を確認する場であるが、中途半端な研究や進捗状況が遅いと檄が飛ぶこともしばしば見られる。今年度は10月22日に行われる。

⑥ 最終報告会

論文提出後の毎年2月に行われ、一般公開される会でもある。つまり、教授や学生はもちろん、近隣の一般の方も参加する。これまで研究した成果を、これまで取得した力の全てを賭けて発表する場である。ここでも鋭い質問が飛びかい、質問に対する確に答えられないと非常にづらい思いをするかもしれない。だが、このころには自分の研究に対する知識は豊富であり、それを相手にうまく伝えることもできるようになっているであろう。そして同時に、他人の発表を聞き、適切な批判や質問をできるようになっているであろう。この会と、その後の打ち上げをもって研究プロジェクトは終了となる。

⑦ 課外活動

研究内容によっては、関係者へのヒアリングや現地訪問などの課外活動も行う。研究という名目で、普段は話せないような相手にヒアリングをすることもできるので、貴重な経験になることは間違えないだろう。

ゼミ試験対策で使用した参考書

研究プロジェクトではゼミ試験は存在しないが、研究計画書を提出する必要がある。しっかりした研究計画書を書くためには、研究内容に関する参考文献に目を通しておく必要があるだろう。

先生が担当している講義

指導を依頼した教授による

ゼミ HP

<http://www.econ.keio.ac.jp/kpro/>

連絡先

研究プロジェクト TA 連絡先

kpro_ta-group@keio.jp

研究プロジェクトコーディネーター連絡先

kpro-group@keio.jp

経済学部第2回入ゼミ説明会冊子

発行年月日：2016年10月15日

発行責任者：東松理沙子

編集責任者：李侑珍

大塚雄登

鈴木亮也

東松理沙子

印刷：梅沢印刷所

企画・発行：経済学部ゼミナール委員会

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

学生団体ルーム 31 番